

東京府

本府ヨリノ出品ハ中形染、毛斯繪友禪染、無地染、裏地染、絞染、手拭染、裾模様染、更紗染、印半纏染、緋小紋染、長襦袢及人造麻布等ニシテ就中中形染最モ多數ヲ占メ毛斯繪友禪染之ニ亞ギ其他ハ少數ナリ、

中形染 本府ノ特産物ニシテ技術ノ進歩顯著ナルノミナラズ圖案ニ於テモ穩健ナルモノ多シ蓋シ是等ノ意匠圖案タル世間嗜好ノ變化常ナラザルヲ以テ一日モ其研究ヲ苟ニスベカラズ、今回出品ノ多クハ此點ニ留意セルアルハ喜ブベシ、就中中村合名會社出品中形染ハ技術意匠共ニ佳良ナリ、

毛斯繪友禪染 本府ハ大阪府ニ亞ギ産類多量ナルガ其ノ出品ニ於テモ大阪府ト伯仲ノ間ニアリ、又其ノ技術タル一部ニ於テ長足ノ進歩ヲナシ、營業者研究ノ跡歴然タルモノアリテ松阪晴吉出品毛斯繪友禪染ハ其圖案配列ノ優美ナルト其染色技工ノ巧妙ナルト兩ラ賞讃ノ價値アリ然レドモ出品中ニハ往々意匠圖案ノ奇想ニ趨リ穩當ヲ缺キシガ如キモノ亦之ナキニ非ザリシハ遺憾ニシテ特ニ營業者ノ注意ヲ希望シテ止マザル所ナリ、

無地染、裏地染 本府ハ由來裏地染ヲ以テ名アリシト雖今回ノ出品ヲ觀察スルニ其ノ染色技工著シキ進歩ナク且堅牢度ニ於ルモ又仕上ニ於テモ之ヲ京都府ノ出品ニ對シ聊カ遜色アルハ遺憾トスル所ナリ切ニ營業者ノ研究ト奮勵トヲ望ム

其ノ他ノモノハ出品少數ナルヲ以テ之ガ批評ヲ省略ス

京都府

本府ノ出品ハ無地染、裏地染最多數ニシテ絹布及天鵝絨友禪染之ニ亞ギ小紋染、裾模様染、長襦袢及帶側染、更紗染、中形染、染緋、鹿子絞、捺染、半襟染、帛紗、手拭染、紋上繪、板縮染、及染色見本等多少ノ出品アリタリ、

無地染裏地染 本府ハ由來東京府ニ一籌ヲ輸シタリシガ今回ノ出品ニ就テ觀察スルニ近來大ニ進歩シ今ヤ東京府ノ出品ヲ凌駕スルニ到レルモノアリ清水源次郎出品裏地染ハ其染色技工及仕上ニ於テ佳良ナリ尙染料ノ選擇及染色方法ニ就キテ一層ノ研究ヲ致サバ更ニ精巧ノ域ニ達スルコトヲ得ベシ

友禪染 本府獨特ノ工業ニシテ其出品中圖案意匠嶄新ニシテ突飛ニ流レズ穩健ニシテ配色ノ調和宜シキヲ得タルモノ多ク技術モ亦益々進歩シテ精巧ナルモノ尠カラズ廣岡伊兵衛、飯田新七及西村治兵衛出品着尺物友禪染ノ鮮麗ナル西村總左衛門出品天鵝絨友禪染額ノ精巧ナル共ニ稱揚スベキモノナリトス然レドモ出品中染色不完全ナルモノアリシヲ認メタリ是等ハ特ニ營業者ニ於テ宜シク注意スルコトヲ肝要ナリトス

紋付及無双羽織染 其ノ技術精巧ナルモノアリシト雖モ一般ニ舊態ヲ改メザルノ嫌アリ今ニシテ染料ノ撰擇及染色方法ニ就キ一層ノ注意ヲ拂ハズンバ他日後進ノ地方ヨリ其販路ヲ侵害セラレンコトヲ

恐ル

小紋染、更紗染、中形染、染緋及捺染等ハ其技術ノ進歩顯著ナルモ少シトセズ然レドモ多クハ其圖案配色等舊態ヲ改メザルノ嫌アリ、

其ノ他ツモハ點數少ナルヲ以テ批評ヲ省略ス

大坂府

本府ノ出品ハ毛斯繪友禪染最多數ニシテ無地染之ニ亞グ其他縮緬友禪染、國旗染、捺染、絞染、綿布晒白及板締染等ノ出品アリタリ、

毛斯繪友禪染 本府ハ特有物産ナルニヨリ其ノ出品點數最多シ然シテ出品中二三奇巧ヲ術フガ如キモノナキニテアラザルモ其ノ大部分ハ時好ニ投合シ意匠配色及色染技工共ニ佳良ニシテ前回ニ比シ一層進歩ノ顯著ナルヲ認ム殊ニ岡島千代造出品ハ其圖案配色ノ優美染色技工ノ精巧ナル蓋シ賞讃スルノ價値アリ尙縮緬友禪染ノ出品點數アレドモ京都府ノ製作ニ係ルモノ多キガ如シ故ニ之ニ就キ更ニ特説スルノ要ナキモノト信ズ、

無地染 毛斯繪友禪染ニ亞グ多數ノ出品アリタリ其中ニハ足袋地「カトキ」染、「シーチング」、毛斯繪無地染、袴地「スレッキ」及旗布地等アリ概ネ前回ニ比シテ著シク進歩セルガ如シ稻畑染工場出品無地染ノ如キハ其色染技術佳良ニシテ仕上モ亦賞讃スルノ價値アリ尙出品中ニハ多少其色染技術ノ完

全ナラザルモノアルヲ認ム更ニ今一層染色堅牢度ヲ増進セシムル方法ヲ講究センコトヲ切望ニ堪エズ
千草染工場出品捺染ハ其色染技術稍注目スベキ値アリ其ノ他ノモノハ少數ナルヲ批評ヲ省略ス本府ハ
手拭染ノ主産地ナルニ係ラズ其ノ出品ナキハ頗ル遺憾トスル所ナリ

神奈川縣

本縣ノ出品ニハ羽二重ノ無地染アリ其色染技工稍見ルベキモノアリト雖仕上工程ニ於テ多少ノ缺點ヲ認ム特ニ研鑽スルヲ肝要トス

兵庫縣

本縣ノ出品ハ中形染最モ多數ニシテ無地染毛斯繪友禪染、絞染、帛紗、風呂敷、手拭染、印半纏及紋付等アリ

中形染ハ多少見ルベキモノアリト雖其ノ圖案及技術ニ於テ改良ヲ要スベキ點多シ當業者宜シク慮ヲ煩ハスコト肝要ナリ其ノ他特ニ批評スベキモノ少ナシ

新潟縣

本縣ノ出品ハ染緋最多數ニシテ中形染之レニ亞グ其ノ他紋付染、模様紋付染、長襦袢裏地及小紋染等ナリ

染緋 近來一層ノ進歩ヲシタルモノアリ渡邊ハル及山口龜太郎出品ハ其ニ佳良ニシテ稱揚スルノ價

値アリ尙其ノ仕土ヲ研究シ圖案意匠ニ注意シ能ク時好ニ適セシムレバ一層其需用ヲ増加スルニ到ラン歟、

中形染 批評スルノ價值アル出品尠キハ遺憾ニ堪ヘズ其ノ他ノモノハ少數ナレバ批評ヲ省略ス

埼玉縣

本縣ヨリハ無地染一點ノ出品アリタルモ批評ノ價值ナシ

群馬縣

本縣ヨリハ裏地染及友禪染等ノ出品アリタルモ注目スベキモノ尠シ

茨城縣

本縣ヨリハ無地染、紋付染及中形染等ノ出品アリタルモ少數ニシテ批評スベキモノ尠シ

栃木縣

本縣ノ出品ニハ中形染、友禪染、拔染、小紋染、無地染紋付染、模様染、染緋及更紗、等アリタリ

中形染及友禪染ニハ輸出向ノモノアリタルモ其ノ染色技術ニ多少ノ缺點アルモノ多キハ遺憾トス宜シ

ク染料ノ選擇ニ注意シ圖案意匠ヲ改良シ輸出需用先々信用ヲ博センコトヲ切望シテ止マズ

拔染 其ノ技術大ニ進歩シタルモノアリ阿久津末吉出品ハ稱揚スルノ價值アリ尙其ノ圖案意匠ノ改良

ヲ計ラバ一層時好ニ投ズルコトヲ得ベシ、其ノ他批評スベキモノ少シ、

三重縣

本縣ノ出品ハ紋付染最多數ニシテ其ノ他繪入「タオル」、小紋染、中形染、無地染、捺染、染緋、風呂

敷、印半纏、更紗染手拭等アリ而シテ本縣ノ出品ハ前回ニ比シテ一段ノ進歩ヲナセルコト歴然タリ森

田庄三郎出品繪入「タオル」ハ稍佳良ナルモノナリ、紋付染ハ少シク注目スベキモノアレドモ概シテ

紋際判然セズ又染色方法ニ於テ新染料ヲ使用シ新式ノ方法ニ依レルモノアレドモ未ダ充分ナラザル所

少カラズ一層ノ研究ヲ要ス其ノ他ノモノハ少數ナルガ故ニ批評ヲ省略ス

静岡縣

本縣ノ出品ニハ無地染、染緋、中形染、紋付染、模様染及長襦袢等アリ、日本形染株式會社出品染緋

ハ一種機械捺染法ニ依ルモノニシテ其ノ技術及圖案意匠ニ於テ賞讃ノ價值アリ其ノ他ノモノハ少數ナ

ルガ故ニ批評ヲ省略ス

山梨縣

本縣ヨリノ出品ニハ紋付染アリタリ其ノ紋際判然シタレドモ染料ノ選擇其ノ宜シキヲ得ザルモノノ如

シ改良ノ點少シトセズ

滋賀縣

本縣ノ出品ハ無地染、友禪染、紋付染、長襦袢、帛紗模様染及小紋染等アリタルモ一般ニ其ノ技術幼

稚ニシテ特ニ批評スベキモノ少シ
岐阜縣

本縣ノ出品ハ紋付染最多數ニシテ小紋染無地染印半纏、染緋、絞染、手拭染、風呂敷、手布染及防水布等アリ而シテ紋付染中ニハ一二佳良ナルモノアレドモ其ノ技術尙不充分ナルモノアリ一般ニ前同ニ比シテ其ノ進歩ヲ認メザルハ遺憾トス染緋ニハ新染料ヲ使用シタルモノアレドモ未ダ其ノ技術充分ナラズ尙一層研鑽ヲ要ス其ノ他批評スベキモノ少シ

長野縣

本縣ノ出品ハ紋付染最多數ニシテ無地染、小紋染、長襦袢、帛紗及更紗等ナリ、
紋付染ハ近來其技術進歩ノ續顯著ナルモノアリ小林吉太郎出品紋付染ハ紋際鮮明染色佳良ナルモノナリ尙染料ノ選擇ニ注意シ一層ノ奮勵アランコトヲ望ム、其ノ他ノモノハ批評ヲ省ク

福井縣

本縣ノ出品ニハ墨流染、羽二重精練及帛紗等アリ、墨流染ハ其技術ニ於テ多少見ルベキモノアルモ舊套ヲ踏襲スルニ過ギズ宜シク新色素ヲ應用シ配色ニ留意スベシ、
羽二重精練ハ其ノ技術大ニ見ルベキモノアリ黒川榮次郎出品ハ稍精巧ナルモノナリ尙其ノ仕上ニ於テ多少改良スベキ點アルヲ見ル、

石川縣

本縣ノ出品ニハ無地染、中形染、友禪染、紋付染、浴衣地、模様染、暖簾、染緋、長襦袢、小紋染帛紗及國旗染等アリ、本縣ハ由來友禪染ノ起原地トシテ名アリ而シテ其ノ製作技工ハ練熟セルモノアリト雖圖案配色ニ於テ少ナカラザル缺點ヲ有スルハ遺憾トナス、裏地染ニ於テ多少注目スベキモノアレドモ染色技工染料ノ選擇及仕上ニ於テ猶不充分ナルヲ免レズ當業者宜シク考慮ヲ煩ハスコト緊要ナリトス、

富山縣

本縣ノ出品ニハ綿布友禪染、裏地染、紋付染、麻布無地染、小紋染、染緋、帛紗、國旗染、半襟染、紋章、中形染及風呂敷等アリ、綿布友禪染ハ其ノ點數多ク圖案配色ノ點ニ於テ不充分ナリト雖其ノ染色及仕上ノ點ニ於テ毛斯綿友禪染ノ模造品トシテ價值アルモノト認ム其ノ他批評ハ省略ス、

鳥取縣

本縣ノ出品ニハ小紋染、紋付染、模様染、染緋手拭染風呂敷及上繪等アリ、出品中ニハ新染料ヲ使用セルモノアレドモ一般ニ其ノ染法舊套ヲ脱セザルノ嫌アルヲ惜ム

島根縣

本縣ノ出品ニハ紋付染、小紋染及裏地染等アレドモ批評ノ價值アルモノ少シ、

岡山縣

本縣ノ出品ニハ紋付染及手拭染等アレドモ孰レモ幼稚ニシテ批評ノ價值アルモノ尠シ、

山口縣

本縣ノ出品ニハ紋付染アリタルモ其技術猶幼稚ニシテ研究ノ余地甚多シ、

和歌山縣

本縣ノ出品ニハ無地染、捺染及晒白等アリ而シテ綿ネル無地染、及捺染ニ於テハ其色染技工ニハ大ナル進境ヲ認メザルモ染料ノ撰擇ニハ多少注意ヲ拂ヘルノ跡ヲ認ム其ノ他ハ批評スルニ足ラズ

徳島縣

本縣ノ出品ニハ浴衣地、紋付染、及捺染等アリタルモ批評ノ價アルモノ尠シ、

香川縣

本縣ノ出品ニハ無地染、中形染、小紋染、紋付染蒲團地、印半纏、浴衣地、更紗染、手拭染及絞染等アリタルモ批評ノ價值アルモノ尠シ、

愛媛縣

本縣ノ出品ニハ小紋染、模様染、紋付染及防水布等アリタルモ批評ノ價值アルモノ尠シ

高知縣

本縣ノ出品ニハ絞染、中形染、染緋、無地染及友禪等アレドモ少數ナルガ故ニ之ガ批評ヲ省略ス、
愛知縣

本縣ノ出品ニハ絞染、更紗染、無地染、中形染、友禪染、模様染、浴衣地、紋付染、小紋染、印半纏及手巾染等アリ

絞染 其點數最多數ニシテ又其ノ技術ニ於テモ著シキ進歩ヲ示セルハ欣ズベシ、其ノ進歩トハ何ゾ、
新疆ノ素地ヲ使用スルアリ種々ノ器械ヲ應用スルアリ、又圖案ニ於テモ大ニ見ルベキモノアリ尙奮勵シテ一層ノ發展ヲ望シテ止マズ山口新兵衛出品「シルケツト」濃綾染ハ最佳良ナルモノナリ
更紗染ニハ機械ヲ應用セル出品アリタリ其ノ技術多少見ルベキモノアリ尙意匠圖案及配色並ニ染料ノ撰擇ニ留意スルコト緊要ナリ、

其ノ他ノモノハ批評ノ價值アルモノ少ナシ、

以上ハ各府縣ニ分テ批評セシガ今全體ニ就テ觀察スルニ各府縣トモニ其ノ技術ニ於テ概シテ進歩ノ形跡アルハ喜ズベキ所ナリトス、終ニ其ノ重要ナルモノ二三ニ付テ概括的批評ヲ下セバ左ノ如シ、
無地染及裏地染ハ一二稱揚スベキモノアレドモ其ノ技術一般ニ舊套ヲ蹈襲スルモノ多ク且些ノ進境ヲ認メザルモノ多キハ概スベキナリ間々其ノ使用スル藥品及染料ノ性質及作用ヲ了解セズシテ亂用スルモノアルヲ認ム、又任上ニ於テモ多少機械應用ノ途ヲ開キ稱揚スベキモノアリト雖多クハ不完全ニ

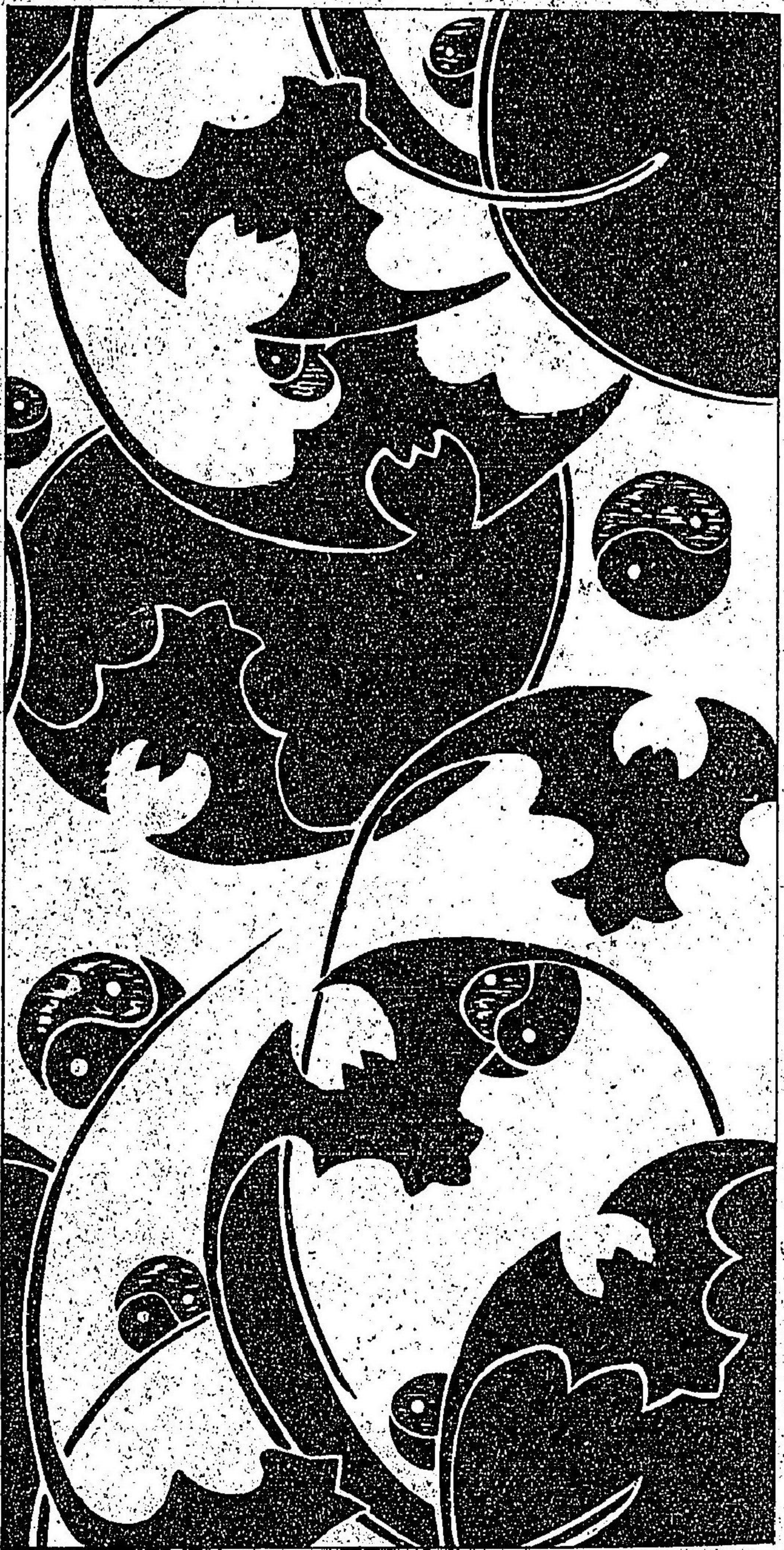
シテ折角ノ製品モ爲ニ其ノ價值ヲ充分ニ發揮スルノ域ニ達セシメズシテ劣等品トシテ觀過セシムルモノ多キガ如シ是レ當業者ノ大ニ研鑽ヲ務メザルベカラザル所ナリトス
紋付染ハ近來紋糊ノ改良ノ改良及絞締器械ノ應用ニヨリテ一般ニ判然タルモノヲ製作スルニ到レリ、
又新染料ヲ採用シ大ニ染色堅牢ノ度ヲ増進セシメタルモノ多キヲ認メタルハ欣賀スル所ナリ、尙染料
ノ選擇ヲ研究シ色相光澤ヲ充分發揮セシムルコトヲ務メザルベカラズ

中形染、染緋及更紗染等機械ヲ應用シタルモノ新染料ヲ採用セルモノ又意匠圖案及配色ニ於テモ多少
ノ進歩ヲナセルモノアリ尙染料ノ選擇ヲ慎ミ圖案配色ヲ研鑽シ益々進歩セシメンコトヲ切望シテ止マ
ズ

絹布友禪染、裾模様染及帛紗等ハ當業者熱心研磨ノ結果其ノ圖案配色ニ於テ進歩顯著ニシテ而モ精巧
ノ出品亦尠カラズ且展覽會陳列會等ニ於テ見ルガ如キ徒ニ放テ事トシ實用ニ適セザル圖案配色ノ僅
少ナリシハ特ニ注意スベキ點ニシテ斯道ノ一進歩トシテ賀スベキ所ナリ又其ノ染色方法ニ就テ新法ノ
モノナカリシハ甚ダ遺憾トスル所ナリ要スルニ友禪染ハ概シテ圖案配色ニ於テ近時著大ナル進歩ヲナ
セリト雖染色法ノ進歩、遲緩ナルヲ免カレズ故ニ圖案配色技工相併行シテ益々進歩センコト切望ノ至
リニ堪ヘズ

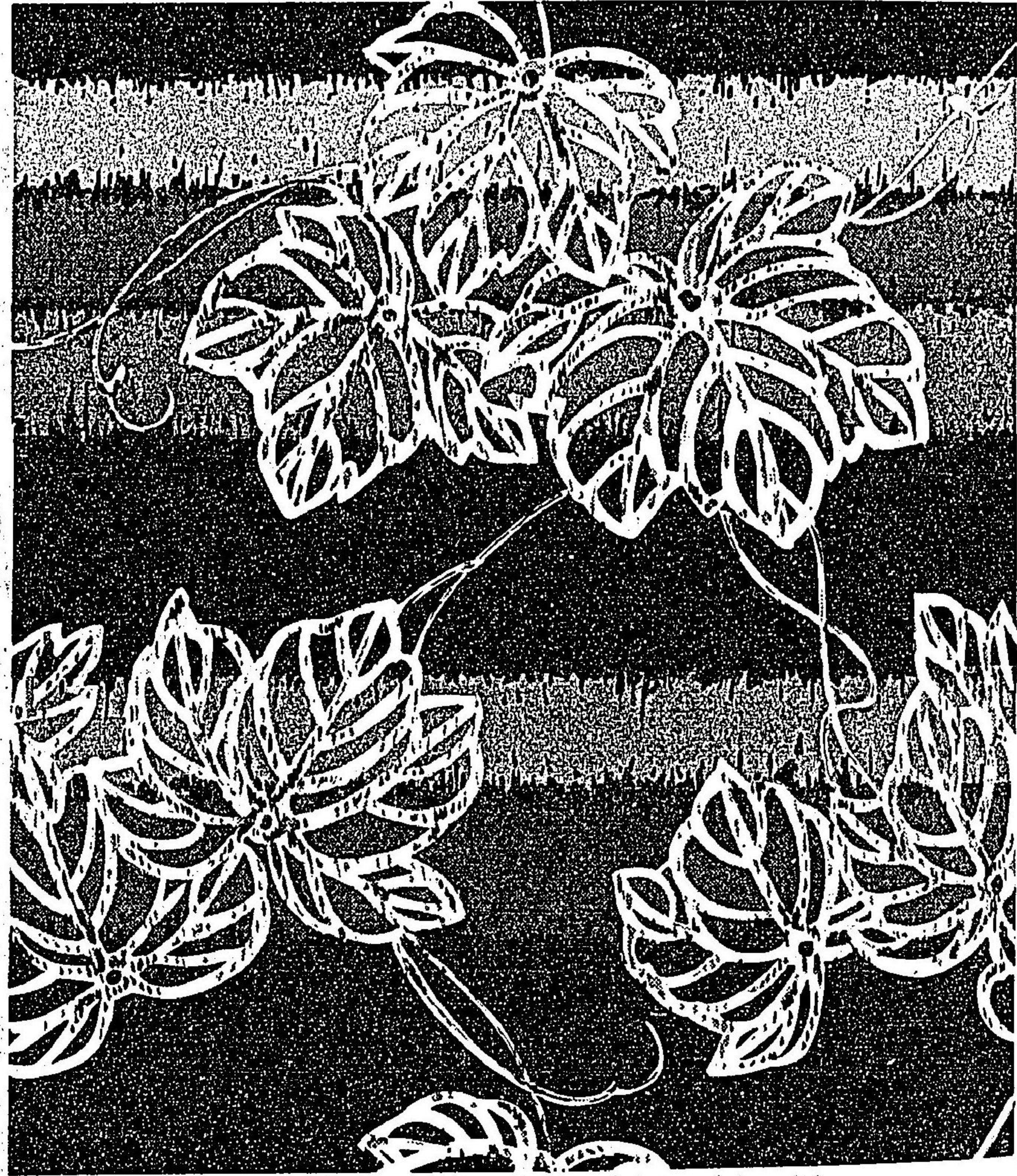
毛斯給友禪染ハ本邦中流以下ノ衣服トシテ都鄙一般ニ使用セラル、コト益々多ク圖案配色ノ變遷モ亦

毛斯給友禪 (福祿壽) 四分一



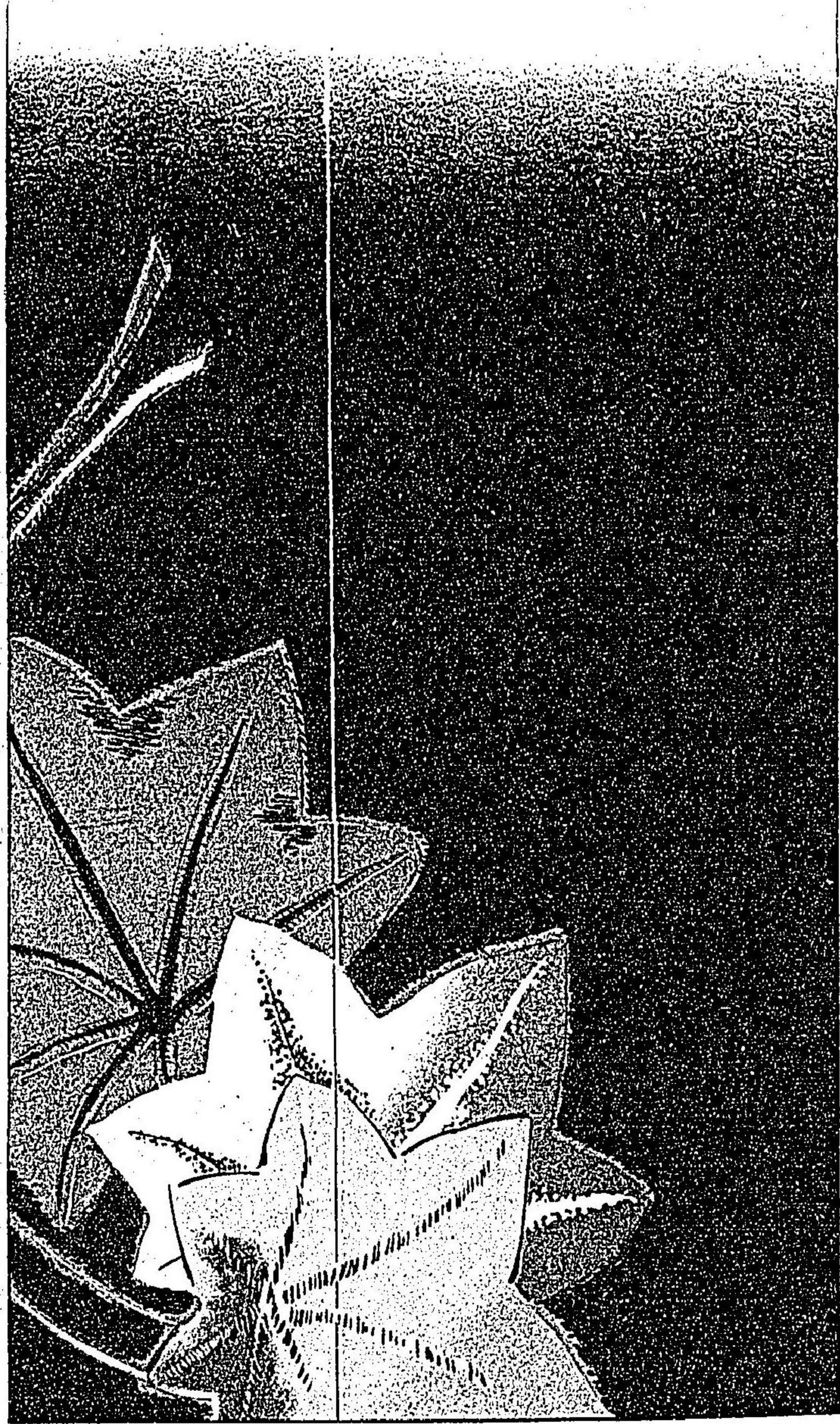
東京府 白石甚兵衛

毛斯繪友禪（五色段ノ葛）三分一



東京府 中山 專三

縮緬兩裾模様 四分一



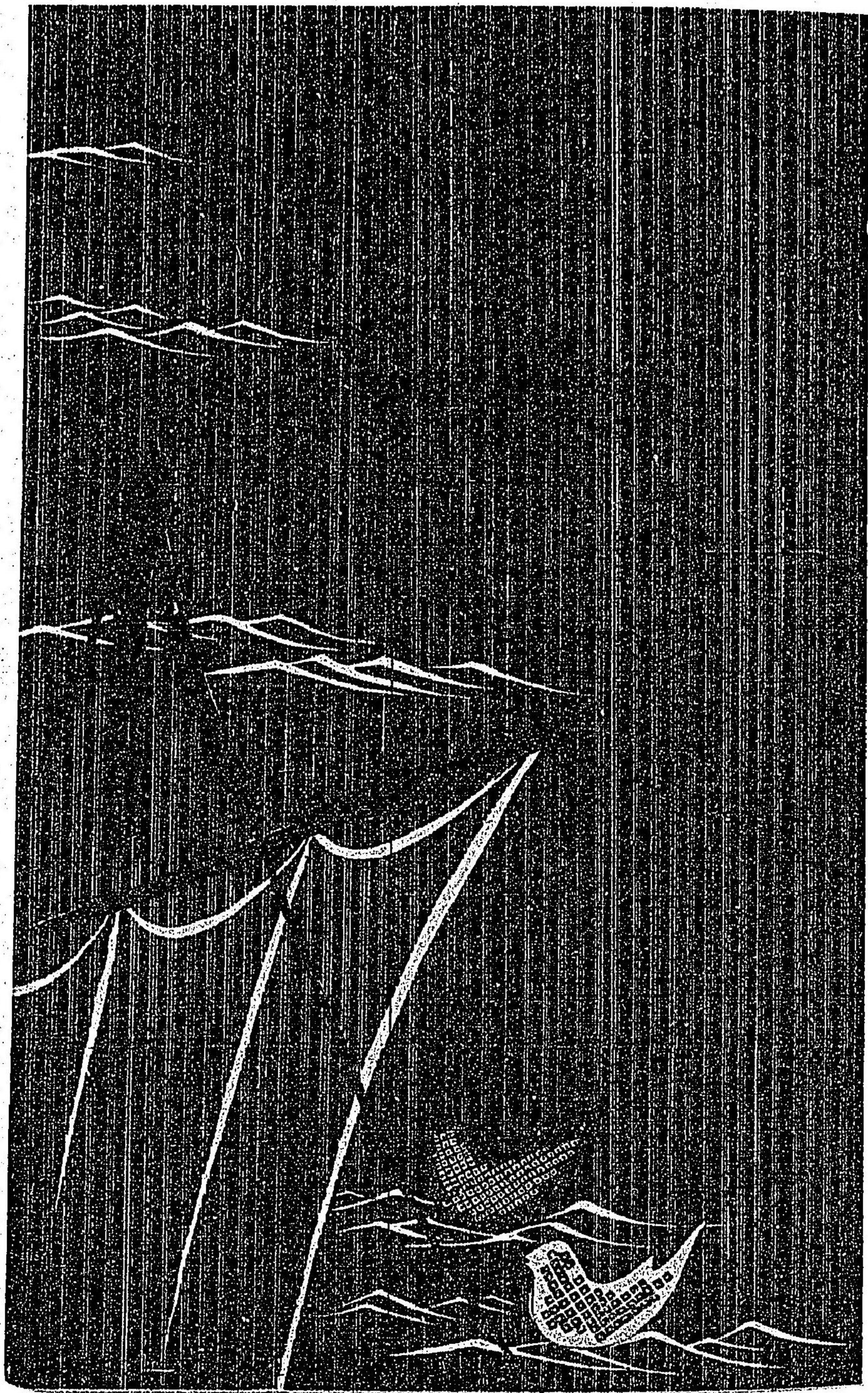
京都府
高
榮
會

縮緬兩袂模様 (四分)



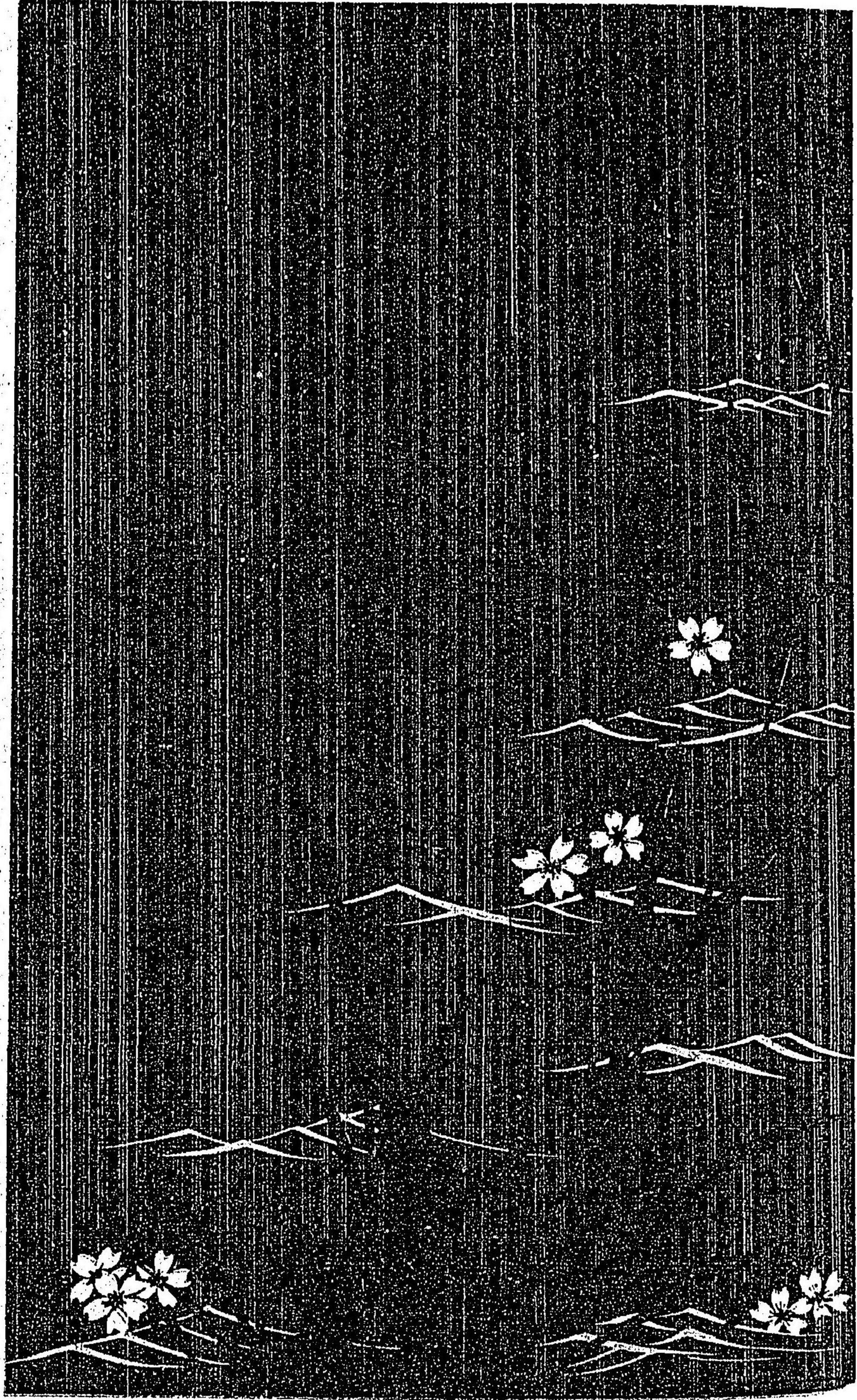
京都府津田常七

縮緬裾模様友禪 三分一

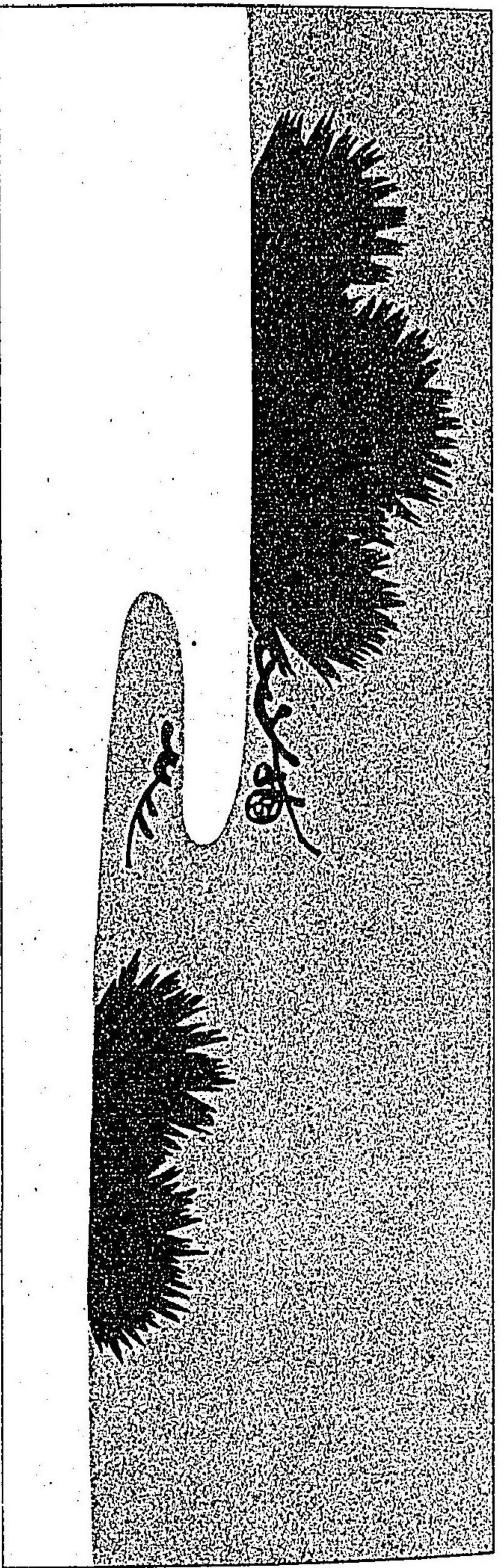


東京府 川島 久吉

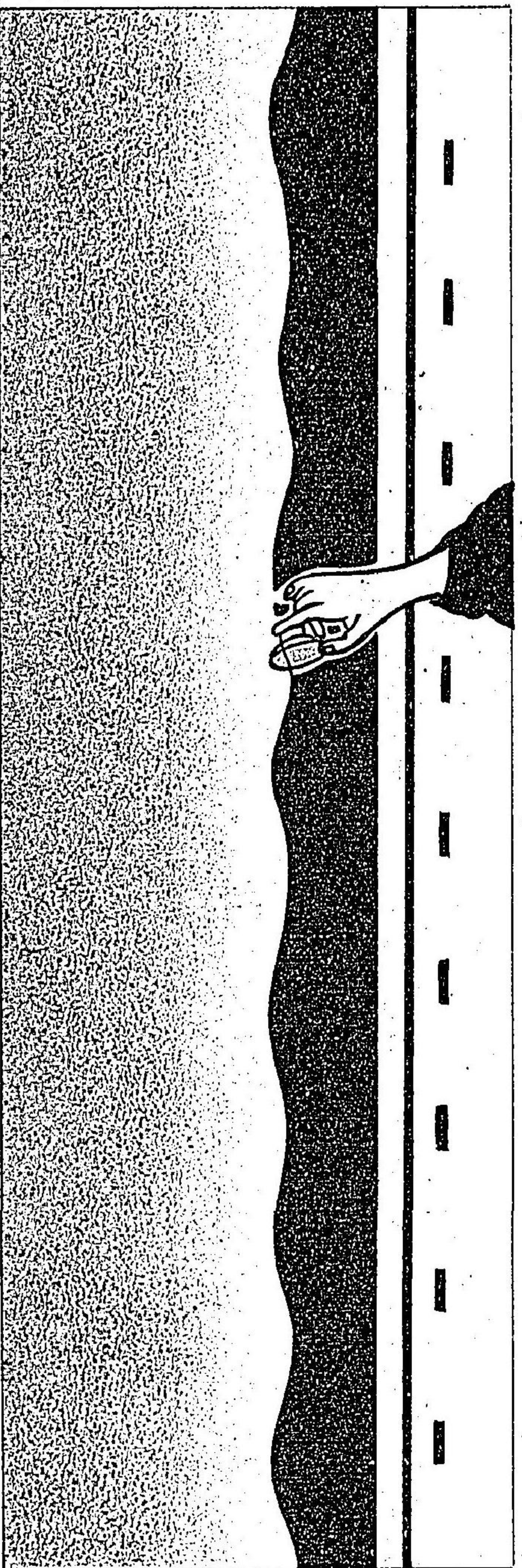
縮緬裾模様友禪 三分一



東京府
川島
久吉



染手拭 五分一

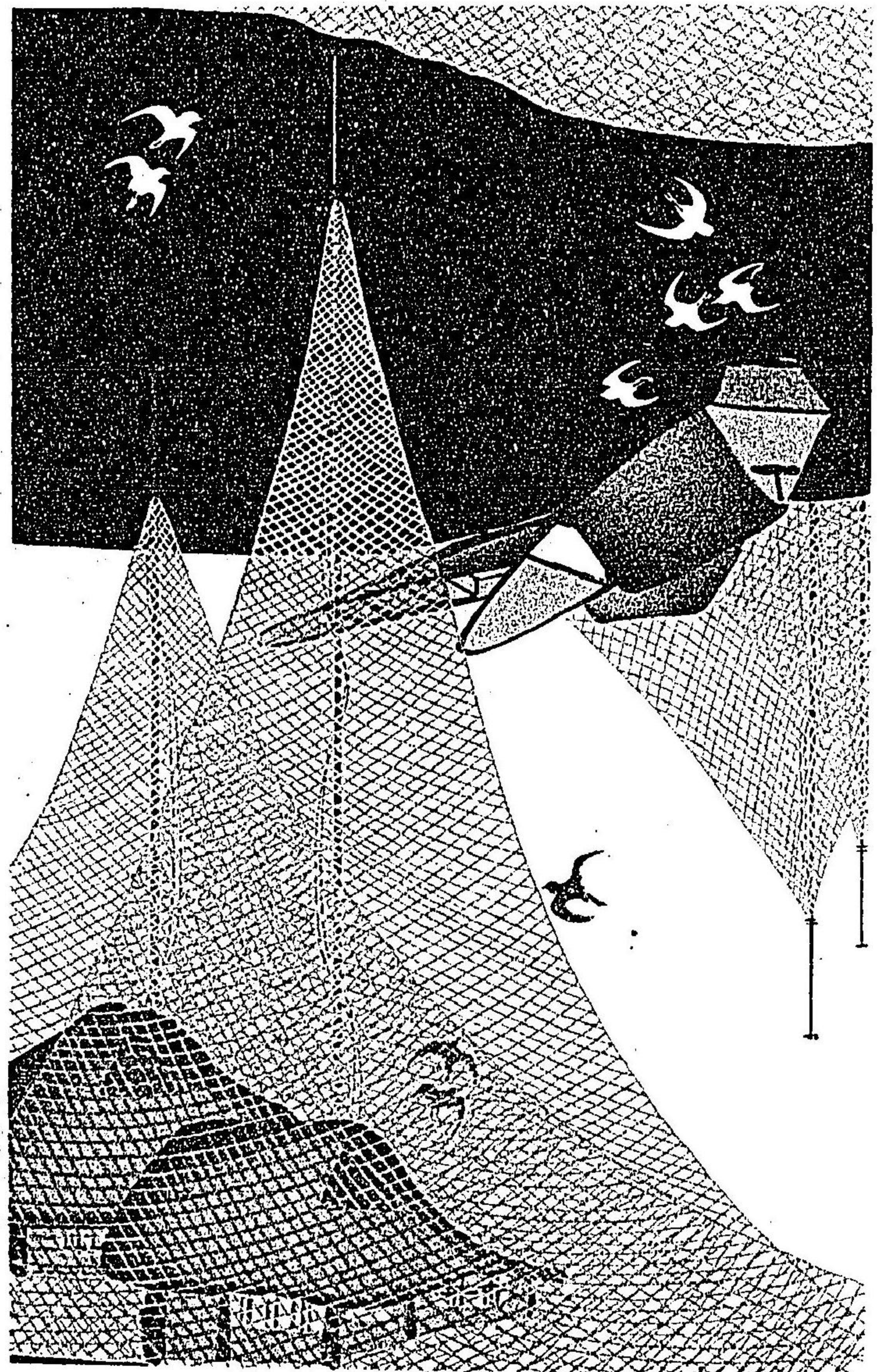


東京府 鈴木彦兵衛 繪



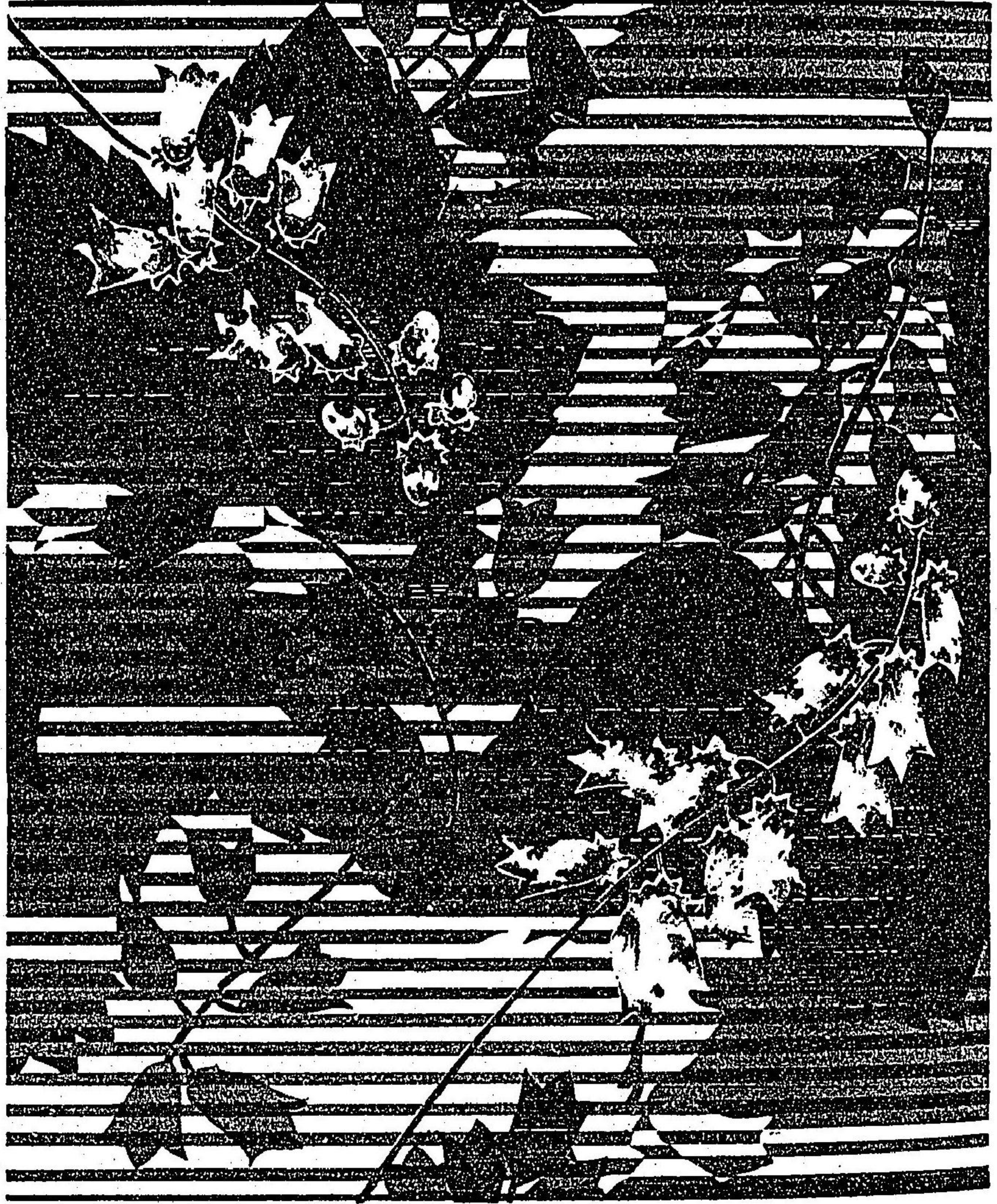
縮
類
友
禪
三
分
一

京
都
府
伊
藤
忠
兵
衛



縮緬友禪 (四分一)

京都府
岡本
仙助



毛斯繪友禪四分一

大阪府
松井貴一郎



毛斯繪友禪（筋桐葉）（四分二）

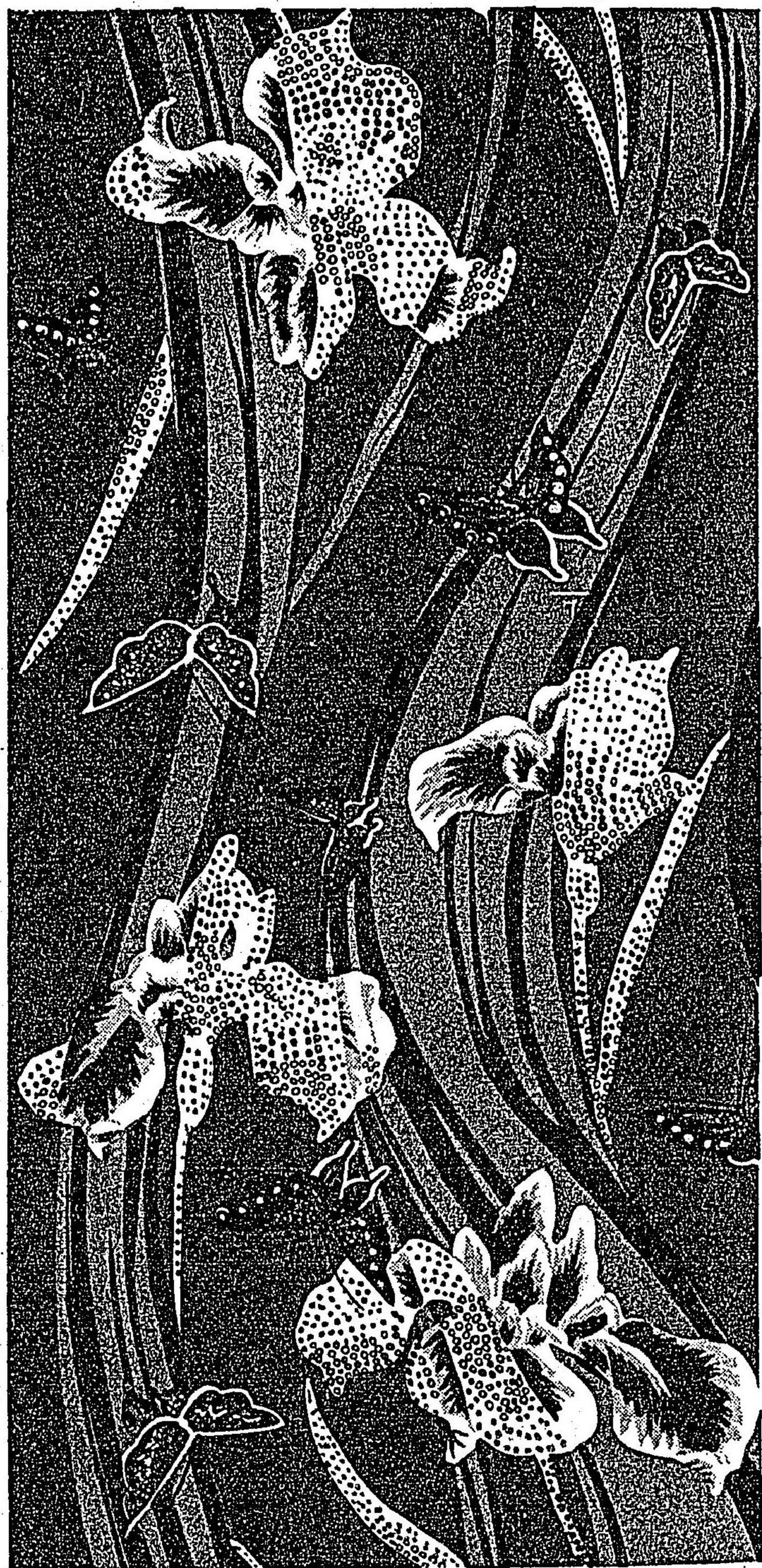
東京府 森田幸次郎



毛
斯
繪
友
禪
四
分
一

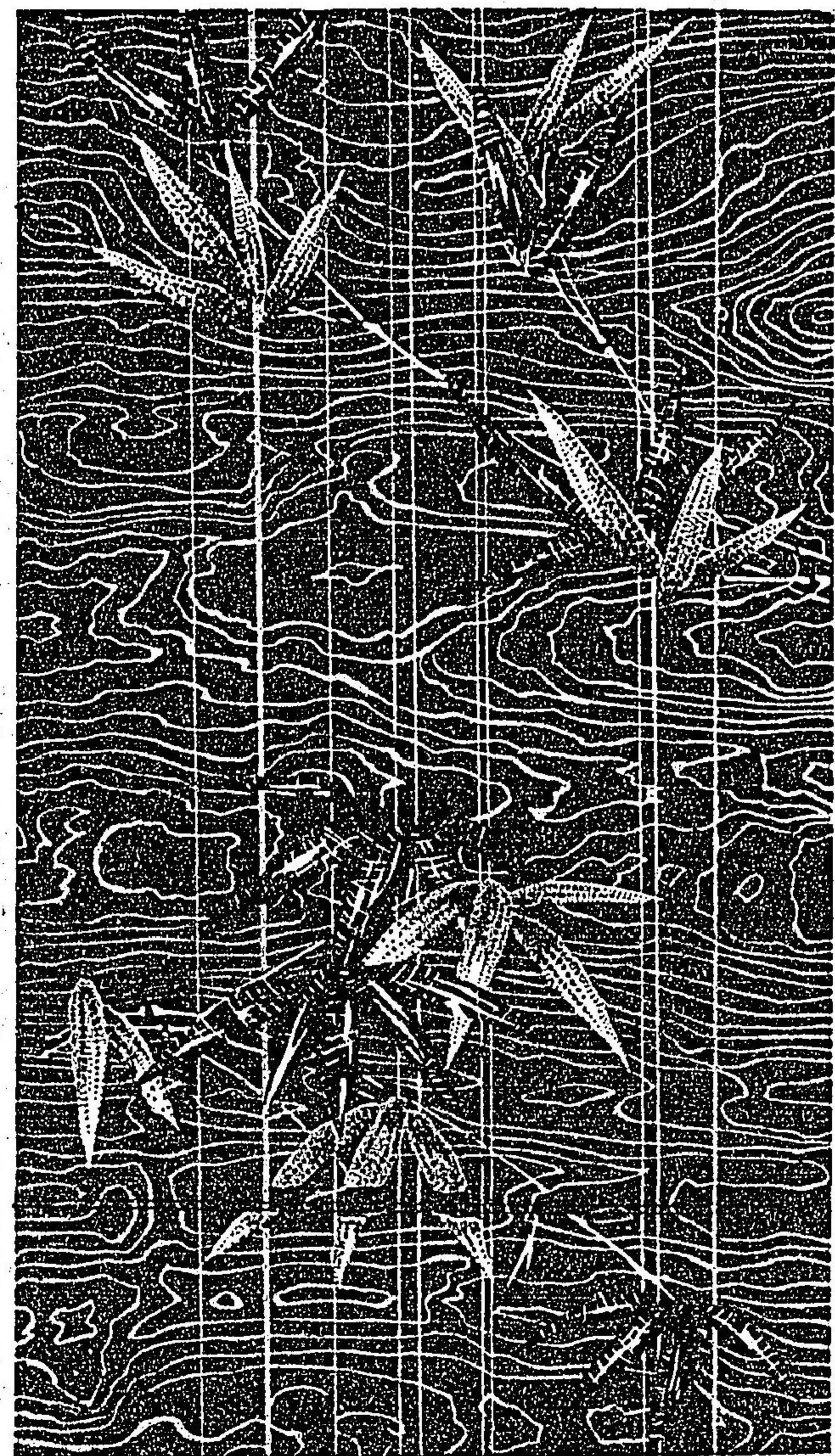
大
阪
府
松
井
絹

毛斯繪友禪四分一



大阪府 中村米次郎

吾妻鹽瀬帶側 四分一

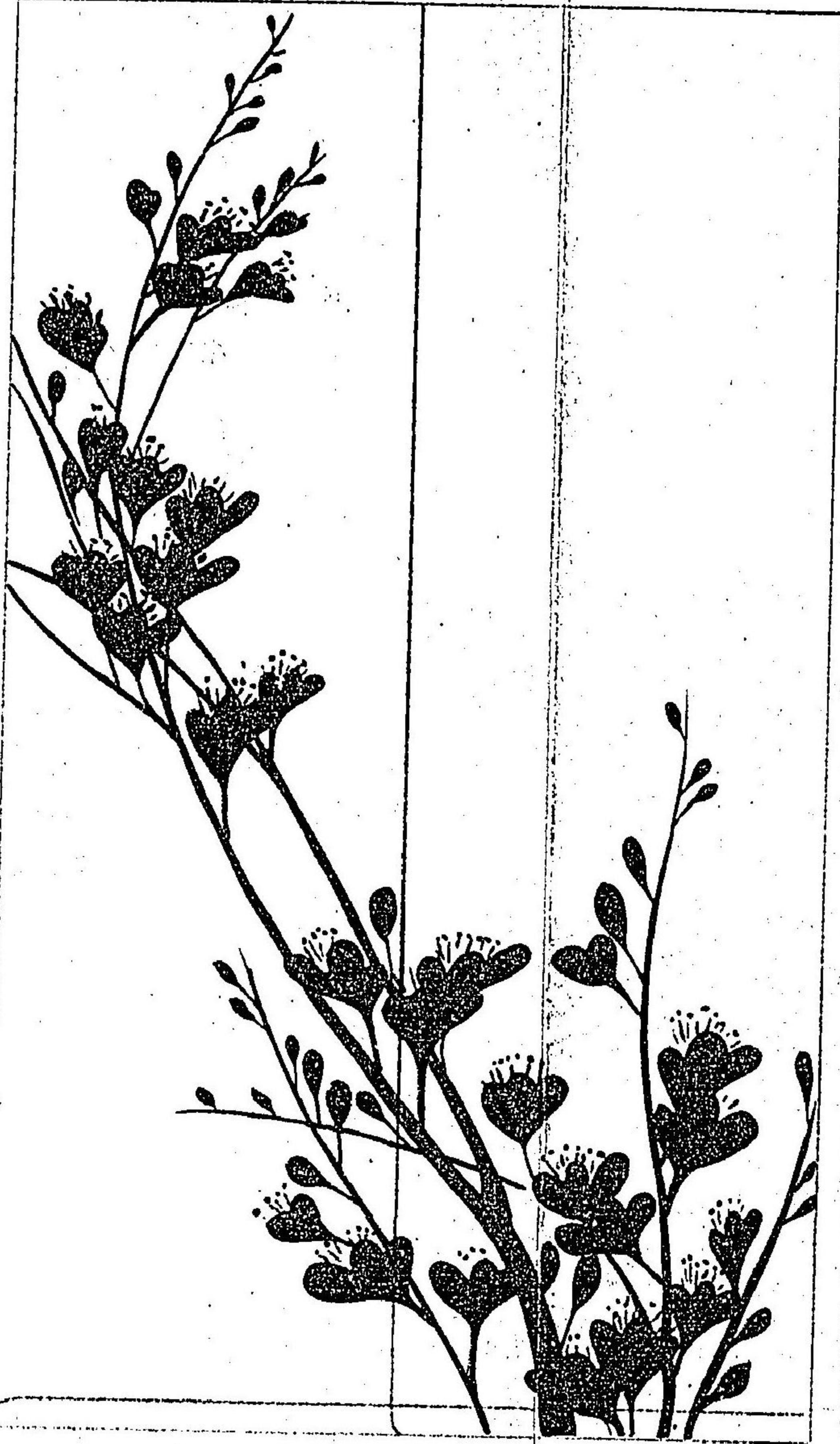


群馬縣 真尾源 一郎

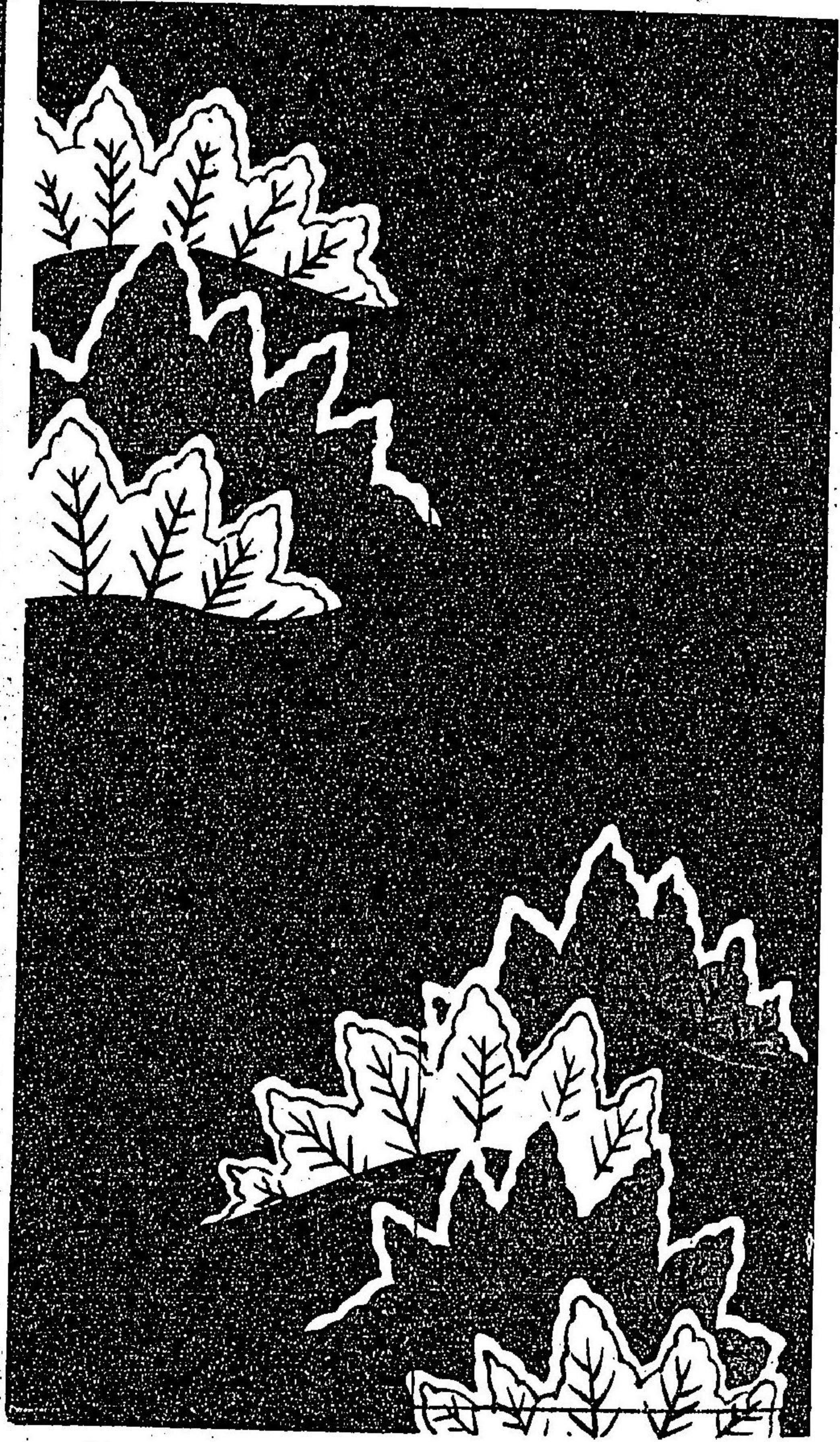
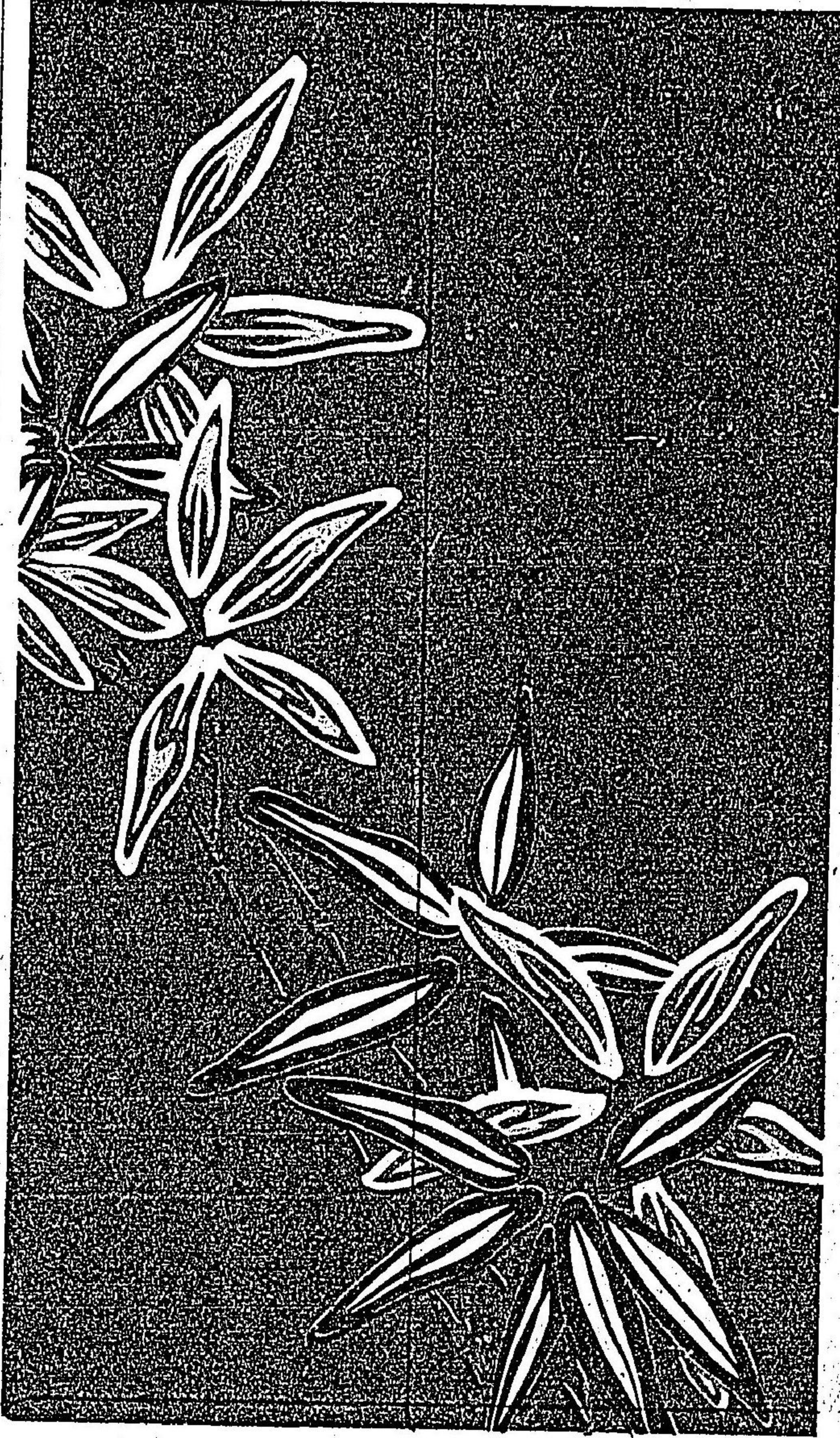
羽二重裾模様紋付三枚重 四分一



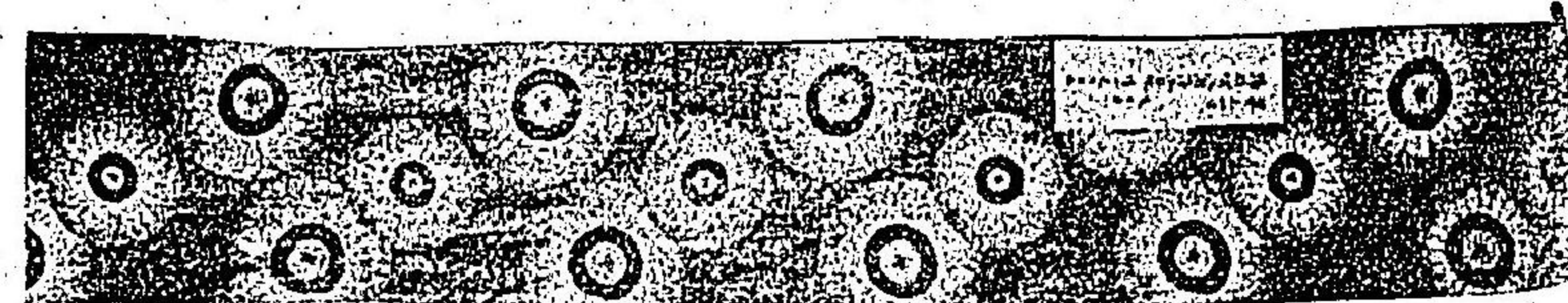
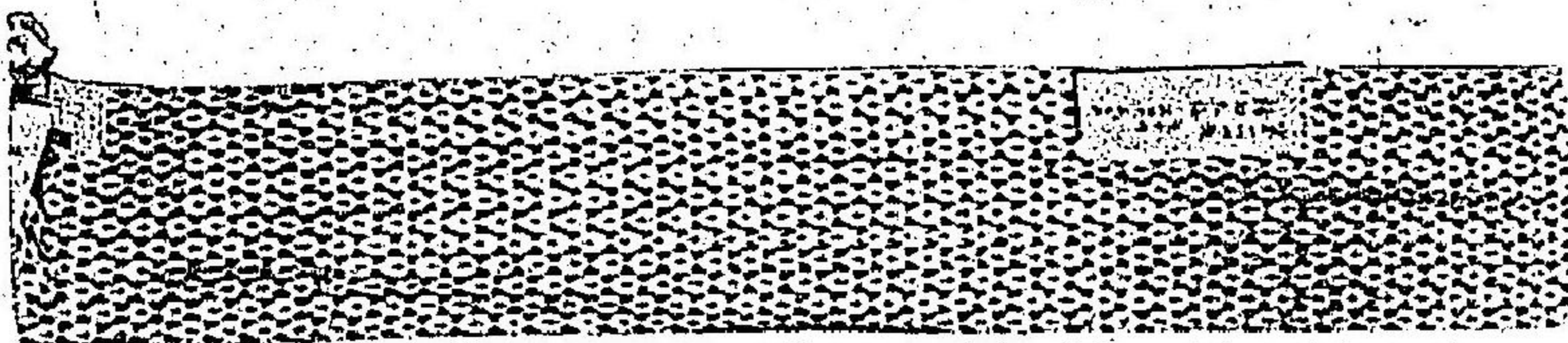
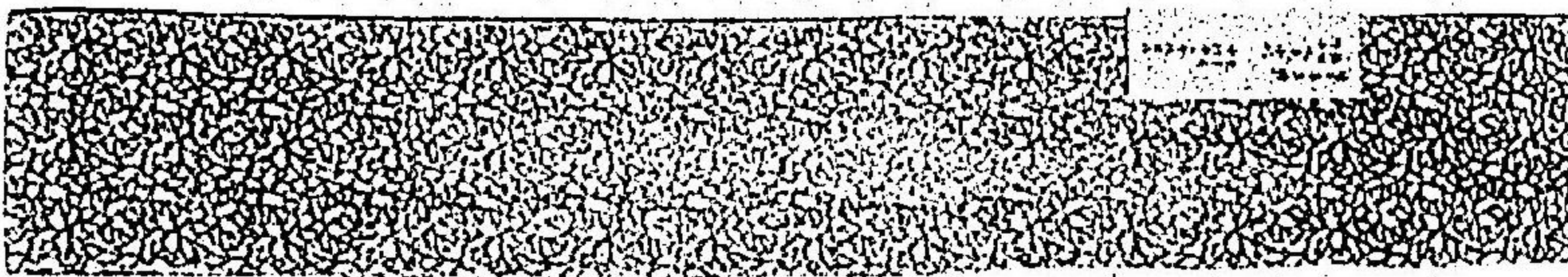
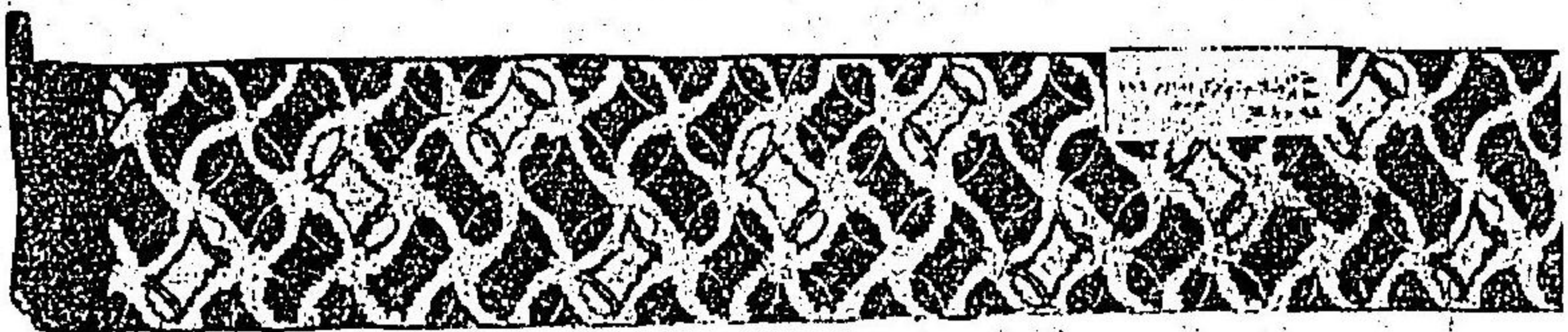
石川縣 金澤染業團體雙美會



石川縣 金澤染業團體雙美會



羽二重裾模樣紋付三枚重 四分一



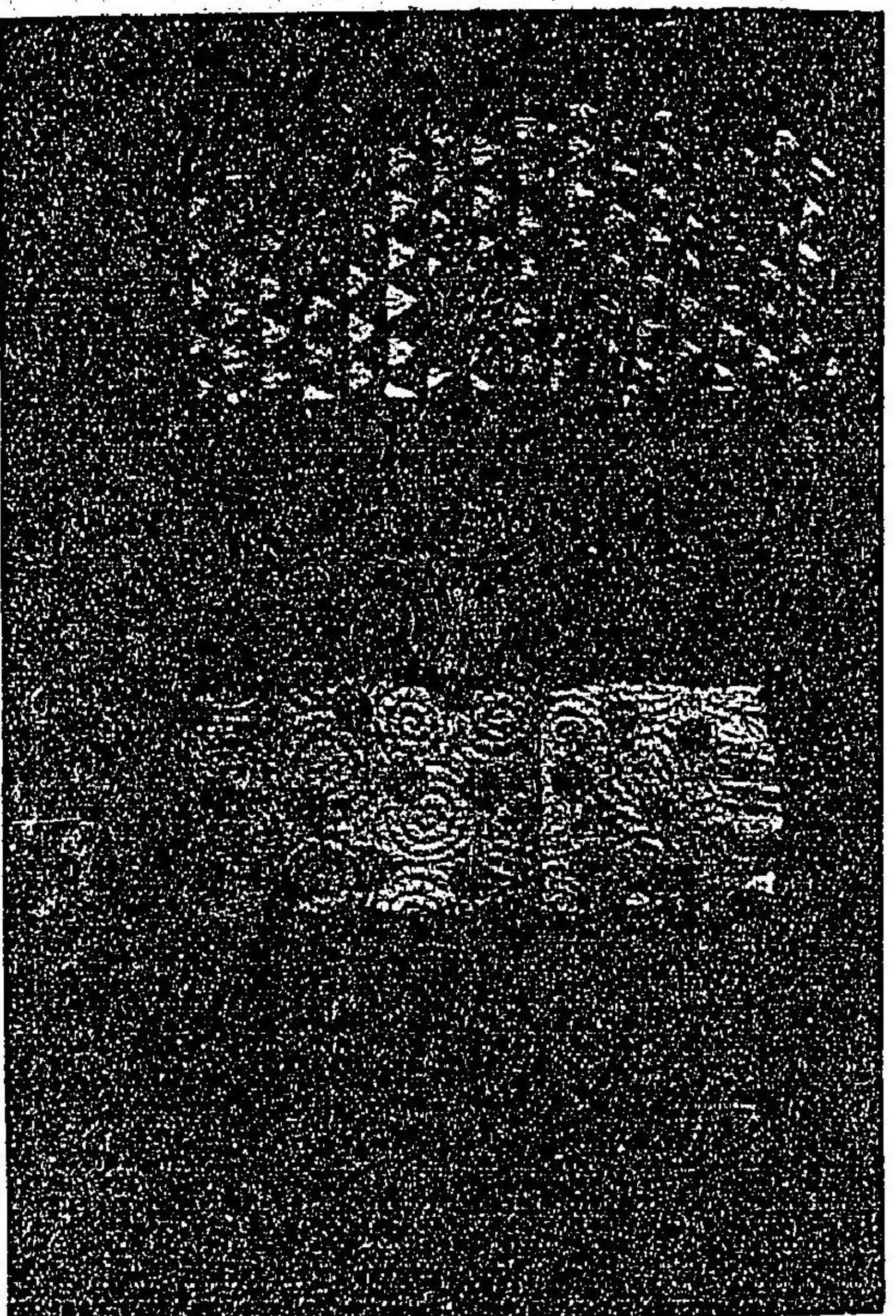


三笠綾
愛知縣
服部孫兵衛

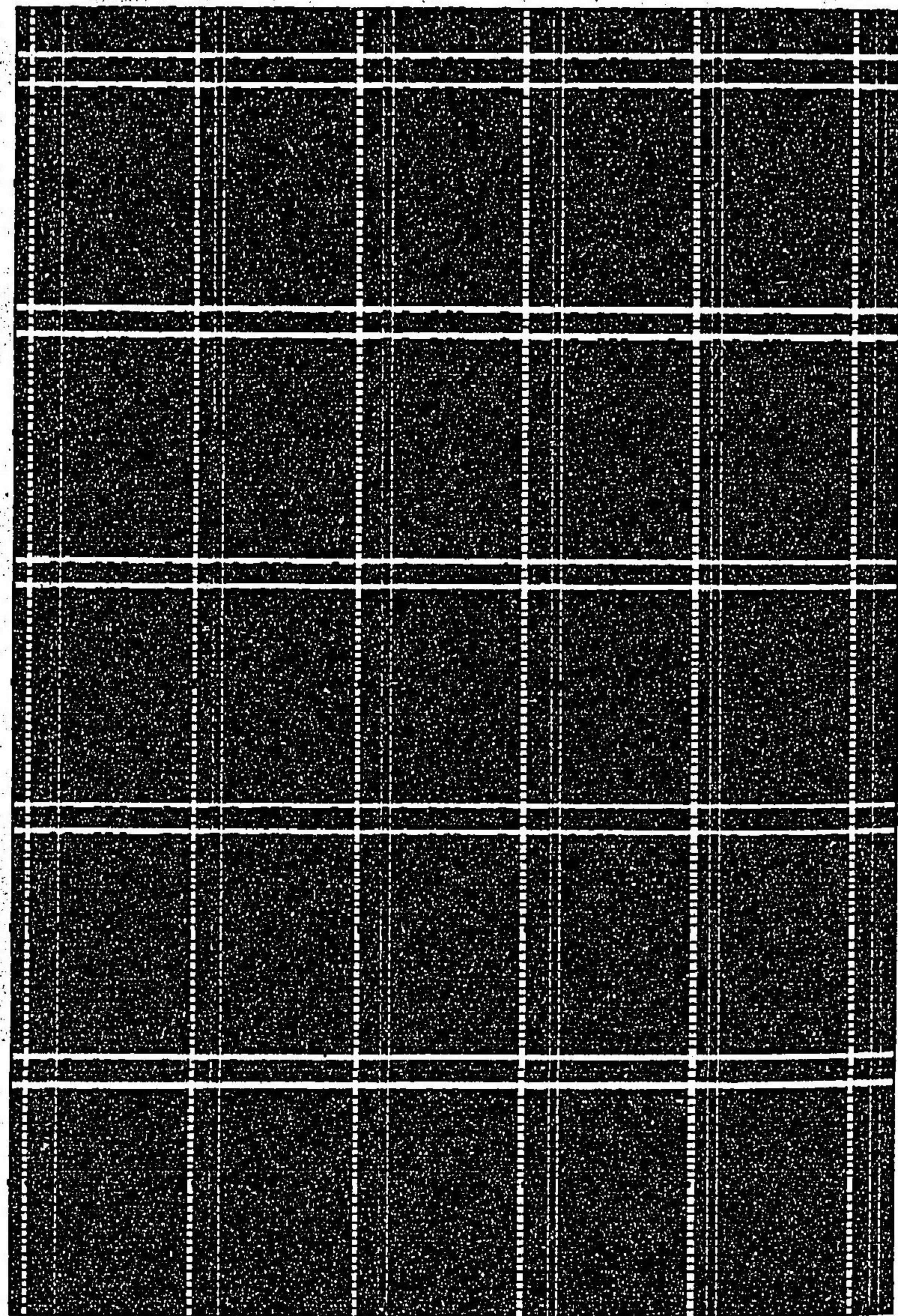
渦綾
愛知縣
山口新兵衛

千海浪染分綾
愛知縣
富田臺次郎

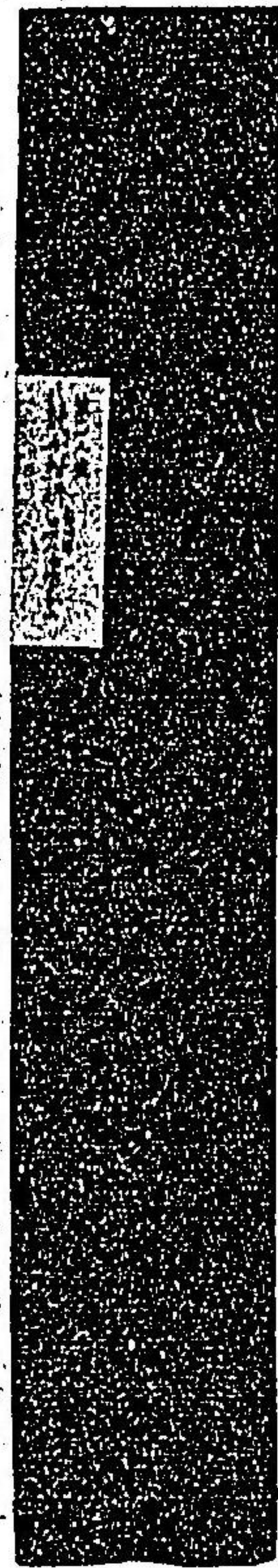
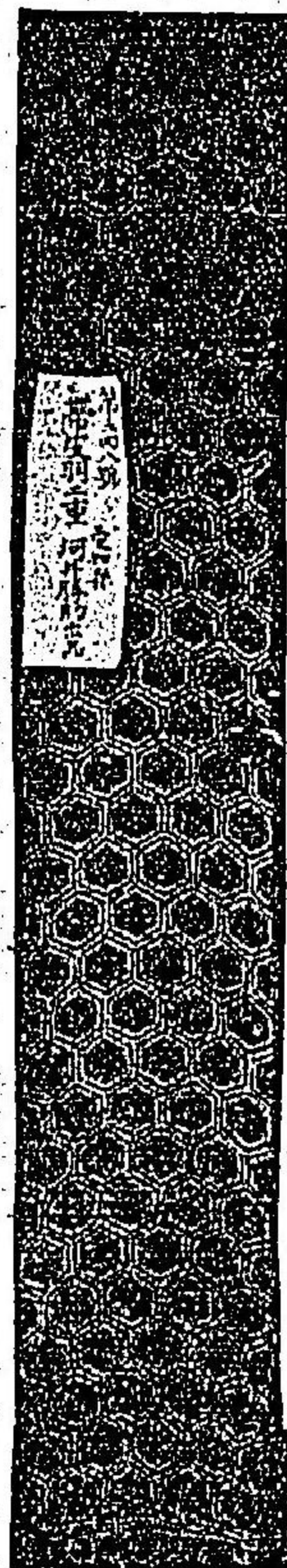
紺綾
愛知縣
服部興右衛門

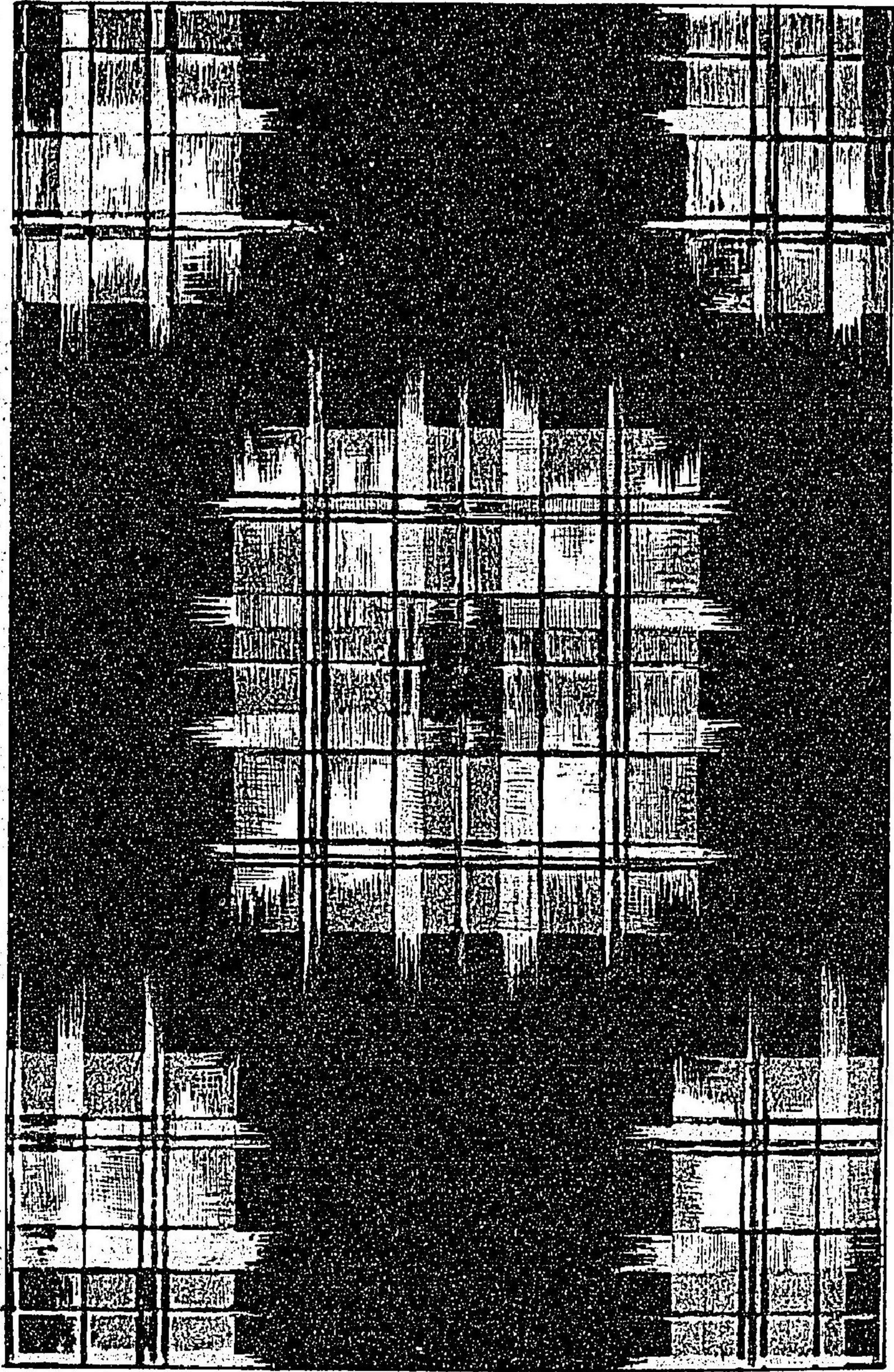


東京府 渡邊熊吉



瓦斯紅梅織 現物大





瓦斯縮切 現物大

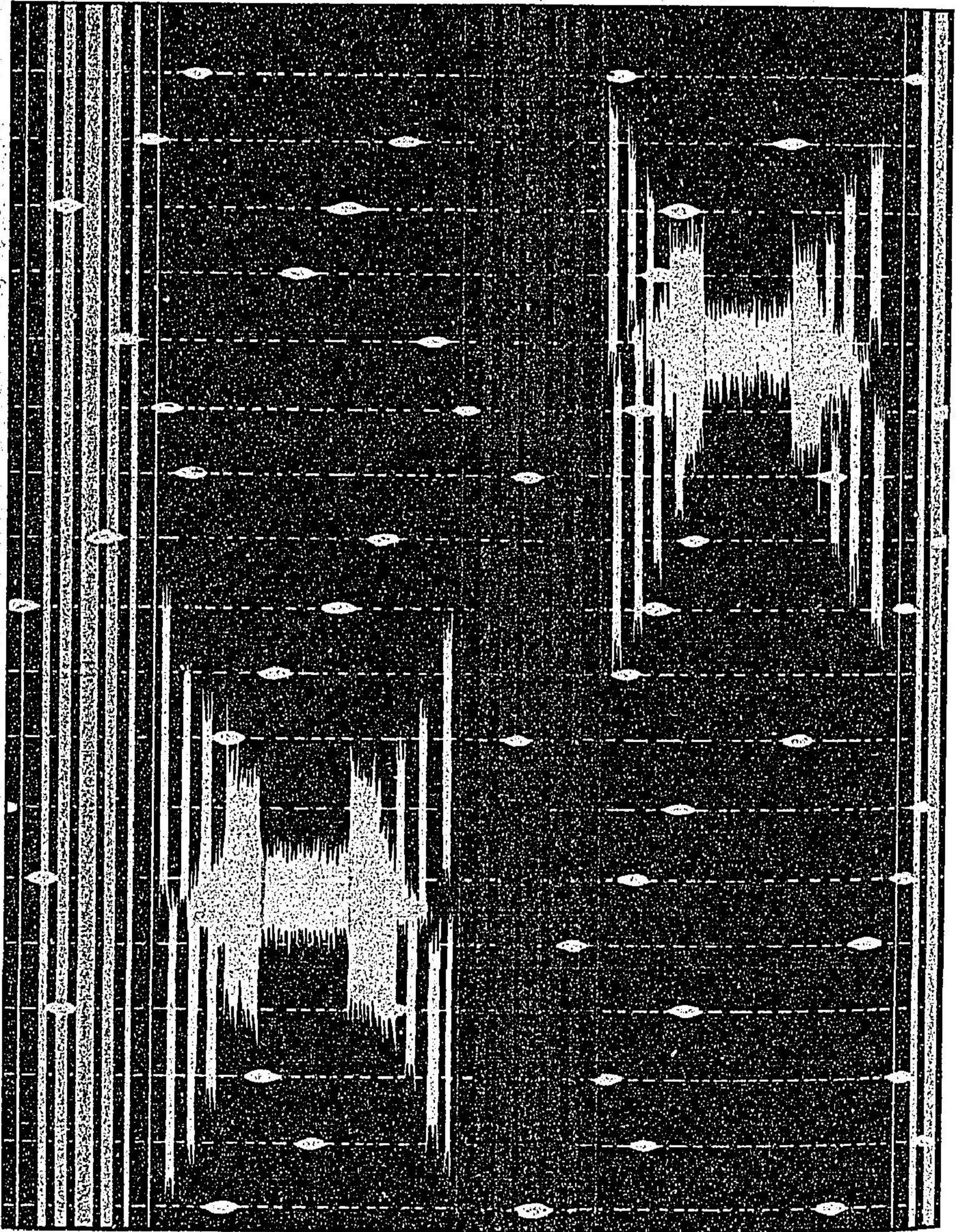
東京府
澤田
米藏

瓦斯絳中柄 現物大

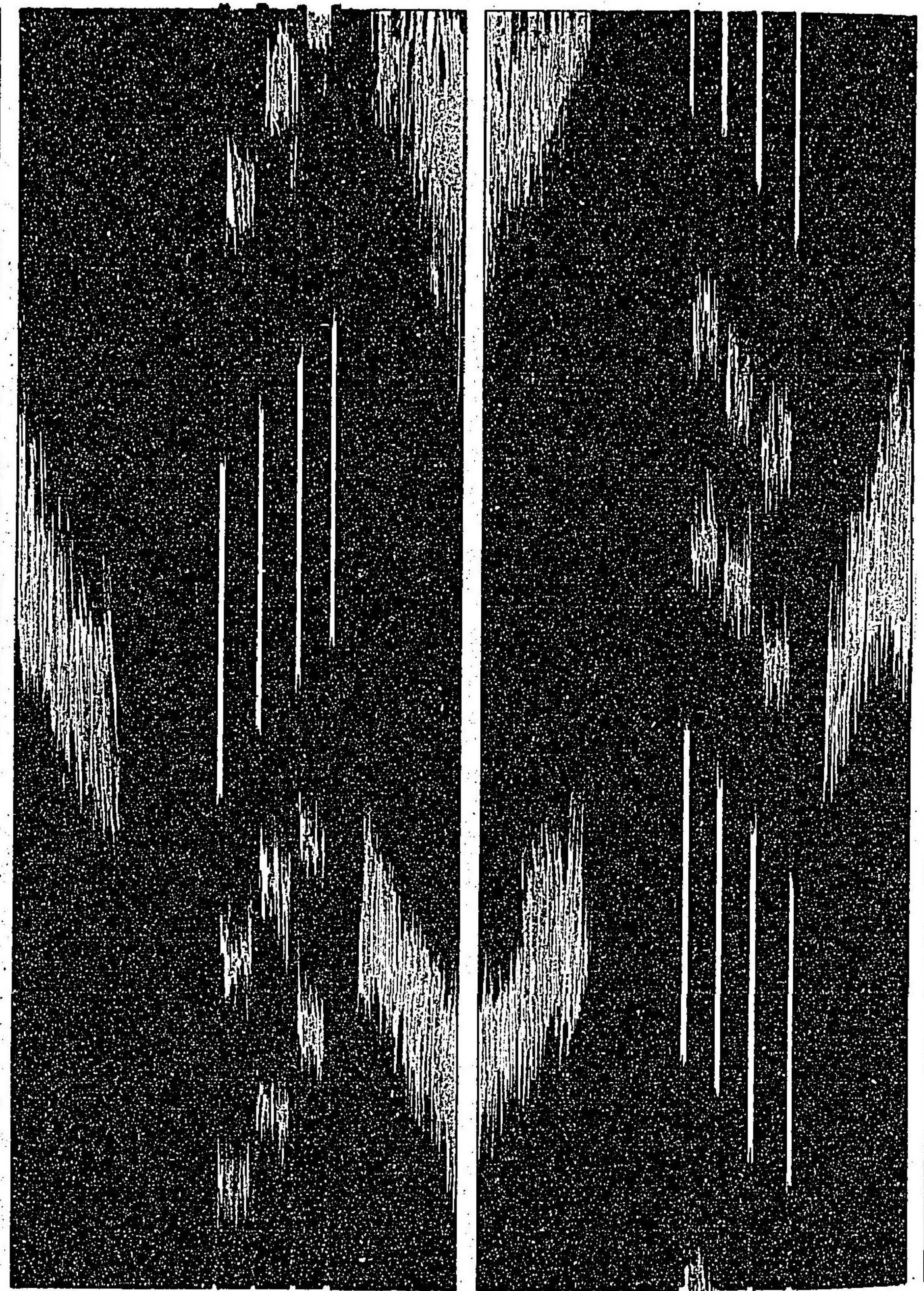


東京府 石井永治郎

玉川紬現物大



東京府 並木武三郎



三重縣 中山 忠左衛門

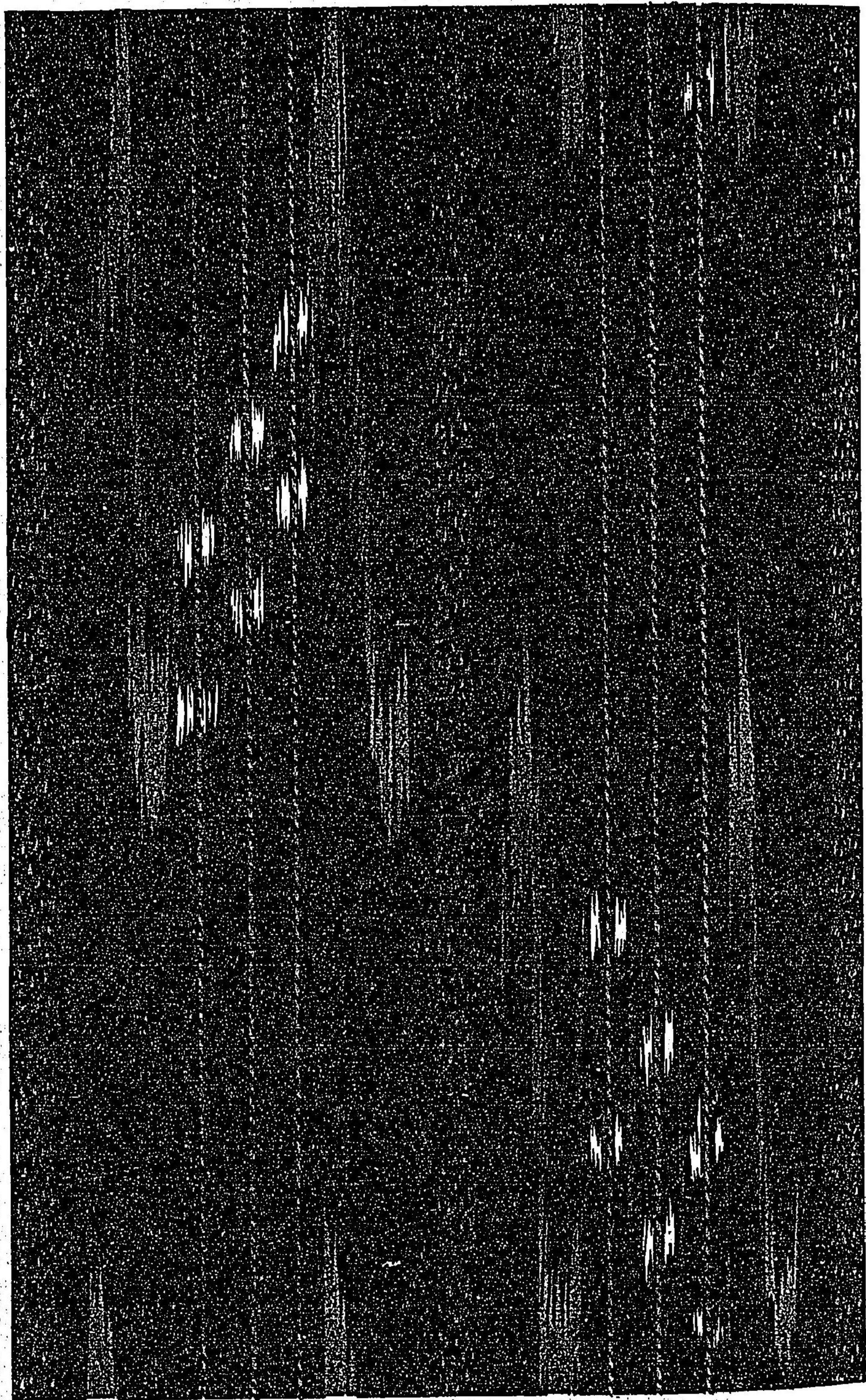
編 現物大

備
後
稿
現
物
大

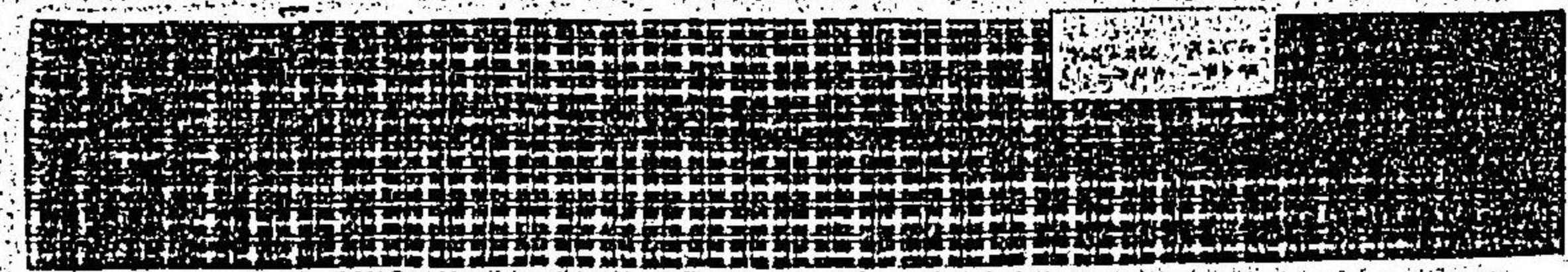
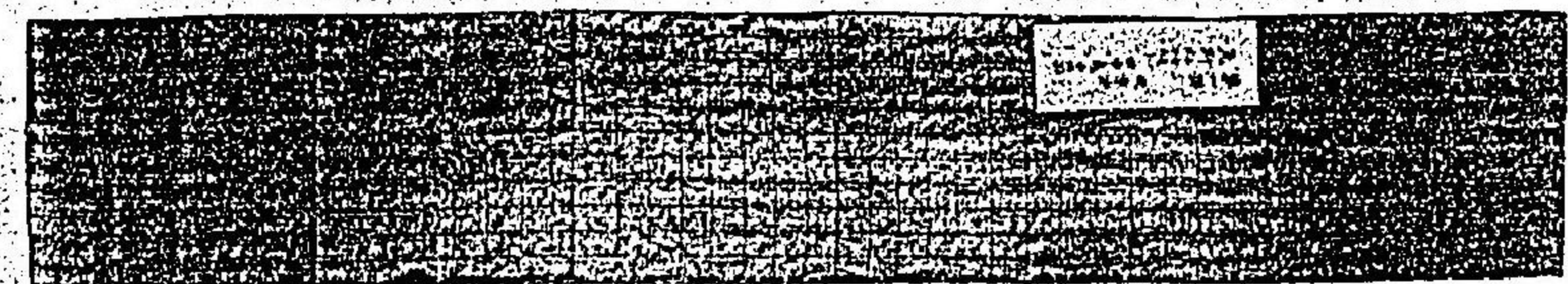
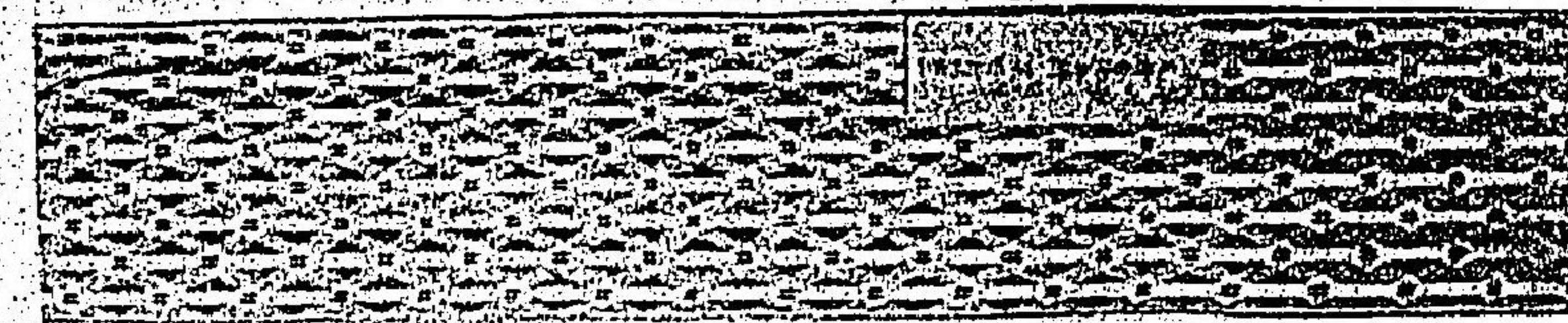
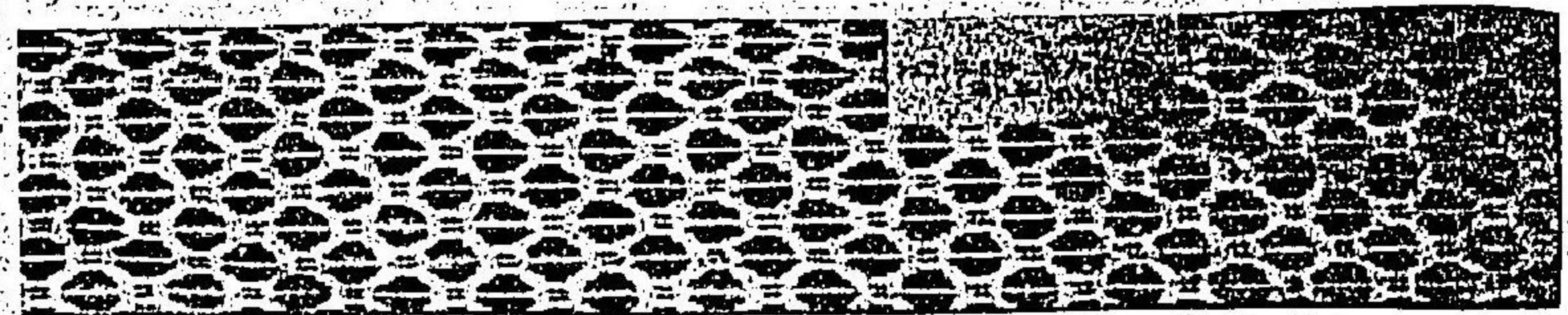
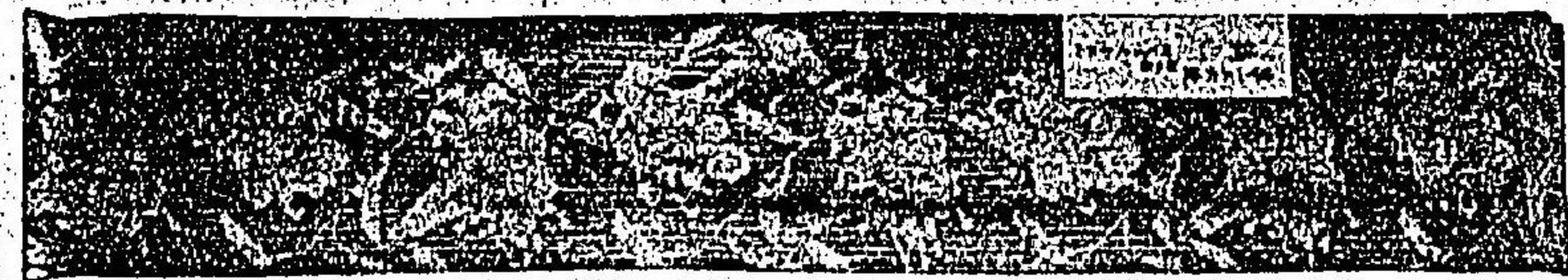


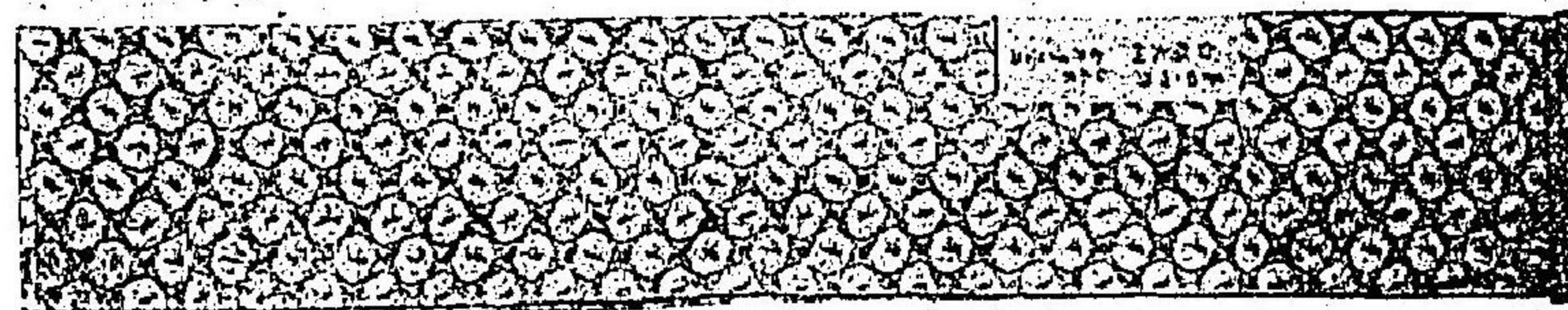
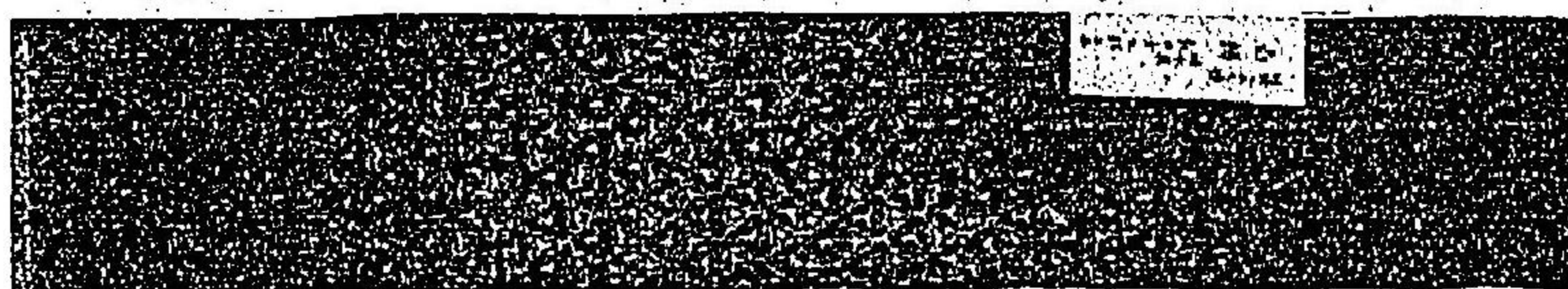
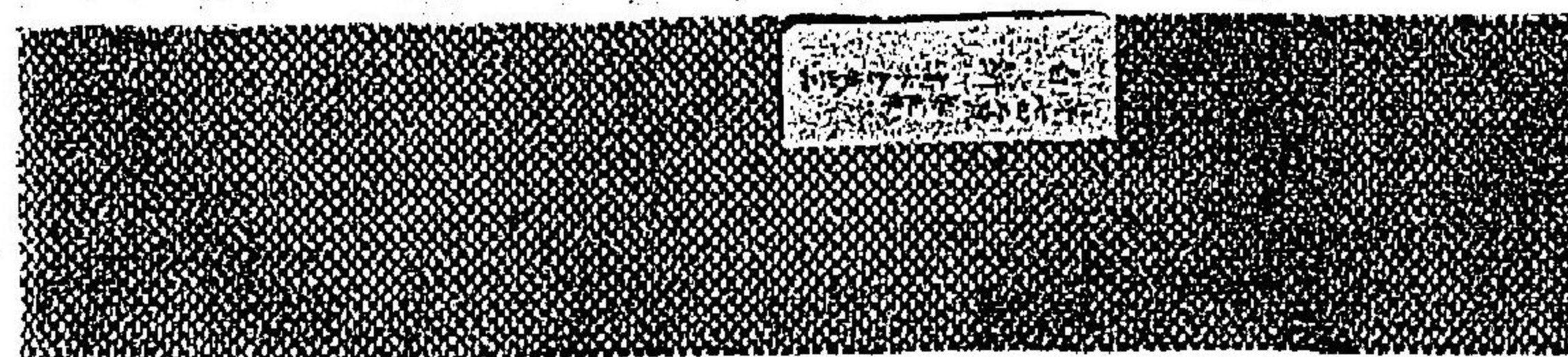
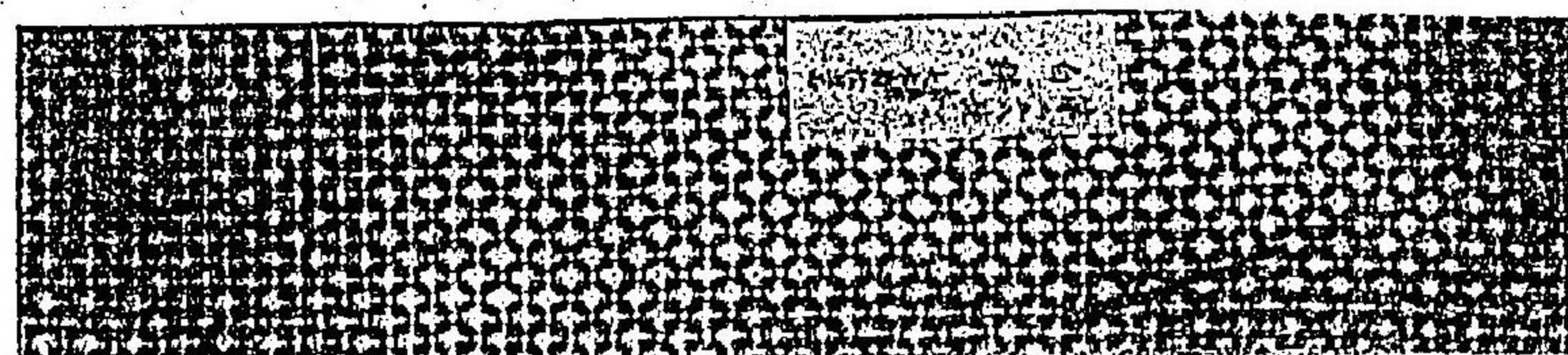
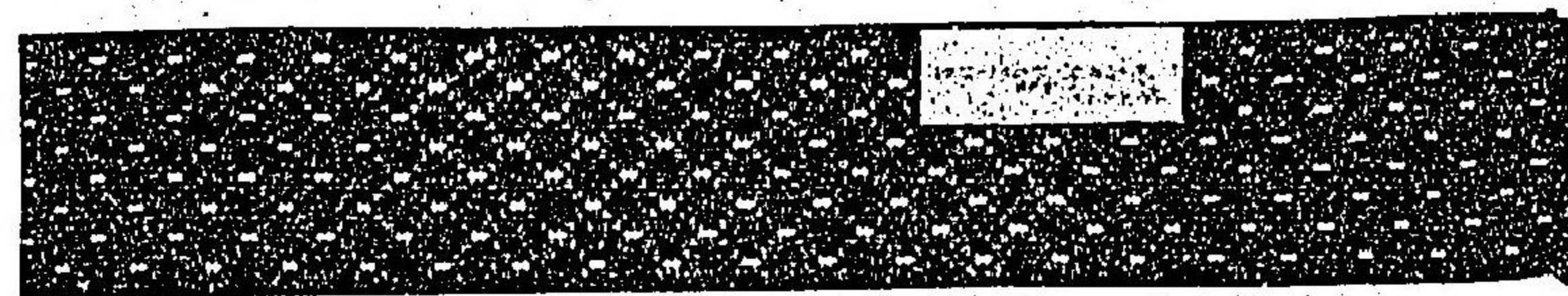
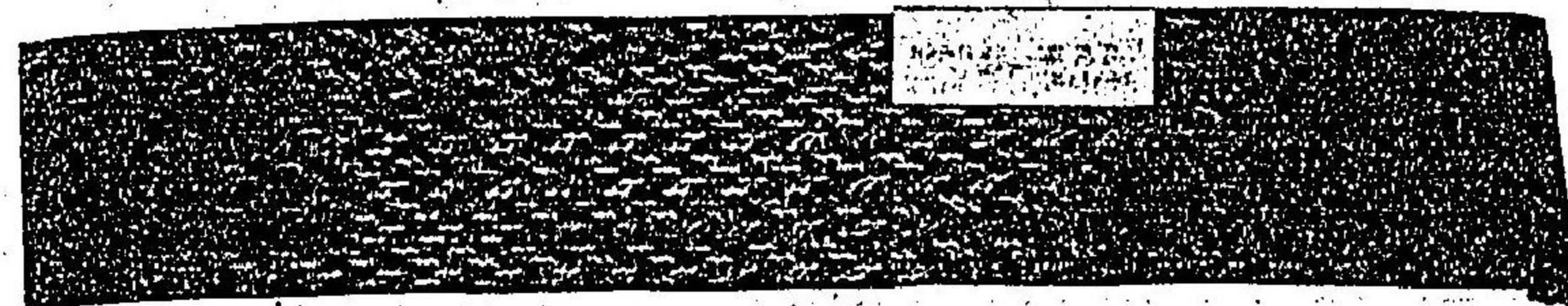
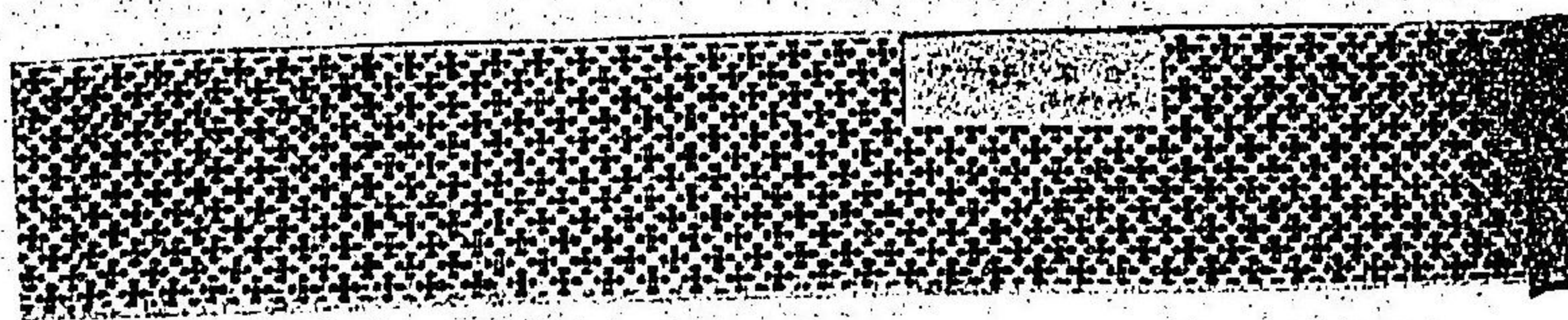
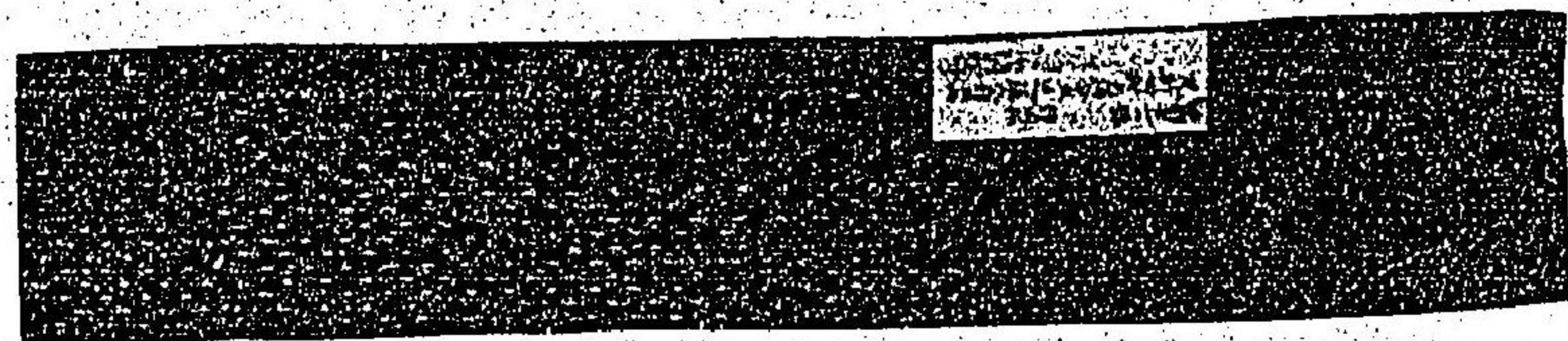
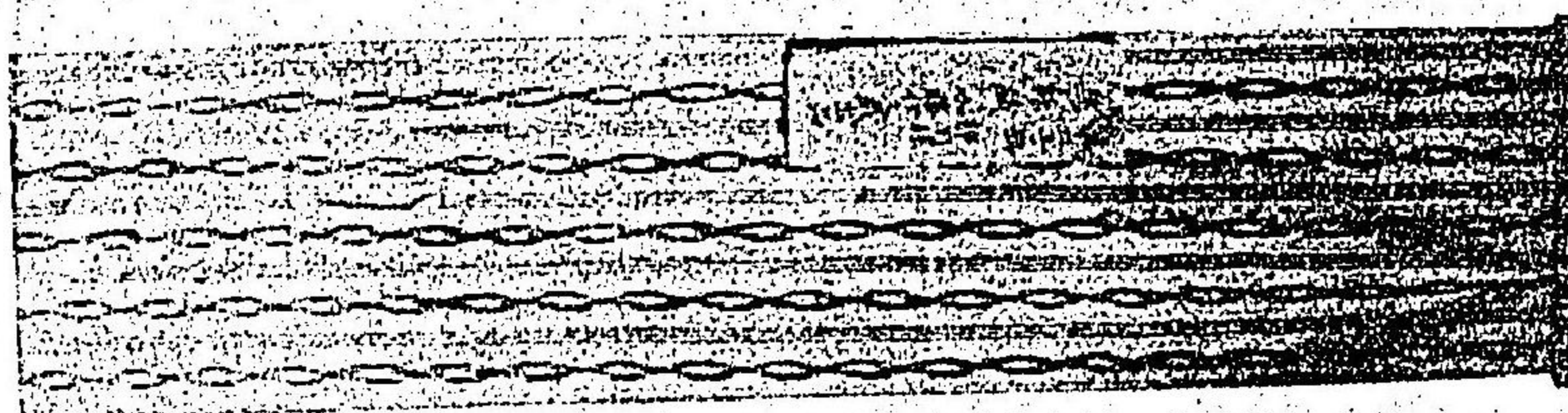
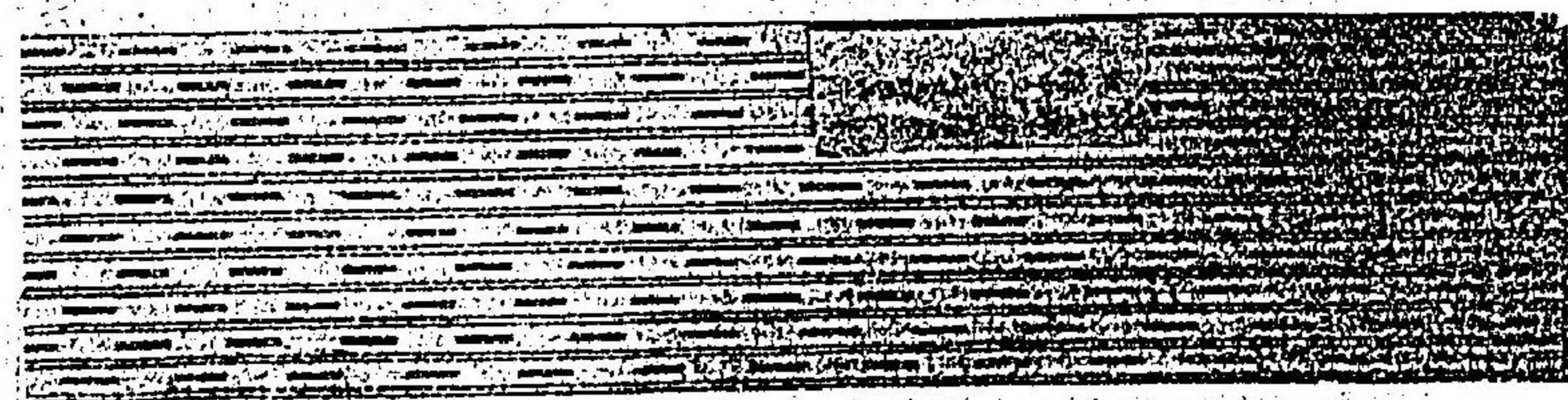
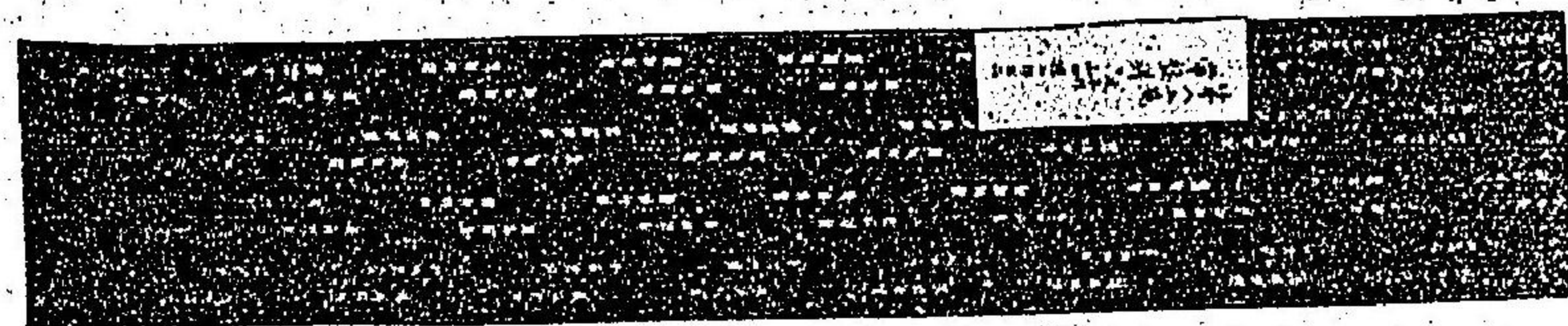
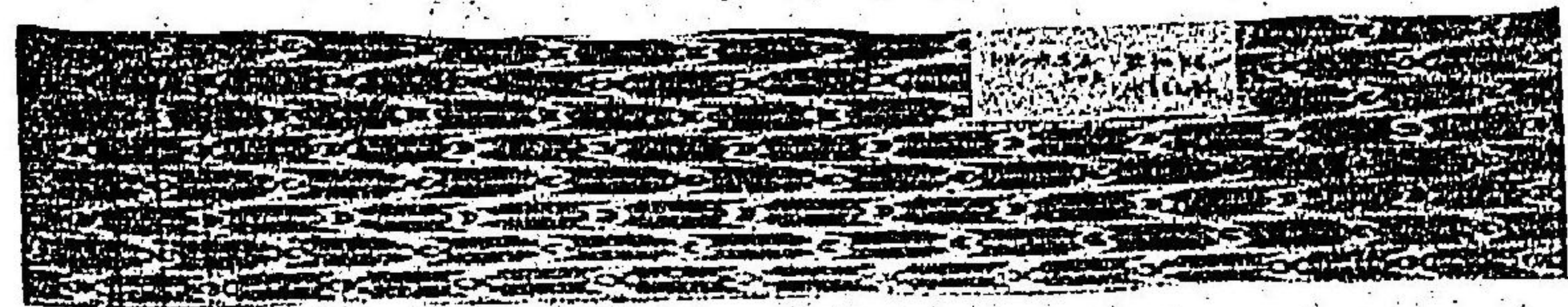
廣
島
縣
山
本
富
助

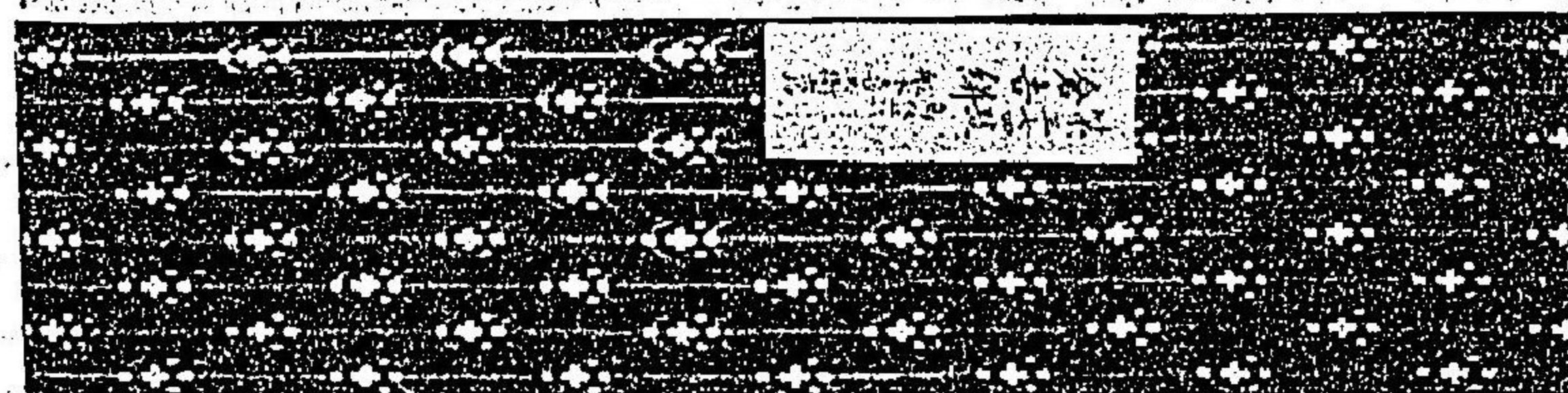
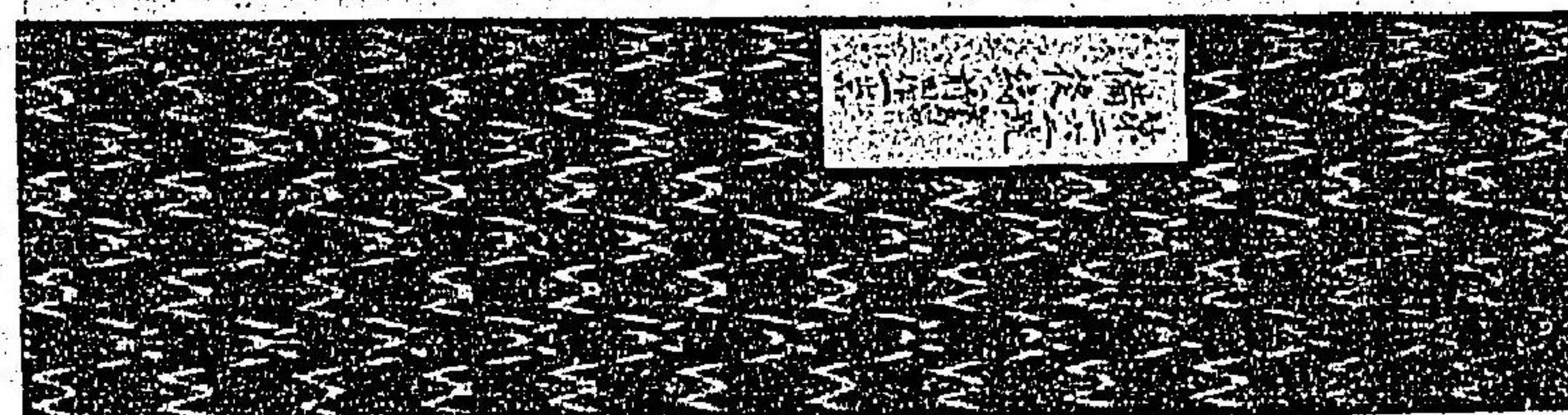
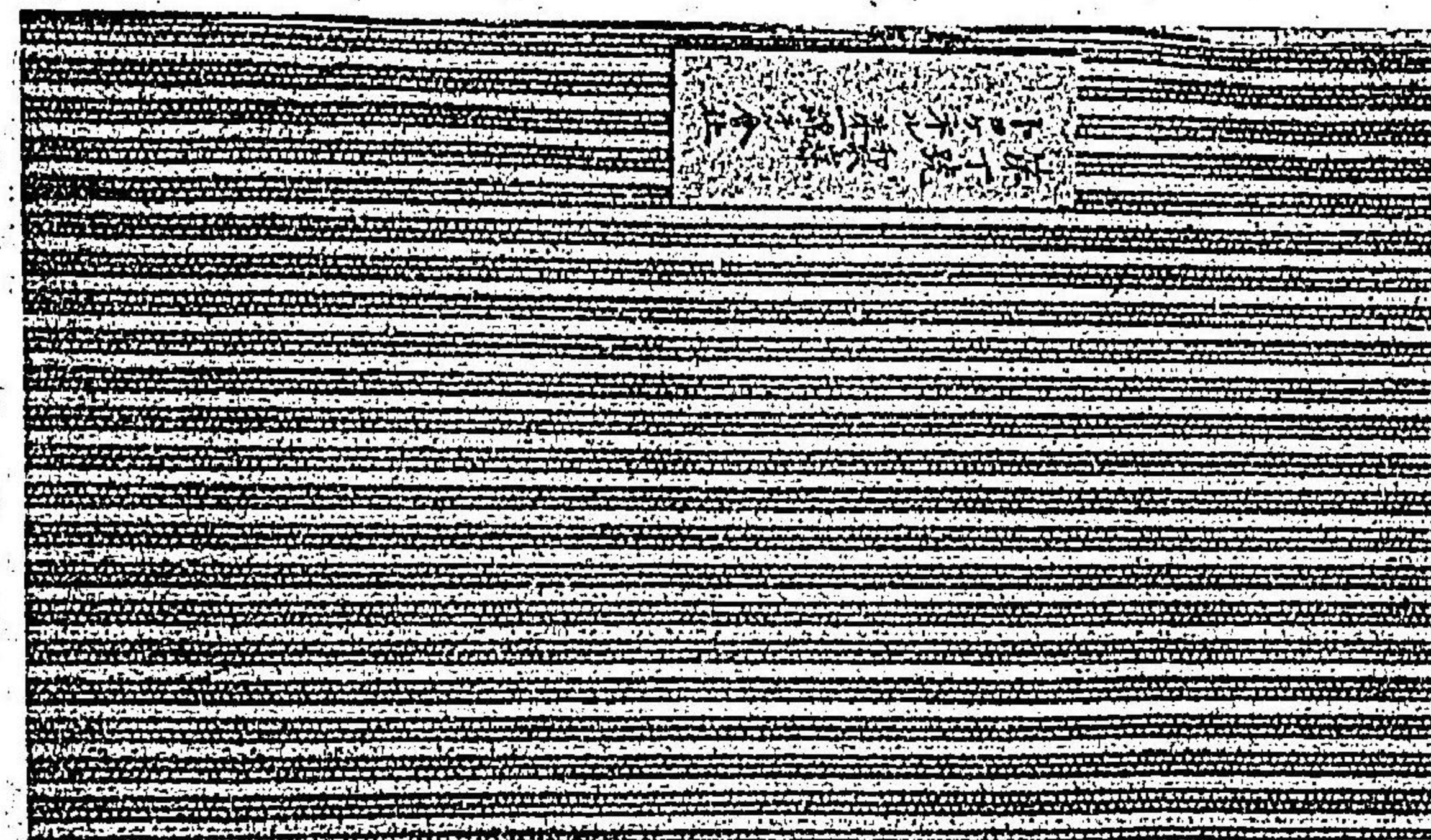
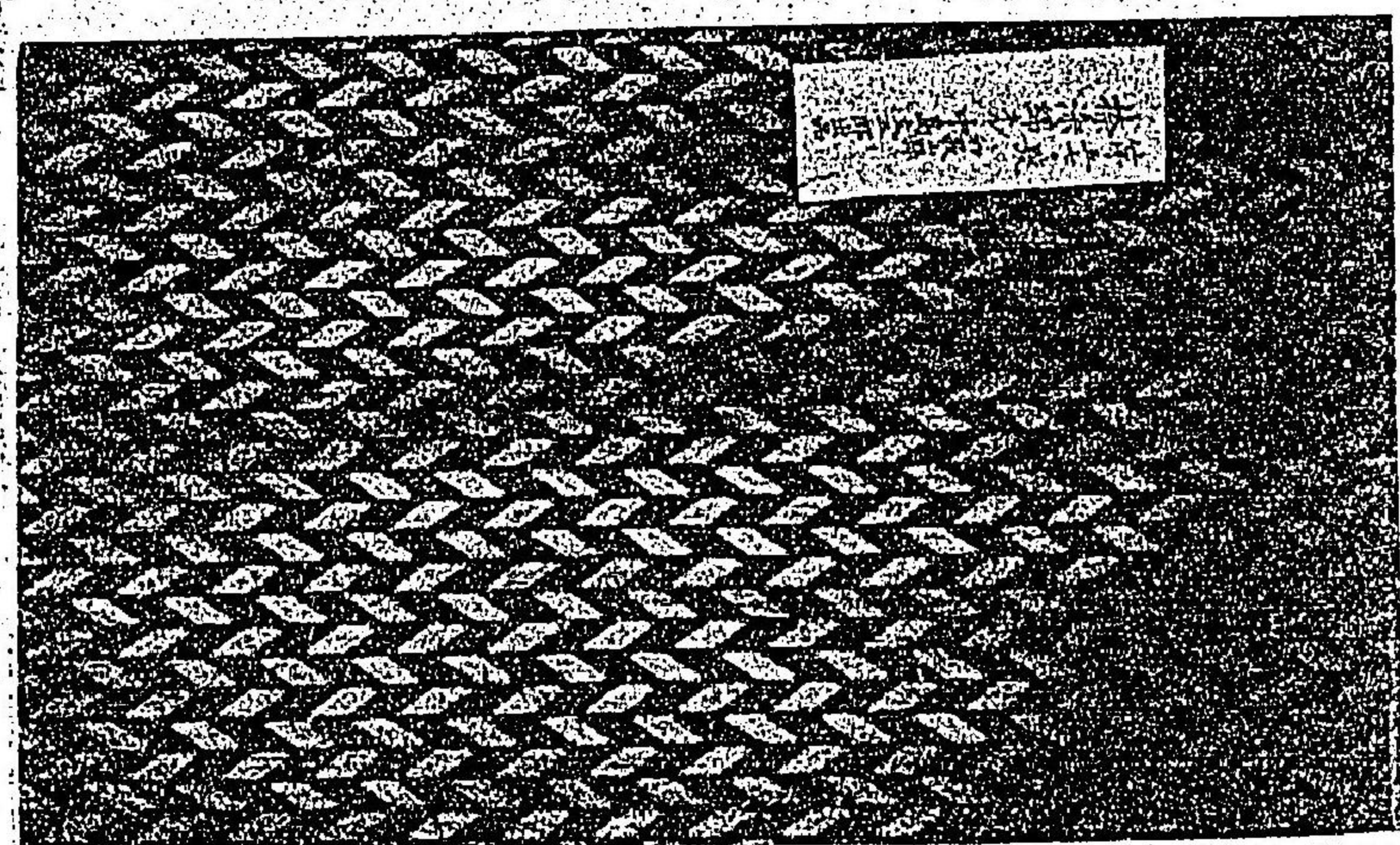
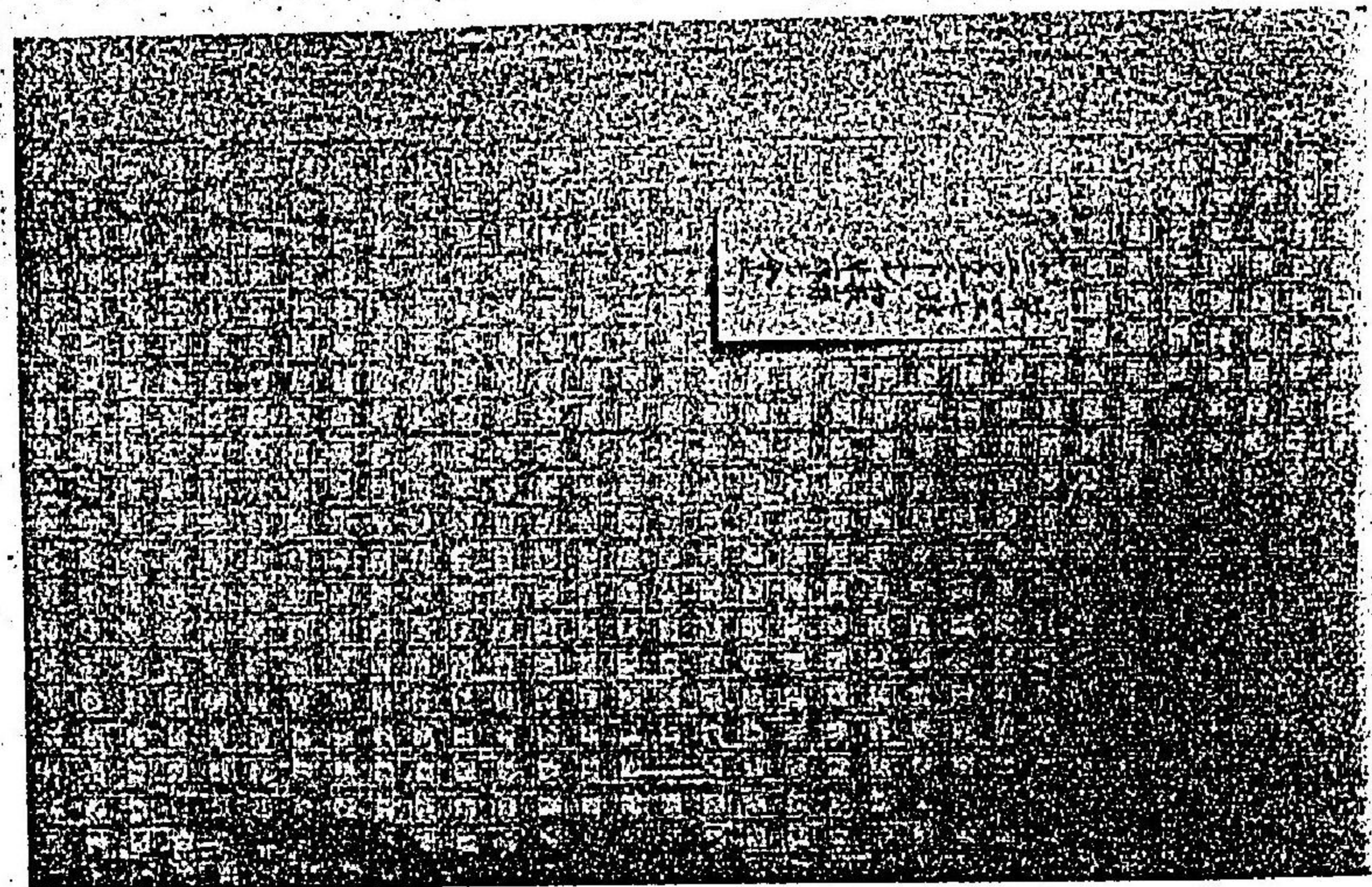
木綿双子緋縞 現物大

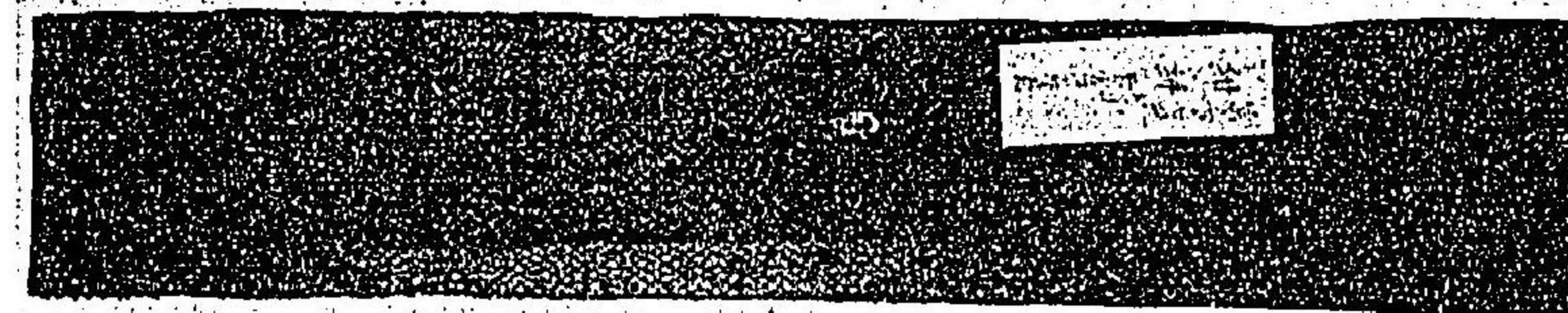
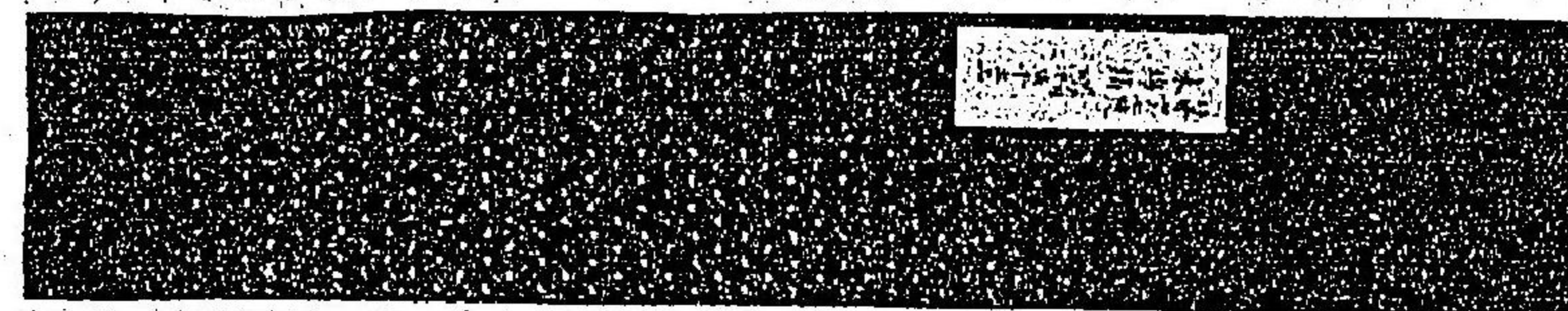
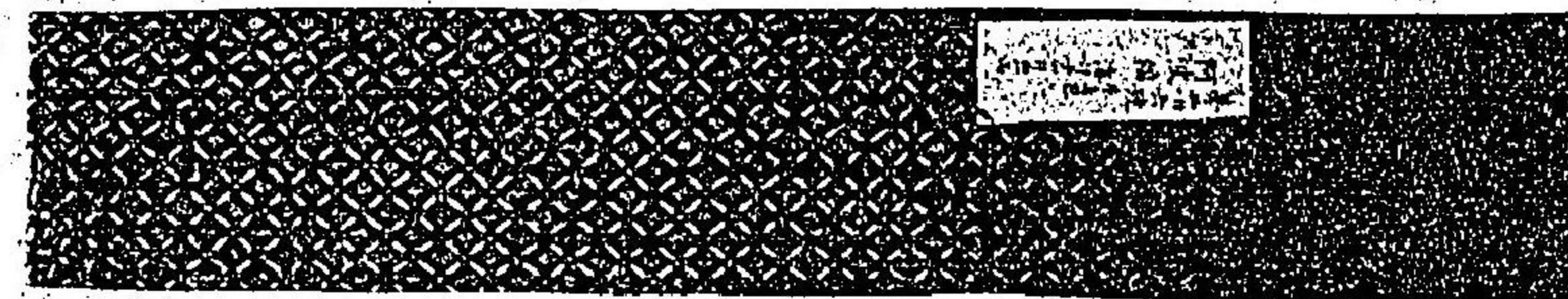
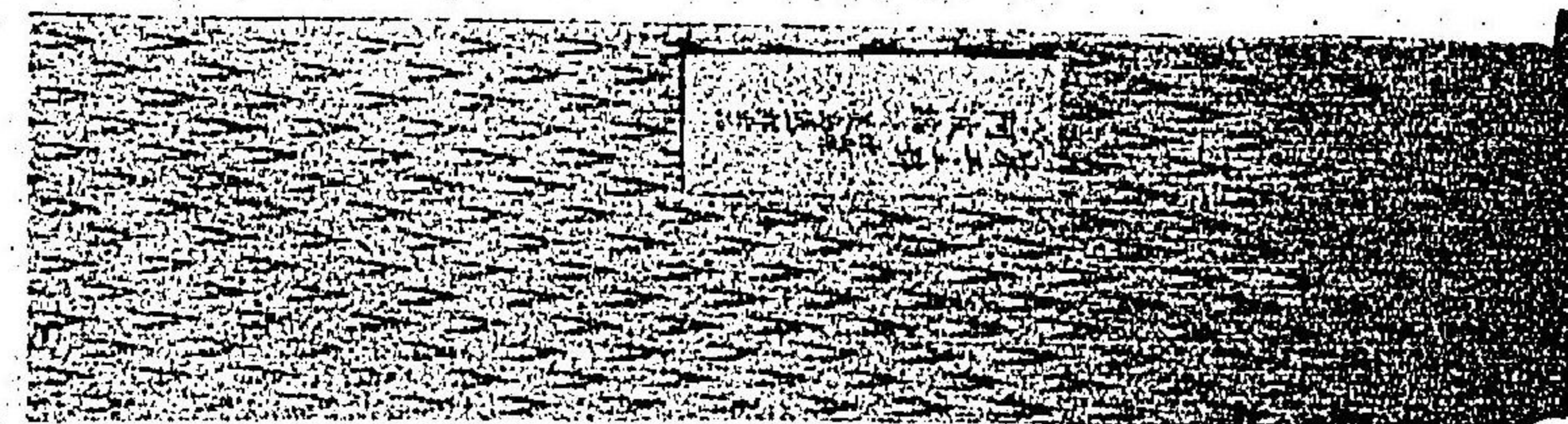
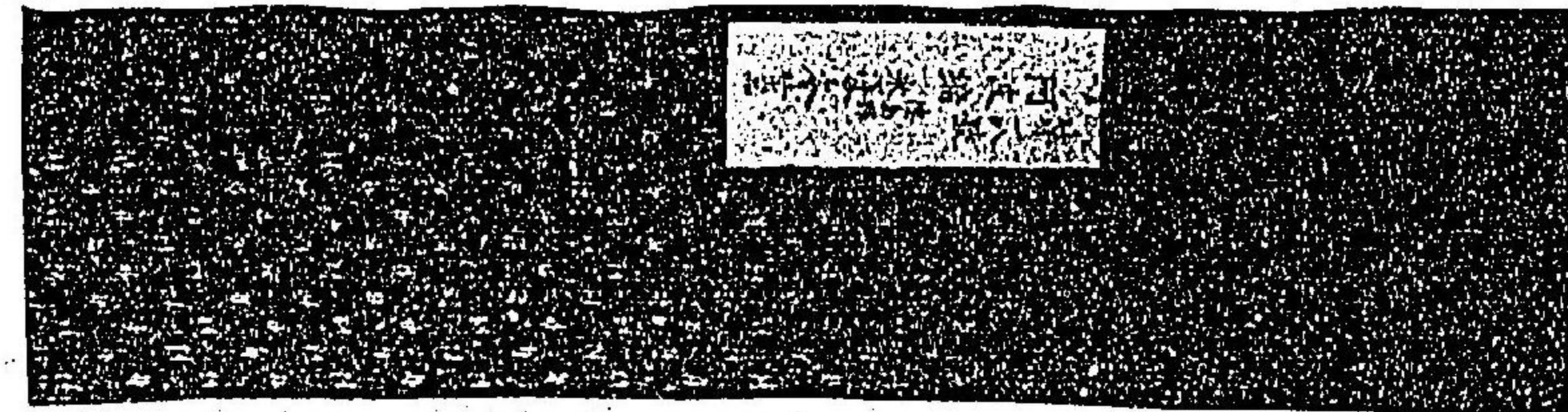
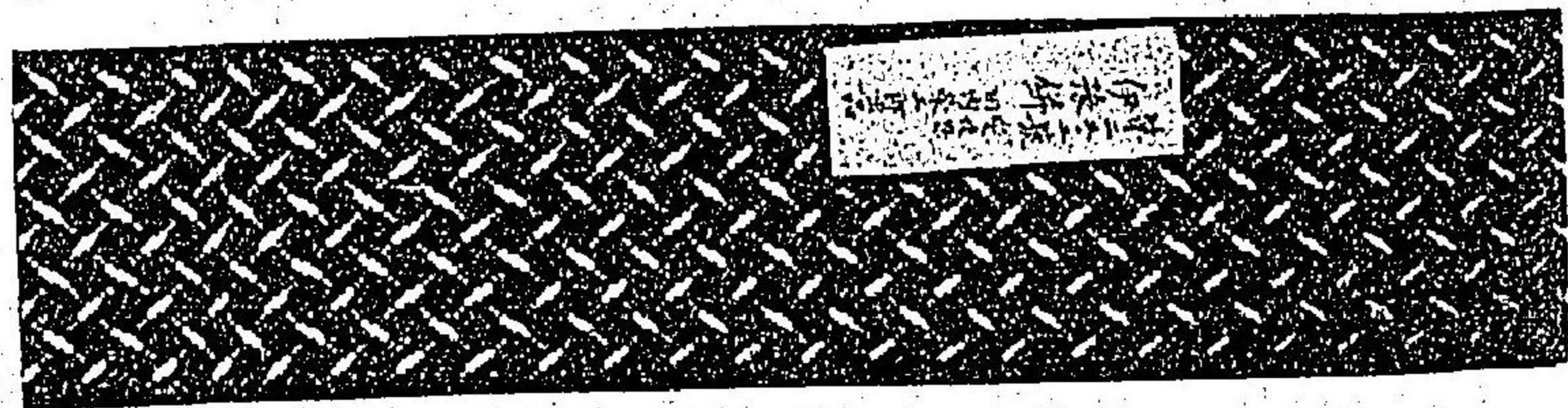
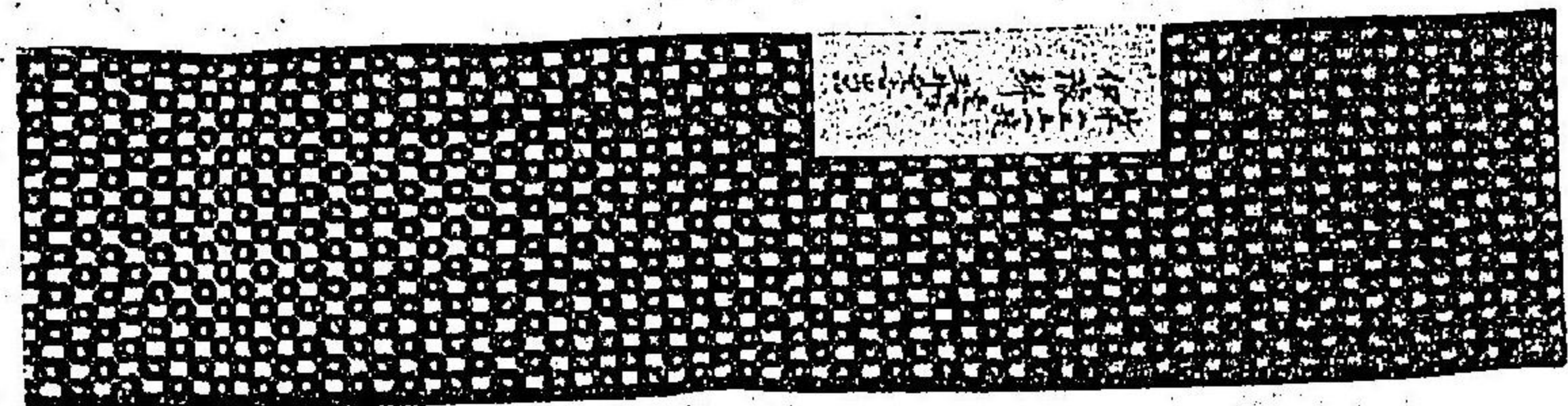
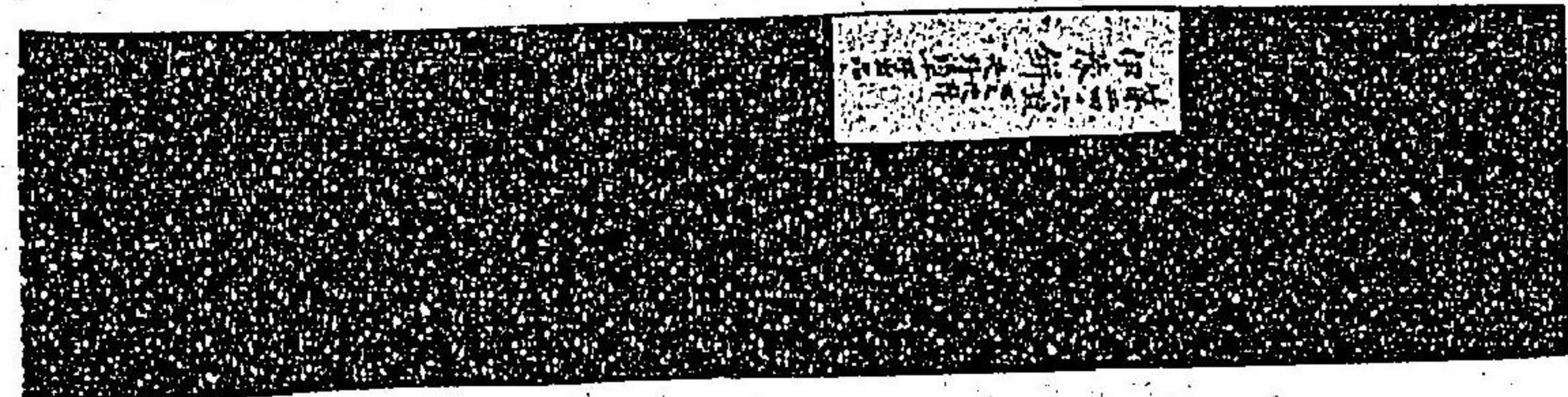
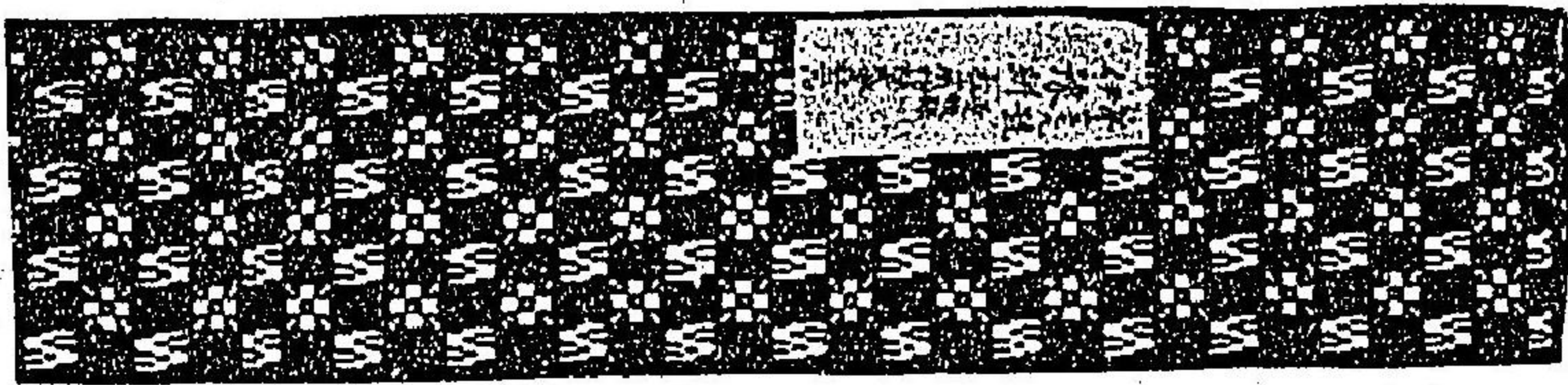


愛媛縣 高橋海太郎









著シク漸次進歩ノ狀況ニ在ルハ疑ナキ事實ナレドモ染色方法ニ於テハ進況甚渺シ大阪千艸染工場出品
 毛斯綸ハ機械捺染ニヨリ染色法モ亦進歩ノ狀態ニ在ルコトヲ認識シ得ベシ、又出品中毛斯綸友禪染ニ
 打型ヲナセシモノアリ其ノ考案佳良ナリト雖トモ實用ニ際シ伸長スルノ不完全ヲ免ル、コト能ハズ、
 然レドモ研究ノ結果其ノ缺點ヲ補修スルコトヲ得バ一層ノ流行ヲ喚起スルコトヲ得ンカ、本類出品並
 褒賞表ハ左ノ如シ、

第二十四類出品並褒賞統計表

府 縣 名	出 品		擬 賞 等 級				計	出品人員ニ 對スル擬賞 割合
	點 數	人 員	一 等	二 等	三 等	四 等		
東 京	一九四	四一	二	三	五	七	一三	四一
大 阪	五二一	二二四	二	四	五	三	七六	三四
神 戶	一四七	五九		五	六	〇	二三	三一
兵 庫	八〇	一九						二一
新 潟	一六六	三五			二	五	七	二〇
埼 玉	六一	一						〇
群 馬	二二	六				一	一	二六
計								

和歌	德島	香媛	愛媛	高知	愛知	計
山島川媛知	八	九	二	三	〇	二二五
五	七	七	二	一	七	七七三
六	五	八	二	一	七	二五二
二	二	二	二	二	九	四九六
三	三	二	一	一	八	九八八
二	三	一	一	一	七	一七九
三	二	二	二	一	七	二二二
二	二	二	二	一	七	二二二
三	二	二	二	一	七	二二二

府縣名	出	擬賞等級	級	計	計	對出合
茨城	五	二	三	二	二	二
栃木	五	三	三	二	二	二
奈良	三	三	二	二	二	二
三河	三	二	三	二	二	二
靜岡	七	二	三	二	二	二
滋賀	四	二	三	二	二	二
岐阜	二	一	三	二	二	二
長野	四	二	三	二	二	二
福島	三	一	三	二	二	二
石川	五	二	三	二	二	二
富山	二	一	三	二	二	二
鳥取	三	二	三	二	二	二
島根	二	一	三	二	二	二
岡山	四	二	三	二	二	二
廣島	四	二	三	二	二	二
山口	四	二	三	二	二	二
計	四〇	一七	二七	二〇	二〇	二〇

第二章

第二十五類、絹織物

其一、輸出以外ノ絹織物

絹織物ノ出品ハ三府二十八縣中、鳥取、和歌山、香川ノ三縣ヲ除クノ外他ノ府縣ヨリ、皆多少ノ出品ヲ見ザルハナシ特ニ本會ハ東京、京都、新潟、埼玉、群馬、栃木、山梨、滋賀、岐阜、長野、福井、石川、富山、愛知等ノ如キ有數ナル絹織製産地ヨリノ出品ニ係ルヲ以テ恰モ我國絹織物ノ粹ヲ網羅セラルベキガ如シト雖事實ハ之ニ反シ二三ノ府縣ヲ除クノ外多クハ其ノ府縣製造ノ普通品若クハ以下ノモノヲ出品セルガ如クニシテ出品地方ノ特色ヲ發揮セルモノニ乏シ是レ開會ノ時期ガ夏物ノ製造ヨリ冬物ニ移ラントセルノ時ニシテ製造者ニ其ノ準備ナカリシカ或ハ製品ノ廣告ニノミ重キヲ置キ其進會ノ目的ノ大部分ヲ忘却セルカノ如ク要スルニ本會ノ出品ハ概シテ前會ノ三重縣主催並ニ長野縣主催ノモノニ北シ意匠ト云ヒ製織又ハ仕上ト云ヒ共ニ著シキ進歩ノ蹟ニ乏シキハ實ニ遺憾トスル處ナリ今之カ出品ニ就キ一般ノ批評ヲ試ミムニ左ノ如シ

東京府

東京府ノ出品ニ係ル主ナルモノハ袖、御召、銘仙、黄八丈、座蒲團地、夜具地、綾地、「コート」地、袴地、帯地、絹織、絲織、黒八丈ノ類ニシテ就中男帶地、袴地、帯地、御召及絲織類ハ其ノ製造、最

多數ニシテ其ノ製造方法並ニ意匠圖案等他ノモノニ比シ多大ノ發展ヲナセルナルベキニ本會ノ出品ニ
 微スレバ帶地ニ在リテハ其ノ組織ニ特ニ見ルベキモノ多カラズ是レ男帶地ノ有數ナル產地八王
 子トシテ最惜マザルヲ得ザル所ナリ今ヤ本場博多地方ニ於テハ其ノ工費ノ點ニ於テ比較的製造ノ困難
 ナル位置ニ立テリ此際ニ當リ原料ノ產地ニ近ク職工ヲ得ルニ將タ販路ニ尤モ便利ナル位置ニアル八王
 子ノ如キハ營業者タルモノ奮勵ニ當リ宜シク考究スル所ナクンバアラザルナリ御召類ニ至リテハ長野縣
 主催ノ共進會ニ出品セル以來未タ兩三年ヲ經過セザル今日其ノ組織ト云ヒ品質ト云ヒ柄行ト云ヒ仕上
 ト云ヒ共ニ京都又ハ桐生ノ御召ニ比シ敢テ遜色ナク加フルニ絳物ノ熟練ニ於テハ著シキ進步アルヲ認
 メタルハ大ニ喜ブベク又其ノ仕上ノ如キ從前專ラ京都ニ送リシモノ今ヤ大部分ハ八王子ニ於テ之ヲ施
 行スルニ到レルハ以テ賞スルニ足ルベシ然レドモ其ノ緯絲ノ精撰未ダ宜シキヲ得ズ大絳物ノ中ニハ徒
 ラニ珍奇ヲ好ミタルノ結果其ノ宜シカラザルモノアルヲ見タルガ如キハ營業者ノ一顧ヲ要スル點ナリ
 トス又袴地ニ至リテハ長野縣主催ノ共進會ニ出品セル處ノモノニ大差ナク品質ノ殆ンド一定ニ近ヅキ
 ツ、アルハ蓋シ喜ブベキノ現象ナリ、（註） 絳、銘仙ノ類ハ著シキ進步ヲ認メズ一般ニ一層絹本來ノ光澤ヲ
 發揮セシメンコトヲ望マザルヲ得ズ各種絲織類ハ他ノ袴地男帶地御召類ニ比スレバ多大ノ進步ヲ認ム
 ルニ難シ其ノ他黒八丈、黃八丈、「コト」地等ニ至リテハ出品モ甚ダ多カラズ共ニ評スベキノ限リニ
 アラザルナリ「リボン」類ニハ「チーム」ノ出品アリタレドモ其ノ技未ダ熟セズ研究ノ餘地多ヲキ認

ム營業者宜シク一層ノ奮勵アラシムコトヲ望ム

京都府

京都府ノ出品ニ係ル主ナルモノハ高浪織、絲錦、金通廣帶、絹刺廣帶、厚板、縮織、朱珍、唐織、綴
 錦、琥珀等ノ女帶地類、「リボン」男帶地、肩掛、帽子卷壁張地、吳羽織、九重織、市樂、御召類、紋
 絹、紋壁、袴地、畫絹、金襴打敷、羽二重、縮緬等ニシテ其最多數ヲ占メシハ縮緬類、御召類及女帶
 地トス、女帶地ノ多クハ美術製作ノ一部ニ屬シ從テ其發展ハ殆ンド既ニ極點ニ近ヅケルモノノ如ク敢
 テ曩ニ三重縣主催ノ下ニ開會セラレタル共進會ノ出品物ニ比シ多大ノ進步アルヲ認ムルコトヲ得ズ僅
 ニ意匠ノ點ニ於テ有職模樣ヲ撰ブノ相違アルニ止マルガ如ク又織方ノ巧拙ヲ論ゼンヨリハ寧ロ世ノ嗜
 好ニ投ゼン様專ラ意匠ト配色トニ重キヲ置キシガ如ク特ニ其ノ色相柄合ニ至リテ、婦人社交ノ現狀蓋
 シ昔日ト異ナルアルヲ以テ此點ニ關シ著シキ變化ヲ來タセルモノノ如クナリキ、然レトモ其ノ用絲ノ
 撰擇及組織ノ應用並ニ製織法ニ關シ高浪織ノ如キ組織ノ應用アリ原料ニ絹紡絲ヲ利用セルモノアリシ
 ト雖多クハ是等ノ諸點ヲ全然放棄シ他ヲ顧ミザルモノ最モ多キハ先輩機業地トシテ將タ優品珍種ノ生
 產地トシテノ京都ニ取ラザル處ナリ特ニ縹子地ノモノニアリテハ著シキ進步ノ跡ヲ認メズ用絲ノ撰擇
 宜シキヲ得ズ且製織法ノ不注意及仕上ノ不完全ハ以テ經筋ノ著シク表ハルモノアリ是等ニ就テハ宜
 シク營業者ノ深キ研究ヲ要セザルベカラザル現象ナリ御召類ニ至リテハ商組合ノ出品ニ係ルモノト製

造組合ノ出品ニ成レルモノト其ノ出品ニ全然ニ派アルモノノ如ク製造組合ノ出品ガ商組合ノ出品ニ此
 シ一般ニ遜色アルモノノ如ク又其ノ價ニ於テモ稍ヤ高キニ過ルガ如シ之ハ商組合ニ對スルノ關係ヨリ
 シテ來リタルノ現況ナラン歟サレド出品中ニハ又著シク其ノ品質價格ノ不相當ノモノアリシガ如キハ
 一地方ノ出品トシテ誠ニ取ラザルノ所ナリ然レトモ其ノ出品ハ概シテ意匠配色趣味等ノ點ニ於テ優ニ
 他府縣ノ製品ニ比シ一頭地ヲ拔ルガ如シ而シテ大體ニ於テ進歩ノ跡ニ乏シカラズト雖其ノ染色ノ不堅
 牢ナル品質ノ不揃ナルハ京都ノ御召トシテノ一缺點ナラザルベカラズ尙絢物ニ至リテハ研究ノ餘地多
 ク存スルヲ見ル又組織ノ變化、配色ノ工夫ニ傾ケルノ結果ハ趣味、品質ヲ忘レタルモノアルガ如キハ
 共ニ現今各機業地ニ於テ盛ニ御召類ヲ研究シツツアルノ際特ニ當業者ノ注意ヲ要スル處ナリトス
 明石織、紋縮緬類ノ進歩ハ其跡明ナリト雖平縮緬類ニ至リテハ玉石混交ノ感ナキ能ハズ宜シク絲質ノ
 撰擇、捻絲ノ整齊及精練ノ完美ナランヲ期シ且製織仕上ノ方法ニ關シ一層ノ研究ヲ重ネ品質ヲ一定セ
 シメント特ニ希望ニ堪ヘザルナリ當業者ハ宜シク一致ノ歩調ヲ以テ以上ノ諸點ニ關シ改良ヲ試ミ組
 合ハ其ノ目的ヲ達センガ爲メ奮勵一番セサルベカラズ「リボン」類ニハ飾リ「リボン」、帽子卷「リボ
 ン」、「チーム」、肩掛「フランチ」等ノモノアリシガ其ノ製織方法ニ於テ就中耳ノ組織ニ於テ未ダ不完全
 ナルヲ認メタリ特ニ原料ノ精撰宜シカラザルト箴ノ撰擇其ノ當ヲ得ザル結果ハ經筋ノ著シク顯ハル、
 モノニシテ之ハ「リボン」トシテノ大缺點ナリトス又「チーム」ニ於テモ製織法未ダ不完全ナルヲ免

カレズ今ヤ輸入防遏品トシテ且此等「リボン」研究ノ必要ナル時期ニ際シ尙且出品物ノ如キヲ見ルハ
 大ニ遺憾トスル所ナリ當業者宜シク奮勵シテ一層ノ研究ヲ積ムヲ要ス其ノ他ノ絹織物ニ至リテハ出品
 點數多カラズ又著シキ進歩ヲ認メザルヲ以テ茲ニ批評ヲ省略セン

大阪府

大阪府ノ出品ニ係ル主ナルモノハ羽二重、丸帶、御召、帶側、熨斗目織、各種ノ女廣帶、男帶、嬰袍
 練精好無線織、袴地等ノ類ニシテ其ノ出品極メテ少數ナリ而シテ其等ノ製作ハ西陣ノ優品ニ比シ未ダ
 遜色アルヲ免レズ

神奈川縣

神奈川縣ノ出品ノ主ナルモノハ津久井絹、羽二重、相陽織、綾絲織、節絲織、蒲團地ノ類ニシテ特ニ
 津久井絹ニ至リテハ近來著シク意匠並ニ製織共ニ進歩ノ跡アルヲ認ムレドモ未ダ本場甲斐絹ニ比シ其
 ノ品質、價格等ニ大ニ劣ル處アリ其ノ他節絲等ノ絹織物類ハ進歩ノ跡アルモノニ乏シカラズト雖柄各
 並ニ仕上等ニ於テ猶多大ノ研究ヲ要スルモノアリ特ニ其ノ色澤ヲ缺ケルモノ多キニ至リテハ當業者ノ
 研究ヲ要スル處ナリトス

兵庫縣

兵庫縣ノ主ナル出品ハ縮緬、博多男帶、市樂、紋羽二重ノ類ニシテ孰レモ其ノ點數多カラズ共ニ未ダ

幼稚ノ域ヲ脱セズ原絲ノ撰擇ハ勿論、製織ニ於テ猶ホ研究ノ餘地多キヲ認ム當業者宜シク奮勵センコトヲ望ム

新潟縣

新潟縣ノ出品ハ袴地、羽二重、練絹、斜子、節絲織太織、銘仙、生絹、市樂、男帶、羽織地、各種上布各種透綾ノ類ヲ主ナルモノトス就中袴地ハ其ノ柄柄及製織ニ於テ多大ノ進歩ヲ現シ賞スルニ足ルベキモノアリト雖本縣特産タル透綾ニ至リテハ其ノ柄柄ト云ヒ緋ノ工風ト云ヒ孰レモ前會ノ出品ニ比シ格別ノ進歩アルヲ認メズ柄尾紬ニ至リテハ其ノ出品數甚ダ多カラズ、高貴綾ノ紬類ハ猶一層ノ研究スベキ餘地ヲ存ス要スルニ是等ハ原絲ニ精撰ヲ施シ其ノ製織準備ヲ精確ニ施行シ然シテ所謂織物ノ趣味ハ仕上法ヲ以テ之ヲ補足スルコトニ務メナバ品位ヲ一定シ需用モ更ニ増加スルヲ見ルベシ又羽二重ニハ生物アリ練物アリ孰レモ原絲ノ撰擇其ノ宜シキヲ得ザルモノ多シ然シテ整理ノ注意足ラズ箴ノ撰用ニ缺クルアルヲ以テ經筋ノ著シク顯ハルルハ遺憾トスル處ナリ又製織法ノ不注意ニヨリ緯ノ「スクヒ」等ヲ生ズルガ如キハ未ダ製織ノ完全ナラザルヲ證ス是等ハ當業者ノ留意ヲ要スル點ナリトス

埼玉縣

埼玉縣ノ出品ニ係ルルモノハ太織、生絹、斜子、類ヲ主ナルモノトス、太織ニハ秩父縞及飯能縞ノ二種アリ、秩父縞ニ就テ見ルニ前會ノ出品トハ全ク異ナル方法ヲ以テセリ即チ從來ハ織下ノ儘ニテ出品

セシガ本會ニハ其ノ全部ヲ仕上セルコト是ナリ抑モ秩父縞ハ其製織工程中多量ノ經糊ヲ附着スルヲ以テ織下シ儘ノモノニ在リテハ糊ノ光澤ヲ發揮セズ需用者ハ之ヲ湯通シ又ハ仕上ヲ施セル後始メテ其ノ織物ノ本質ヲ發揮セシメ得ベキモノナルヲ以テ彼ノ越後羽二重ノ如ク又ハ群馬ノ生絹ノ如ク需用者ハ其ノ外見ヲ以テ直チニ出品物ノ品質ヲ判斷スルニ難ク柄柄ハ湯通シ又ハ仕上ノ後如何ニ發現スルモノナルヤヲ豫想シ然ル後之ヲ購入セザルベカラザルノ不便アルノミナラズ又製織中多量ニ附着スル糊料ハ以テ絹本來ノ光澤ト趣味ヲ害シ、製織ニ或ハ容易ナル處アルナランモ、機業家ハ其ノ織物ガ仕上後如何ナル外見趣味ヲ呈スルモノナルヤヲ實見スルノ機ヲ有セザルヲ以テ從テ原絲ノ撰擇、製織法ノ研究ニ遅々アルヲ免カレザルナリ而シテ問屋業者ハ從來ノ習慣上ヨリシテ或ハ其ノ仕上セルモノヲ取扱フニ關シテ不同意ナルモノアルベシト雖之ハ一時ノ變化ヨリ來ルノ不便ニ止マリ品質ノ統一ヲ得ルコト品質ノ善惡ヲ判スルニ容易ナル等多ク利益ノ存スル處アルヲ思ハズ當業者及之ニ關スル商業者ハ決然其ノ仕上法ヲ斷行シ秩父縞ヲシテ完製品トシテ市場ニ出スベク務メザルベカラズ然シテ從來秩父縞ハ縞ノ製造ヲ專ラトセシガ世ノ嗜好ニ乘センガ爲メ近來柄物ヲ盛ニ製織スルニ至レリ之レ秩父縞ノ發展上然カラザルベカラサルモノニシテ蓋シ事當然ニ屬スルモノナリト雖其ノ發達ノ遅々ニシテ技術ニ於テ未ダ幼稚ノ域ヲ脱セザルヤノ感ナキニアラザルハ當業者ノ特ニ奮勵ヲ要スル處ナリ、飯能縞ニ至リテハ秩父縞ニ比シ稍ヤ整然タル原料ヲ撰用スルノ結果製品ハ比較的齊ヘルノ感アレドモ其ノ適用宜シ

キヲ得ザルモノ多ク不揃玉石混交タルヲ免カレズ製造家ハ各々共同心ニ乏シク一騎打ノ感ナクンバアラズ飯能太織ノ名未ダ高カラザル蓋シ故ナキニアラザルナリ同業組合ハ今少シク之ニ留意シ染色ヲ改良セシメ其ノ製品ノ一定ヲ期スルガ如クニ指導スルニアラズンバ本場秩父對等ノ位置ヲ得ルニ前程猶遠ノ感ナクンバアラズ、生絹及斜子類ニ至リテ其ノ技極メテ精好ニ達シタルモノ多クアルハ喜ブベキ處ナリト雖是レ亦玉石混交タルヲ免カレズ劣等品ノ比較的多キハ遺憾トスル處ナリ之等劣等品ニ關シテハ長野縣主催一府十縣聯合共進會ニ於テ既ニ改良ヲ報告セシ處ト全ク同一ナルヲ以テ當業者ハ再ビ該報告書ニ就テ見ルヲ要ス

群馬縣

群馬縣ノ出品ハ伊勢崎縮、御召、縮緬、生絹、御召絹、縞子女帶地、琥珀女帶地、節絲織、節綾絲織袴地、「リボン」ノ類ヲ主ナルモノトス、本會ノ出品ヲ見ルニ孰レモ皆其ノ群馬縣特産タルノ實ヲ發揮セルモノニ乏シク稍ヤ伊勢崎縮ト御召縮緬ト二者ニ於テ見ルベキモノアルニ止マリシハ其ノ熱心ノ點ニ於テ有數ナル機業地ノ群馬縣トシテ實ニ取ラザル所ナリ、伊勢崎縮ハ緋模様ノ工風仕上ニ留意セル點及桐生町及其ノ附近ニ産スル御召縮緬カ愈々優品ヲ産出スルニ至リシコトハ共ニ喜ブベキ現象ナリ、琥珀女帶地、縞子女帶地ニ至リテハ桐生製品トシテ其ノ意匠ニ稍ヤ進歩ヲ示セルモノアル外製織ノ技ニ至リテハ全然注意ヲ缺キ前長野縣共進會ノ時ノ出品ニ比シ著シキ損色アルヲ認メシハ甚ダ遺憾

トスル處ナリ、節絲織、生絹等ニ至リテ、出品點數甚ダ多カラズ優品ニ乏シク茲ニ批評スルヲ略ス

茨城縣

茨城縣下ノ出品ハ紬類少數ノ出品アリ製品ハ緋ニ於テ見ルベキモノアリト雖多クハ依然トシテ稱スルニ足ルモノニ乏シ

栃木縣

栃木縣ノ出品ハ風通、生絹、琥珀、御召、緋縮緬、胴裏地、寫真織、紋紗織、蠶織、縞絹、結城紬、「チーム」等ノ如ク其ノ種類ハ多クアルガ如シト雖各々其ノ出品數量ハ極メテ尠ナク又製品ニ至リテモ「チーム」ノ優秀ナルモノアルヲ除クノ外孰レモ群馬縣ノ出品ニ等シク栃木縣特ニ足利本來ノ特色ヲ發揮セルモノナク多クハ特ニ地方向ノモノノミヲ撰ミ之レヲ出陳セルモノニハアラズヤト疑ハシム若シ果シテ然カラシカ關東有數ノ機業地タル栃木縣トシテ實ニ取ラザル所ナリトス依テ茲ニ其ノ出品ニ就キ一々之カ批評ヲ下スヲ省略スルコトトセリ當業者宜シク關東有名ノ機業地ヲ以テ自ラ任ジ其ノ業ニ奮勵センコトヲ望マザルヲ得ズ

奈良縣

奈良縣ノ出品ハ羽二重、平絲織ノ數點アルニ止マリ茲ニ評スルノ價值ナシトス

三重縣

三重縣ノ出品ハ白絹、白紋綾、紋絹縮、茶紋綾、等ノ出品アリ數量モ尠ク又研究スベキ餘地多キヲ認ムルノミ

静岡縣

静岡縣ノ出品ハ御石、博多帶地、紋織、絹、唐織、錦、「ゴブラン」織、斜子絹、縮緬等ニシテ其ノ數量モ多カラズ品質モ良種ニ乏シク普通ノ製品タルニ過ギス

山梨縣

山梨縣ノ出品ハ甲斐絹類、加良絲織、縹子等ノ類ニシテ其内最多數ヲ占シハ甲斐絹ナリ、甲斐絹ハ近來一般ニ堅牢ナル染料ヲ採用セシヲ以テ色合モ著シク改良セラレ色澤ハ一層増加シ先年山梨縣主催ノ下ニ開カレタル共進會ニ出品セルモノニ比シ其ノ進歩著シキモノアルヲ認メタルハ大ニ喜ブ處ナリ、緋物ニ至リテハ多大ノ工風ヲナシ珍奇ノ意匠ヲ案出スルニ務メツツアルハ甲斐絹ノ爲メ特ニ賀スベキノ現象ナリトス、然レドモ以上ノ優點アルト同時ニ製織ニ注意スルコト愈々遠カレルノ憾ナキ能ハズ當業者タルモノ決シテ染色ト柄合ノミノ改良研究ヲ以テ足レリトセズ甲斐絹ノ特質ヲ附與スベキ製織ノ技術ニモ尙一段ノ改良ヲ加ヘ且其ノ仕上ノ法ニ於テ外見及ビ趣味ヲ改良シ之ヲ以テ其ノ製品ヲ一定スルコトヲ得バ甲斐絹ノ發展ハ期シテ待ツベシ若然ラザルニ於テハ其發展ハ極メテ遅々タルノミナラス或ハ退歩ノ狀ヲ呈スルニ至ルナキヲ保スベカラズ當業者宜シク奮勵一番スベシ、加良絲織ニ至リテ

ハ其ノ製品更ニ改良ノ跡アルヲ見出スヲ得ザルハ遺憾ナリ

滋賀縣

滋賀縣ノ出品ハ縮緬、斜子、節絲織、羽二重、天鷲絨、等ニシテ其ノ主ナルモノハ縮緬ナリ縮緬ハ所謂濱縮緬ト稱スルモノニシテ岐阜及峰山製ノモノニ比シ經緯絲使用ノ法ヲ異ニスルヲ以テ其ノ外見趣味ニ於テモ又之ヲ異ニスル處アリ今其ノ出品ニ就テ之レヲ見ルニ優品ニ乏シカラズト雖中ニハ其ノ經絲ニ細糸ヲ撰ヒ其ノ配列數ヲ減少シ以テ「シボ」立ヲ容易ナラシムルガ如キモノアルヲ認メタルハ濱縮緬トシテ實ニ取ラザルノ製織法ナリトス又其ノ緯絲ノ撚絲法及精練後ニ於ケル青味附等ニ於テハ齊一ヲ缺ケルモノ多々アルハ蓋シ其ノ製造ガ大規模ニ行ハレザルガ爲メナリト雖當業者ノ研究及注意ノ足ラザルヲ證スルニ足ランカ、天鷲絨ハ其ノ製織ニ近來著シキ發達ヲ示セルハ大ニ喜ブ處ナリ猶一層染色ニ注意スルヲ望ム其ノ他ノ織物ニ關シテハ未ダ研究スベキ餘地多キヲ認ムルヲ以テ當業者ハ宜シク一層ノ奮勵ヲ要ス

岐阜縣

岐阜縣ノ出品ハ縮緬、繪絹、鹽瀬、絹、羽二重、紋羽二重、斜子、逼絹、古鏡織、節織、會代絹、染絹白紬、「ゴガチ」織、「ツナキ」織、等ニシテ其内最多數ニシテ而モ岐阜縣ノ主ナル物産トシテハ縮緬ノ右ニ出ヅルモノナシ、縮緬ニハ紋縮緬、平縮緬アリ、平縮緬中ニハ又近來朝日縮緬ト稱スルモノ

ヲ多量ニ製造スルニ至レリ、紋縮緬ハ其ノ意匠、製織法ニ著シキ發達ヲ示セルハ甚ダ喜ブ處ナルベシト雖未ダ其準備ノ工程ニ缺ケルモノアリ組織ニ不完全ノモノアリ製織ノ際ニ於ケル不注意ヨリシテ針落ち等ノ傷アルモノ多キト精練法ニ注意足ラザルノ故カ色合純白ナラズ光澤ニ乏シキモノアルトハ猶研究ノ餘地多キヲ認ム平縮緬ニ於テハ撚絲法ノ一定セザルノ故カ品質ニ統一ヲ缺キ其ノ色合及光澤ニ關シテハ紋縮緬ト同ジク完全ナラザルモノ極メテ多キヲ認メタリ然レドモ其ノ製織法ニ關シテハ彼ノ京都府又ハ滋賀縣ノモノニ比シ稍ヤ齊一ヲ保テルヲ認メタリシハ喜ブベキ事ニシテ之ハ製造家ノ注意深キ處ナルベシト雖組合ノ功モ亦沒スベカラザルナリ朝日縮緬ハ其ノ原料ノ點ニ於テ又價格ノ點ニ於テ完全ニ製造スルヲ許サザル處アルベシト雖猶研究ノ足ラザル處多ク今ヤ實ニ其ノ發展ノ途ニアルモノナリト云フモ過言ニアラザルナリ當業者宜シク特ニ緯絲ノ撰擇ニ注意スベシ、羽二重類特ニ平羽二重ハ其ノ製織ニ注意セルノ點ヲ明カニ認ムルコトヲ得ベシ然レドモ紋羽二重ニ至リテハ其ノ意匠ニ重キヲ置ケルノ故カ組織ニ無理アルモノ多キト針落等ノ多々アルヲ認メタルガ如キハ更ニ一層ノ注意研究ヲ望ム所以ナリ、繪絹ニハ其種類多シ玉石混交ヲ免カレズ然レドモ其ノ優品中驚クベキ精巧ナルモノアルヲ認メタルハ大ニ喜ブ處ナリ今其ノ技術ヲ以テ製粉用篩絹(紗織)ノ製造ヲ試ミンカ或ハ新タニ物産ヲ作ルコトヲ得ベシ其ノ他紬、斜子等ノモノニ至リテハ特ニ見ルベキモノアルヲ認メズ、

長野縣

長野縣ノ出品ハ生絹、紬、上田縮、斜子、節上田縮等ニシテ其ノ内主ナルモノハ上田紬、斜子、縮緬、類ナリ上田縮及斜子ニ關シテハ長野縣主催ノ共進會ニ出品セルモノニ比シ紬類ニ縮緬物及節縮ヲ多ク出品セルヲ異ニスルモノアルヲ認ムルニ過ギズ其ノ品質製造法ニ關シテハ右共進會ノ報告ニ盡セル處アルヲ信ズルヲ以テ當業者ハ再該報告ニ就キ研究セラレントヲ望マザルヲ得ズ又縮緬類ハ着々其研究ヲ進メシガ如キ感アリ故ニ其ノ製品ニ至リテハ長野縣主催ノ共進會ニ出品セルモノニ比シ一層ノ進歩ヲナセルヲ明カニ認メ得ベシト雖未ダ本場物ニ比スベクモアラザレバ當業者タルモノハ宜シク本場物ノ製造法及趣味外見等ニ就キ研究センコトヲ望ム其ノ他ノ織物ニ關シテハ茲ニ批評ヲ試ムベキ程ノモノアラザルヲ以テ之ヲ略ス

福井縣

福井縣ノ出品ハ絞朱子、奉書紬、繪絹、繪子、紋綾「リボン」、山吹帶地、肩裏地、御召、紹兵子帶、法衣地、等ニシテ其ノ出品點數ニ比シテ種類ノ多キコト他府縣ニ其ノ比ヲ見ザル處ナリ是レ福井縣ハ時ニ盛衰アリ其ノ影響最モ甚ダシキ輸出羽二重ノ製織ノミヲ以テ満足セズ茲ニ内地需用ノ絹織物製造ヲ試ミタルガ故ナラン、依テ其ノ製品ノ多クハ現今專ラ地方向ヲ主トセルニヨリ其ノ意匠、染色及製造法ニ於テ彼ノ京都市、八王子町、桐生町及足利町等ノ絹織物ニ比スベクモアラズ然レドモ當業者ニシテ各機業地ノ製造法ヲ研究シ需用者ノ嗜好ヲ調査シ之ニ適スルモノヲ製造スルコトニ務メナバ其ノ發

展ハ期シテ待ツベキモノアルハ信ジテ疑ハザル處ナリ

石川縣

石川縣ノ出品ハ薄絹、織練、絹、曾代絹、八ッ橋、御召縮緬、繪子、釘貫紬、奉書紬、鹽瀨、座布團地、等ニシテ其内主ナルモノハ織織ナリトス、織織ハ其ノ製織ト云ヒ意匠ト云ヒ共ニ見ルベキモノ多キハ誠ニ喜ブベキモノナリシガ其ノ仕上ニ於テ何ノ見ルベキモノナカリシハ宜シク當業者ノ一顧ヲ要スル處タリ其ノ他釘貫紬、曾代絹、八ッ橋、絹等ニ至リテハ技術ノ精巧ヲ極メシモノアルヲ認メタリシガ一般ニ其ノ技工ニ於テ研究ノ餘地多キヲ認メタリ當業者宜シク技術上ノ點ニ關シテハ猶一層ノ研究及注意アラントヲ望ム

富山縣

富山縣ノ出品ハ節生絹、薄絹、井波紬、厚板帶地、斜子、絹等ヲ主ナルモノトス其ノ出品點數モ多カラズ又製品ニ關シテハ孰レモ猶製織ノ研究ヲ要スルモノ多々アルヲ茲ニ勸告スルノ外批評ヲ下スノ要ヲ認メズ

鳥取縣、島根縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、德島縣、愛媛縣、高知縣、

鳥取縣ハ羽二重一點ヲ出品スルノミ島根縣ノ出品ハ七越絹、羽二重、薄絹等ヲ主ナルモノトシ岡山縣ハ絹織物トシテ着尺物一點ノ出品アルノミ廣島縣ハ諸絲織、山繭織、縮緬、「コガチ」織、朝日縮緬、

「ツナギ」織、繪絹、絹、絞、紋綾、鹽瀨、古鏡織、節、絹、曾代絹、繪子、等ヲ出品セリ孰レモ製法幼稚ニシテ研究ノ餘地多々アルヲ認ム、山口縣ハ博多男帶地、袴地、其他ノ絹織物ヲ出品セルモノアリ

ト雖見ルベキモノナシ、德島縣ハ風通緋、内地羽二重ヲ出品シ、愛媛縣ハ絹、縮緬、其他ノ絹織物ヲ

出品セリ高知縣ヨリハ琥珀平、琥珀袴地等ノ出品アリ孰レモ賞スルニ足ルモノナシ

愛知縣

愛知縣ノ出品ノ主ナルモノハ綴綿、廣女帶地、佳良織、廣帶地、縫取御召、縹珍女帶地、御召縮緬、唐織廣帶地、銘仙、羽二重、甲斐絹、博多男帶地、袴地、「ゴブラン」織廣帶地、節絹、紬、鹽瀨、結城縞、節米澤、等ヲ主ナルモノトス多ク吳服商ノ出品ニ係ルモノナルヲ以テ縣外ノ生産ニ屬スルモノ極メテ多キヲ見ル本縣ノ製產品トシテ主ナル紋羽二重類ハ原絲モ稍ヤ一定シ製法ニ於テ整齊ノ點ニ於テ前回ノ出品ニ比シ著シキ進步アルヲ認ム又繪子地ニアリテハ特ニ進步ノ跡ナクシテ研究ノ餘地多キヲ認ム

其二、輸出絹向織物

輸向並ニ輸入防遏絹織物ナル名稱ノ下ニ他ノ内地向絹織物ト分チテ審査シ之ガ概評ヲナスハ蓋シ斯種ノ織物ハ内地向織物ト其地風丈幅色相柄合ヲ異ニシ用途及慣習ニ於テ全然一致セザルモノ多キカ故ニ便宜上比較考査ノ爲メ一括セルニ過ギズ然シテ本名ノ下ニ包含セラルル品種ハ輸向白羽三重ヲ最

トシ洋傘地、「タフタ」、「シフォン」、輸出向縮緬、洋服裏地等ヲ主ナルモノトス之ガ出品ヲナセル府縣ハ東京、京都、群馬、栃木、山梨、福井、石川、富山、島根等ノ廣キニ亘リ其他ノ府縣ヲ合スレバ貳府十四縣ニ達シ聯合府縣ノ約半數ヲ占メタリ然レドモ其點數ニ至リテハ漸ク五百三十有餘點ヲ算スルニ止マリ絹織物全部ノ出品點數ト比較セバ實ニ九牛ノ一毛ダニモ及バズ本邦ノ現況ニ照シテ大ニ其發展ヲ期セザルベカラザル輸出絹織物並ニ輸入防遏絹織物ヲ代表セル出品トシテハ聊カ隔靴搔痒ノ憾アリ蓋シ出品ノ目的ガ單ニ開催地附近ノ顧客ニミ重ヲ置キ一般ノ趨勢ガ徒ニ列品ノ賣約多キヲ以テ能事足レリトナスニアルガ如キハ出品全部ノ通觀ニヨリテモ推知スルニ足ルベク此點ニ對シテハ吾人ノ大ニ當業者ノ一顧ヲ乞ハントスル所ナリトス夫レ本邦ノ產業界ノ缺點ノ一トスルハ大ナル生産業者ノ乏シキニアリ故ニ確實ニ商權ヲ掌握シ進ンデ自己ノ產品ヲ遺憾ナク海外ニ周知セシムル能ハザルノ状態ニアルモノナレバ機會ヲ得ル毎ニ當業者相協戮シテ手腕ノ有スル處ヲ發揮シ製品ヲ廣ク紹介シテ批判ヲ需メ販路ノ開拓ト將來ノ改善ヲ資スル上ニ共進會ヲ利用センコトハ國際的商品ニ取リテ決シテ忽緒ニ附スベカラザルコトナリトス況ンヤ我國運ノ伸暢ハ開期中有力ナル海外觀光團ノ渡來ヲ見ルニ至リシニ於テオヤ管ニ風光ノ美ヲ誇リトシ賣品ノ多キヲ以テ成功ト思惟スルガ如キニ晏如スベキ秋ニ非ザルナリ

輸出絹織物中羽二重類ハ先進地タル北陸三縣ノ聯合セルアリテ何レモ其ノ縣ノ主產品トシテ重ヲ本品

ニ置キ出品ノ陳列ニハ特ニ意ヲ用ヒ異彩ヲ放チツツアリシハ衷心痛快ヲ覺エタリ
次ニ輸出向並ニ輸入防遏絹織物ノ出品ノ概況ヲ知ルニ便スル爲メ左ニ出品一覽表ヲ掲出セム

輸出向並ニ輸入防遏絹織物出品一覽表

府縣名	主ナル品種	出品點數
東京	「シフォン」、洋傘地、洋服裏地、「タフタ」	一六、
京都	洋傘地、縮緬、「シフォン」、洋服裏地	八一、
大阪	羽二重	一、
神奈川	絁 絹	五、
兵庫	縮緬	九、
群馬	「タフタ」、洋服裏地、洋服地	二一、
栃木	「タフタ」	三二、
山梨	洋傘地、洋服裏地	一〇二、
岐阜	縮緬	七、
福井	羽二重	一一六、
石川	羽二重	七三、
富山	羽二重、「シフォン」	一九、
島根	羽二重	二四、
徳島	羽二重	七、

府縣名	主ナル品種	出品點數
愛媛	羽二重	三
愛知	「シフオン」	四
計		五〇九

輸出羽二重

本邦ノ輸出品ヲ舉クレバ先ヅ指ヲ生絲ニ屈セザルベカラズ然シテ本邦ノ生絲タル其ノ産額ハ清國ノ多キニ及ハズ其ノ品位ハ伊佛ノ精ニ劣ルト雖絹絲ノ供給國トシテ全世界ニ冠絶スト稱スルモ敢テ過言ニ非ラザルベシ、斯ノ絹絲國ニシテ絹織物ノ輸出未ダ多キヲ爲スニ至ラザルハ識者ノ常ニ憤慨ニ堪ヘザル處ニシテ一面我製織業者ノ奮起ヲ要スルモノト稱セザルヲ得ズ此間ニ於テ輸出羽二重ハ其創始ヨリ未ダ漸ク二十餘年ヲ經タルニ過ギザルモ其進歩頗ル顯著ニシテ今ヤ輸出年額三千萬圓ヲ上下シツツアリテ羽二重ナル名稱ハ歐米ニ喧傳セラルルニ至レリ然ルニ其名ヲ爲スニ至リシ所以ハ品質ノ精良ナルニ非ズ技術ノ巧妙ナルニモ非ズシテ單ニ原料製品トシテ價格比較的低廉ナルニヨリ海外市場ニ勢力ヲ保持セルニ歸スベシ是故ニ輒モスレバ輸出羽二重ハ品質ノ下降ヲナサントスルノ傾向ヲ存シ加フルニ從來ノ生産ハ區々ノ小工業者ノ手ニヨルモノ多クシテ自己ノ製品ノ信用ヲ云爲スルガ如キコト絶無ナル烏合ノ製品ニシテ本邦唯一ノ輸出絹織物タルニモ拘ラズ不正増量、粗製濫造、證票變改、量目不

足等ノ苦情絶ヘズ吾人ノ耳染ニ接スルモノ故ナキニアラザルナリ若夫レ羽二重輸出ヲ永遠ニ持續シ益々其發展ヲ希ハバ生産者ト買買者トニ論ナク我生産組織ノ缺點ヲ補フニ足ルベキ努力ヲ以テ過去ノ覆轍ニ鑑ミ協同集團ヲ講シ國產擁護ノ感念ヲ持シ四隣相戒メ個人主義タル目前ノ小利ニ眩惑スルヲ避ケ以テ文明的の商品タラシメ取引ノ圓滿ト金融ノ確固トヲ期セザルベカラズ、是レ實ニ識者ノ期待スル處ニシテ長ク机上ノ空論トシテ現實スルナクンバ本邦輸出羽二重ノ前途タル蓋シ推シテ知ルベキナリ然レドモ羽二重工業モ家族的ヨリ工場組織ニ手工ヨリ機械的ニ推移スル工業的進歩ノ趨熱ニ漏レズ明治三十五年ノ頃ニ在リテハ羽二重ノ力織機經營ヲ危ミ漸ク一ニノ試驗ヲナスモノヲ見ルノ有様ナルニ過ギザリシガ戰役後ニ於ケル企業ノ隆興ハ力織機應用ノ遽増トナリ製品ノ整齊ニシテ優秀ナル職工ノ修練容易且ツ勞役少ナキト製品ノ輕重ヲ意ノ如クナラシメテ適確ニ注文ニ應ジ得ル等到底手織機ノ企及シ能ハザル効果ヲ認識セラルルニ及ビテ益々偉大ナル擴張ヲナシ羽二重ノ力機工場各地ニ増設セラレ今ヤ力織機ノ數一萬臺ニ達セントシ其結果ハ出品羽二重ノ上ニ現ハレ斯業界ノ面目ヲ一轉セントスルノ機運ニアルハ大ニ慶スベキナリ左表ハ昨四十二年末ノ調査ニ係ルモノニシテ本邦羽二重主産七縣ニ於ケル力織機ノ使用ト各式分布ノ狀況トヲ示セルモノニシテ各縣ノ大勢ヲ知ルニ便ナルヲ以テ茲ニ掲グルコトトセリ

各縣ニ於ケル羽二重用カ織機種類別表

(明治四十二年末現在)

力機種類	府縣名	
	福	井石
齋外式	一三、	一、〇七、
津田式	六、	三、
高柳式	五九、	一五、
平田式		
二階堂式		
二階堂桂冠式		
大橋兄弟式		一七、
大橋式		
千葉式		
寺松式		一〇九、
宮村式		三三、
長野式		八、
大西式		四、
杉村式		九、
太田式		
徳山式		
武田式		
新高柳式		
川富	一六、	一四〇、
山新	三、	二五、
鴻宮	七〇、	三〇、
城福		
鳥山	二九八、	二九八、
形	九六、	三、
計	三、六三六	七〇七、

三百七十八

府縣名	力機種類	
	福	井石
池田式	五〇、	
内山式	一五、	
福田式	一〇、	
長谷川式	〇、	
木本式	六、	
秋野式	三、	
宇野式	一、	
山口式	一、	
計	一、六七	一、八五八
山新	三七	三三
鴻宮	四五	三五〇
城福	一、八五七	一、五三三
鳥山	五〇	
形	七、七〇五	

上表ニ就テ見レバ我羽二重業界モ茲ニ世界的商品ヲ製スルノ施設緒ニ就ケルモノト稱スルヲ得ベキモ今尙原料ノ共同購入ヲナシ又ハ特約原料ニヨリ製織セルモノハ極メテ寥々タルモノニシテ殆ンド總テ所謂拜見ニヨリテノミ原料ヲ購入シ經緯ノ粗密ニヨリテ生地ノ厚薄ヲ加減シ以テ注文ニ適恰セシメントスルガ故ニ製品ノ千差萬別ナルヲ免レザルハ宜シク改善スベキ要點ナリトス

又羽二重精練業ニ就テ見ルニ從來ハ極メテ幼稚ナル方法ニヨリテ實施セラレタルガ故ニ精練業者ノ數モ甚ダ多ク其間依托者ノ爭奪ヲ逞フシ不正手段ヲ行フノ媒介ヲナシ來リシガ精練業法ノ發布ニヨリ精練場ニ於ケル機械的施設ノ整備ヲナサザルベカラザレバ精練業者ノ數著シク減少シ其事業モ稍工場的トナリ營業振リモ新面目ヲ啓キ技術上ノ改善大ニ見ルベキモノアルニ至レリト雖精練工場ノ數尙福井

三百七十九

縣ニ市部六ヶ所郡部六ヶ所計十二ヶ所、石川縣ニ市部四ヶ所郡部四ヶ所計八ヶ所、富山縣ニ市部一ヶ所總計二十一ヶ所ヲ有シ各工場ノ作業力ハ從來ノ精練場ニ比シ幾倍セラレ投資高モ亦從テ多ク其事業ノ性質實業ニシテ設備ニ應シ或精練高ニ達セザレバ全然損失ヲ醸シ其超過ノ部分ニ對スル收得ハ舉ゲテ殆ンド純益トナリ得失ノ岐ルル處一ニ精練高ニ歸スルガ故ニ同業者ハ表面和協提携規約ヲ設ケテ無謀ノ競争ヲ矯メ斯業ノ貢獻ニ餘念ナキガ如シト雖到底裏面ニ於ケル精練品ノ爭奪ハ已ム時ナク陰ニ依托者ノ歡心ヲ買フ爲メ如何ナル手段ヲモ辭セザルモノアリテ工場ヲ異ニスル毎ニ硬軟色相ノ調和ヲ缺キテ歸一スル所ヲ知ラズ或ハ殊更ニ缺點ノ隱蔽ヲ講ジ過量ノ水分ヲ附着スル等本邦羽二重ノ聲價ヲ毀損スルノ行爲ヲ杜絶シ得ザルモノアリ識者ヲシテ常ニ斯ル弊風ヲ拭掃シ羽二重ノ聲價ヲ維持スルハ一ニ國家ノ施設ニ待タザルベカラズトノ嘆ヲナサシムルモノ畢竟當業者間相互ノ制裁力ノ薄弱ナルニ基因スベシ當業者タルモノ顧テ以テ愧ヅル處ナクンバ本邦羽二重ノ伸張力ヲ阻害スルコト極メテ大ナリトス

如上ノ優劣諸點ハ之ヲ出品ノ上ニ歷然トシテ顯ハレ疑ヲ容ルルノ餘地ナシ今左ニ出品府縣毎ニ審査ノ結果ヲ表明シテ當業者ノ參考ニ供スベシ

福井縣

本縣ノ產出額ハ他府縣ノ首位ヲ占ムルト雖其產出スル品種ノ多キモ亦他府縣ノ上ニアリ綾、紋、綿ノ

多種ト薄絹ノ輕キヨリ倍目以上ノ重目品ニ至ルマデ殆ンド産セザルモノナク生産組織ハ石川縣ニ比スレバ小規模ノモノ多ク力機械利用モ重目物ヲ特産トセル丈ケ普及遅々タルヲ免カレズ從テ技術モ特ニ優秀ニシテ先進地トシテ敬服スベキモノ少ナカラズト雖又粗品ヲ混ジテ優品ノ價値ヲ減殺セルモノアリ出品ノ品質區々ニ別レ統一セラルル所ナキハ惜ムモ尙餘リアリ其精練ハ製品ノ種類雜多ナルト精練工場ノ過多ナル結果青味附ノ不揃硬軟ノ多樣特ニ甚ダシク共進會ノ出品タルニモ拘ラズ汚染、瑕庇、等ノ缺點ヲ隱匿スルノ目的ヲ以テ疊ミ込ヲナスモノ少カラザリシハ其平素ニ於ケル製品ノ信用ヲ推測スルヲ得ベク精練業者ノ陋劣極マル心情ヲ曝露スルモノトシテ轉々憤慨ニ堪ヘザル處ナリ之ヲ要スルニ本縣ノ斯業界ハ混亂シテ統一セル處ナク各自ノ嚮フニ任セツツアルノ事情ニ在ルモノノ如ク輸出品トシテ此點ノ改善ヲ遂ゲ且先進地タルノ名ニ恥ヂザルコトヲ期スル上ニ就テ當業者ノ協議ヲ講ゼザルベカラズ

本縣產ノ縞羽二重ハ一般ニ精練不充分ナリ是レ染色ノ脱却ヲ顧慮スルノ致ス處ナルベキガ故ニ尙一段ノ研究ヲ進メテ其完成ヲ遂ゲンコトヲ望ム

石川縣

本縣ノ生産組織ハ他縣ニ比シ工場組織ノモノ多カリシト其產品畧一定シ力織機ノ製織ニ適スルトニヨリ力織機ノ應用有利ナルヲ認ムルヤ各工場ハ競フテ其設備ヲナシ今ヤ四千臺ノ多キニ達セントスト謂

フ其結果タル製品ノ整齊トナリ工場信用ノ取引着々行ハルルニ至リ産額頓ニ増進セントスルノ形勢ニ在ルハ當ニ本縣産業ノ隆昌ヲ慶スルノミナラズ本邦斯業ノ中堅トシテ將來大ニ我羽二重ノ聲價ヲ昂進スルヲ得ベキヲ信スルナリ之ヲ出品ニ見ルモ所謂共進會的特製品ノ如キ優良ナルモノ少ナカリシモ加賀羽二重トシテ目付ノ範圍狭少ナルガ爲メ精練上ノ相異モ甚シカラズ力織機製品ナルガ故ニ多少ノ經絲ノ緊張不充分ナルモノアリテ俗ニ「チカー」ト稱スル縮波ヲ有スルモノナキニ非ザレドモ概シテ品位均等ニシテ多大ノ注文ニ應シ得ベキ状態ヲ呈セルハ稍ヤ輸出品タルノ理想ニ近ツキツアルモノト云フベク將來羽二重産地トシテ他縣ヲ凌駕シ得ベキ氣勢ヲ呈セリ然レドモ精練ニ關シテハ今尙八ヶ所ノ多キニアルガ故暗々裡ニ製品ノ上ニ害毒ヲ流シツアルヲ認ムルハ大ニ改善ヲ要スベキ一大缺點ナリトス

富山縣

本縣ノ出品ハ其ノ數甚ダ多カラザレドモ其ノ素質ハ良好ニシテ稱讚スルニ足ルモノアリ元來本縣ハ北陸三縣中ノ下位ニアリテ常ニ他二縣ノ產品ニ併吞セラルルノ傾アリテ獨立産地トシテ活歩シ能ハザリシ結果發展ヲ阻碍セラレツツアルヲ見ル夫レ産業ノ發達ハ販賣、金融、原料製品ノ賣買等諸種ノ生産補助機關ノ完整ニ待タザルベカラズ是等機關ハ亦産額ノ増加ニ從フベシ故ニ小産地ニ於テハ先づ根本ノ培養トシテ産額ノ増加ヲ講ジ將來ニ對スル潛勢力ヲ涵養シ諸機關ノ完備ヲ計ルヲ急務トス

以上三縣ノ外輸出羽二重ノ出陳ヲ見タルハ大阪、高根、徳島、愛媛、愛知、神奈川、ノ諸縣ニシテ就中大阪府ノ出品ハ日本羽二重株式會社ノ製品ニシテ品質優良、徳島産ハ之ニ亞ギ他ハ新産地丈ニ其製品未ダ良好ト稱スルヲ得ズ元來輸出羽二重ハ其原料タル生絲ノ高價ナルニ比シ收益少ナキガ故ニ金融、取引、ノ施設ナクシテ先進地ト競フテ經營スルニ當リテハ豫メ多大ノ困難ヲ覺悟セザルベカラズ況ンヤ精練部ノ設備ナク常ニ場違品トシテ取扱ハルルニ於テオヤ故ニ曰ク略ボ基礎確立セル現狀ニ於テ新産地ヲ開拓セシユトハ決シテ容易ナラズ概ネ勞多クシテ効少ナキニ終ラントス宜シク販賣機關ヲ整フルカ若クハ獨立經營ヲナシ得ル相當ノ工場ヲ設立シ之ニ附隨シテ生産ヲ經營セシムルノ策ヲ取ラシムルニ在ラザレバ終局ノ美ヲ收ムルコト能ハザラン

羽二重以外ノ輸出絹織物

本邦絹織物ノ輸出タル羽二重ヲ除キ其他ノモノニ在リテハ一盛一衰常ナラズ永續シテ輸出シツツアルモノ又ハ確實ナル基礎ノ上ニ發展シツツアルモノ尠ナキハ一大恨事トシテ吾人ノ痛惜スル所ナリ是レ其ノ技術瑞佛ニ及バザルコト遠ク上流社會ノ需用タルガ故ニ流行ノ變遷特ニ甚ダシク加フルニ需用國ト離隔シ且風俗慣習ノ相異セルアリテ供給ヲ困難ナラシムル等幾多ノ事情ニ制セラルルニ依ルサレバ直接消費セラルベキ絹織物ヲ以テ先進地タル海外市場ニ角逐セントスルハ得テ望ムベカラズト雖東洋及南洋ノ市場ニ於テハ尙發展スベキ餘地アルヲ認ム然ルニ未ダ充分ナラザルハ何ゾヤ販賣機關ノ不備

即チ工商ノ聯絡ニ乏シク生産者ハ技術上ノ優劣ヲ以テ同業者ヲ壓伏セントスルノ勇ニ乏シク需用者ノ意圖ヲ洞察スルノ計ナク輸出商又此間ニ介在シテ一時ノ獲利ニ惑溺シテ前途ヲ遠視スルノ明ナク濫ニ價格ノ低廉ヲ生活者ニ強ユルヲ是レ事トシ確信ヲ有セザル生産者ハ唯々諾々之ニ同ジ製品ハ時ト共ニ下降シ底止スル處ヲ知ラザルニ至ルヲ常トシ輸出品トシ云ハバ全ク際物視シテ眞面目ノ製造ヲナサズ時ニ或ハ無謀ノ輸出ヲナシ製品ノ停滯ヲ來シ粗製濫造ニ陥リ販路閉塞シ遂ニ前途ヲ悲觀スルニ至ルモノ比々皆然ル處ニシテ着實ナル進歩ナス能ハザルヤ知ルベキノミ

今次ノ共進會ハ本邦輸出絹織物ノ主産地ヲ網羅セルニ拘ラズ其出品甚ダ不振ニシテ我輸出絹織物ノ代表品トシテ内外幾百萬人ニ展示スルハ吾人ノ寒心ニ堪ヘザル處ナリトス以下各品種ニ就キ概説スベシ
「タフタ」類 群馬、栃木、東京ノ各府縣ヨリ少數ノ出品ヲナシタルニ過ギズシテ其品質色合意匠共見ルニ足ルベキモノ多カラザルハ豫期ニ反シ遺憾トスル處ナリ或ハ曰ク出品ノ時期恰カモ活況ノ時ニ際セルヲ以テ契約注文ノ製出ニ忙殺セラレ多ク在庫品ヲ出品セルニ過ギズト果シテ然リトセバ斯業ノ爲メ大ニ慶賀スベシト雖モ一面ヨリ觀察スレバ如何ニ當業者ガ個々ノ利ニ敏クシテ公共事業或ハ將來ノ發展ニ資セントスルノ勞ニ吝ナルカラ自白スルモノト稱スベシ若夫レ斯ノ如クンバ多大ノ資ヲ投ジテ經營セラレタル共進會モ遂ニ得ル處ナクシテ了ランノミ思ハザルモ亦甚ダシト謂フベシ
本品モ亦他ノ輸出品ノ例ニ洩レズ價格ノ低廉ナルモノヲ歡迎セラルル結果地合ノ薄キモノ漸ク多ク品

質又下降セルヲ免カレズ然レドモ燃絲法ノ改善、原料ノ精撰整理其他ノ技術熟達セル爲メ品位ノ優秀トナレルハ喜ブベシ近時「タフタ」模様ヲ應用セル紋羽二重ニ裏糊ヲ施シ一種ノ「タフタ」トシテ輸出スルモノアリト品質ノ堅實ナルモノ必ズシモ永クノ需用品ニ非ラズ價格ノ低キモノ必ズシモ粗濫品視スベカラザルモ要ハ「タフタ」タル眞價ヲ發揮シ他ノ代用品ト混淆セラレザル程度ニ止メ一部商人ニ乗ゼラルルコトナク前途ヲ案ジ我絹織物ノ聲價ヲ失墜セザランコトヲ期スベキナリ

「シフォン」 京都、富山、愛知、東京ヨリ出品セラレシモ斯種製造家ノ未ダ多カラザルガ故其點數モ亦從テ多カラズ本品ノ輸出モ時ニ或ハ盛衰ナキニアラザレドモ稍確實ナル跡ヲ呈シ其技術亦熟達シ品質改善セラレシモ未ダ歐洲品ニ比シ一籌ヲ輸セザルベカラズ殊ニ其製品ハ無地若クハ縞又ハ金線金絲入等ニシテ種類ノ變化乏シキ感アリ尙糸質製織整理共に改善ノ餘地アリ一段ノ奮勵ヲ要ス福井縣ノ出品ニシテ生薄絹ニ縞糸ヲ混ジタル一見「シフォン」ト異ナラザル「シフォン」代用品アリ其考案甚ダ妙ナリト雖トモ本邦産「シフォン」トシテ輸出セラレ爲メニ市價ヲ攪亂セラレンコトヲ恐ルルノミ
輸出縮緬類 京都府ノ出品ハ丹後産ノモノヲ主トシ兵庫、岐阜兩縣ヨリ少數ノ出品アリ兵庫縣ノ出品ハ京都府ノ出品ト大差ナク岐阜縣産ノモノハ前者ニ比シ少シク重目ノモノ多シ輸出縮緬類ノ出品種類ハ佛蘭西縮緬タル輸出向平縮緬、「スカーフ」地、壁縮緬ノ三種ニシテ就中佛蘭西縮緬ヲ多シトス本位ハ單ニ丹後縮緬地風ヲ以テシテ薄地廣幅ニ製織シタルニ過ギズシテ地合何レモ軟弱ニ失スルノ觀ア

弗蘭西縮緬トノ比較研究ヲ遂ゲ且需要地ノ意向ヲモ察シ改善セラレンコトヲ望ム又壁ハ見ルニ足ルベキモノ少カラザレドモ壁燃ノ均齊ナラザルヲ認ム元來本品ハ白生地ニテ輸出スルモノニテ需用地ニ於テ加工シ得ル半製品ナルガ故ニ燃絲製織等ニ機械力ヲ應用シ均等ナル製品ヲ輸出シ聲價ヲ擧グルニ至ラバ將來ノ發展ヲ期スルコト猶羽二重ノ如クナルヲ得ベキカ故ニ此點ノ改善ハ須臾モ忽諸ニ附スベカラズ、「スカーフ」地ハ内地ノ屬用多キヲ加ヘ産額増加セリト雖モ未ダ精巧ナリト謂フベカラズ

輸出防遏絹織物

本品種ニ屬スルモノハ從來輸入絹織物ニヨリ内地需用ヲ充シツツアリシモノ其需用増加スルニ伴ヒ研究ヲ重テ内國品ヲ以テ輸入品ニ換ユルニ至ルモノニシテ此種ノ出品ヲ見ルモノハ洋傘地洋服裏地ノ類ニシテ洋傘地ハ山梨縣ノ出品頗ル多ク京都府ノ出品之ニ亞ギ東京府ヨリ少數ノ出品アリタリ洋服裏地モ亦山梨縣ノ出品多キヲ古メ京都、東京、群馬、新潟ノ各府縣ヨリ數點宛ノ出品ヲ見タリ洋傘地ハ絹織物中最モ製造ノ困難ナルモノノ一ニシテ地合薄クシテ組織ヲ密ニシ光線ヲ遮蔽シテ其透視色優美ニ且絲斑織段ヲ厭ヒ染色ハ日光ニ耐ヘ雨露又ハ摩擦ニ堅牢ナラザルベカラズ且ツ外觀ノ美ト實用トヲ併有セザルベカラザル等擧ゲ來レバ其技術ノ容易ナラザル知ルベキナリ然ルニ今ヤ輸入品ヲ防壓シ去ルニ至リタルハ當業者ノ苦心ヲ大ニ多トセザルベカラズ本品ノ主産地ハ山梨縣ニシテ其品質

ハ特ニ優秀ナリト稱スルヨリハ寧ロ實用的ニ佳良ナリトス其缺點トスル所ハ増量ノ弊漸ク甚シカラントシ或モノハ不快ノ油臭ヲ放チ或ハ既ニ汚斑ヲ生ゼルモノアリ出品ニシテ然リ平素ノ產品タル知ルベキノミ織物ノ増量ノ如キ一見其多少ヲ鑑別シ難キモノニ在リテハ之ヲ放任センカ必ズヤ極端ノ程度ニ達スルヤ明カナリ今ニシテ適當ナル解決ヲナサザレバ悔ヲ他日ニ貽スベシ
東京府ノ出品中豐玉織物合資會社ノ製品ハ優良ナルヲ認ムルモ其ノ他ノ出品ハ特ニ稱スルニ足ラズ京都府ノ出品ハ種々ナル柄相即チ婦人向キノモノ特ニ多ク時流ニ投セントセルニ重ヲ置キ其柄合模樣ハ京都獨特ノ長所ヲ發揮シ他府縣ノ企及シ能ハザル所ナレドモ其地質ハ良好ナルモノ少ナキ感アルハ亦已ムヲ得ザル處ナランカ左ニ本品ノ染色ニ對スル堅牢度試驗表ヲ掲ゲ當業者ノ一觀ヲ乞ハントス

洋傘地染色堅牢度表

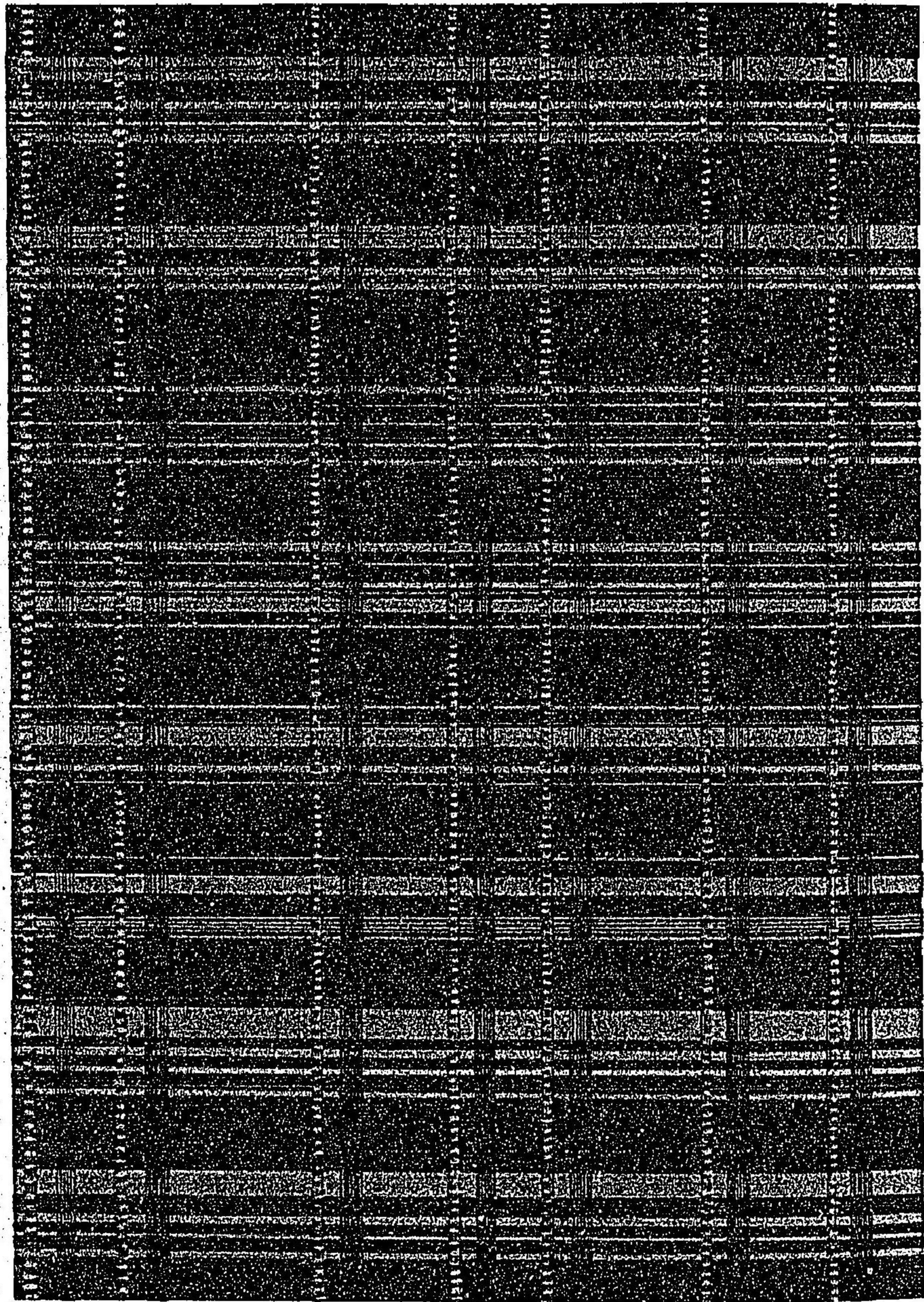
品名	湯石鹼曹達醋酸	日光府縣	出品人
黑洋傘地	二	山梨縣	渡邊藤太郎
同	二	同	宮下長兵衛
同	二	同	柏木宗太郎
同	二	同	柏木峰太郎
濃納戸色傘地	三	東京府	山田金七
黑洋傘地	二	東京府	豐玉織物合資會社

服裏地ハ各縣産其品質優良ナルモノニシテ最早ヤ輸入品ヲ要セザル程度ニ進メリ恨ラクハ光澤ニ乏シキ觀アリ袖裏地ハ其需用多キニモ拘ラズ出品甚ダ少ナカリキ

第二十五類出品並褒賞一覽表

府縣名	出品				計	出品人員對合
	點數	人員	一等	二等		
東京	六一四	一八二	一〇五	一六	六八	三八四
京都	八八四	五〇一	二五	四〇	一四二	二八三
大阪	二八	一〇一	三	一	六	八五七
神奈川	一七九	二五	一	一	九	〇八四
兵庫	三七二	一三四	一	一	六	三九〇
新崎	六二二	三六八	一	一	七	二九〇
群馬	五八六	二三七	七	一	一	二一五
茨城	四一	一四	三	二	一	四六八
栃木	五四	三〇	一	一	一	二八六
奈良	二八	七	一	一	一	三三三
三河	二	一	一	一	一	一四三

府縣名	出品				計	出品人員對合
	點數	人員	一等	二等		
山梨	五四六	三二九	一	一	七二	二一九
岐阜	一八四	一〇五	一	一	二二	二一〇
長福	四四九	二七二	一	一	六九	二五三
石井	二五九	一五〇	一	一	一七	一七八
富山	二二六	一五〇	一	一	五〇	三三三
岡根	八七	五五	一	一	二	三三八
廣島	二八	一〇	一	一	一	二七三
山根	一〇	一	一	一	一	〇〇〇
和山	一	一	一	一	一	〇〇〇
德島	一	一	一	一	一	〇六七
香川	一	一	一	一	一	一一一
愛媛	一	一	一	一	一	二五〇
高知	一	一	一	一	一	三三三
愛知	二二三	九九	一	一	三	二七九
計	五、六六〇	二、九〇七	三六	一三	八二	二、二七九



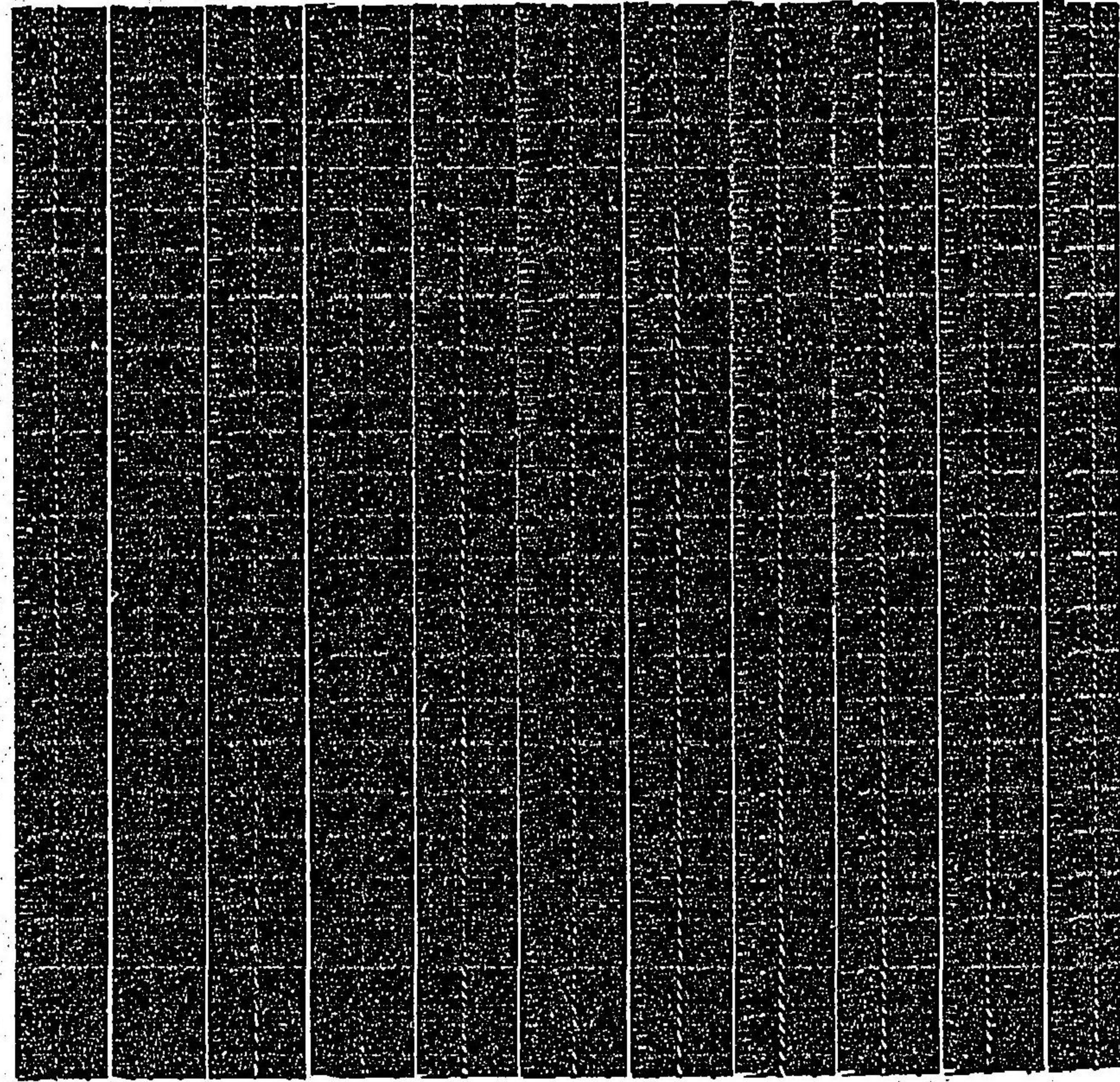
スミレ御召 (現物大)

京都府 長野清一郎

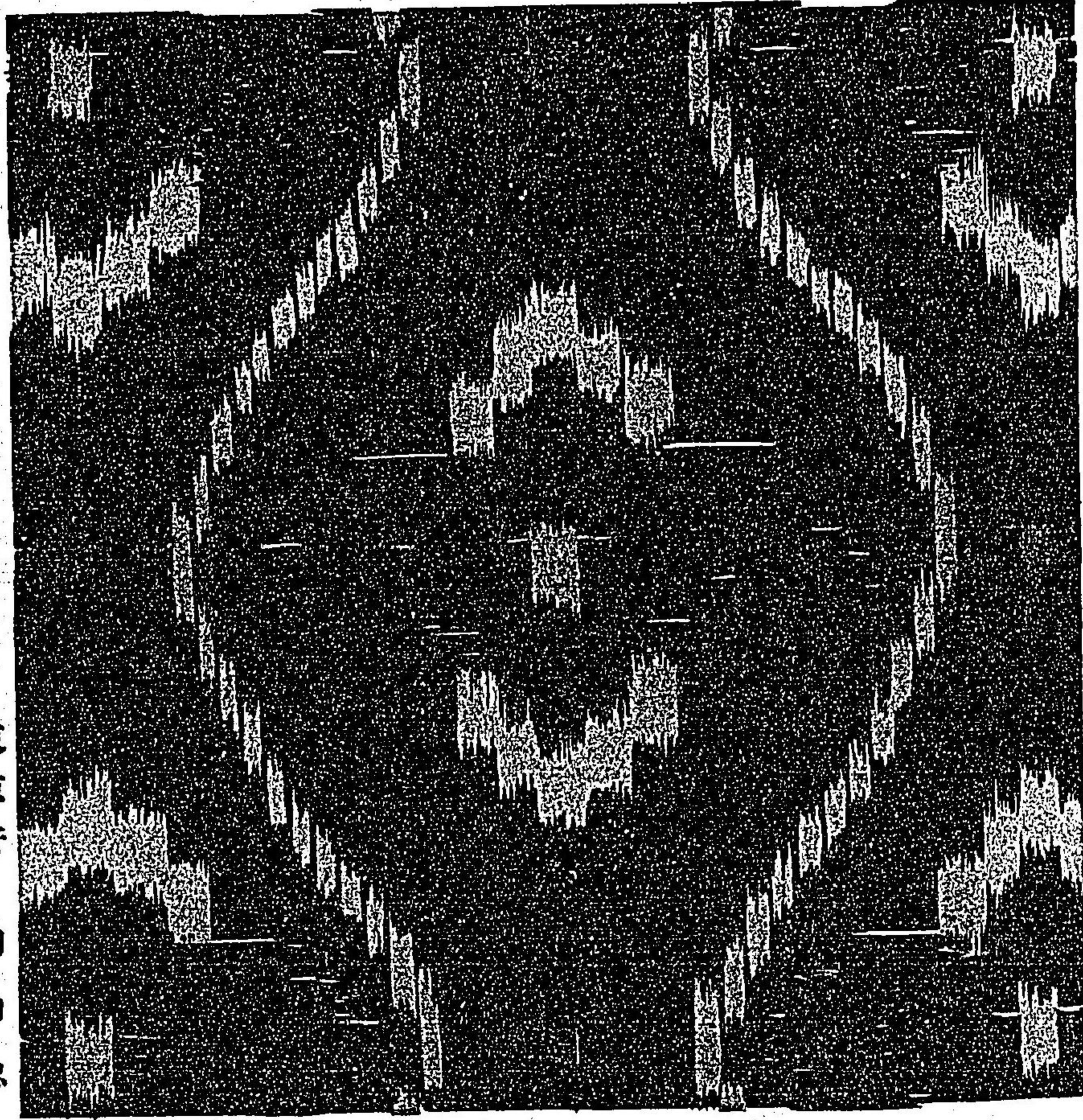
Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side of the paper.

松風御召

東京府 佐藤 興市



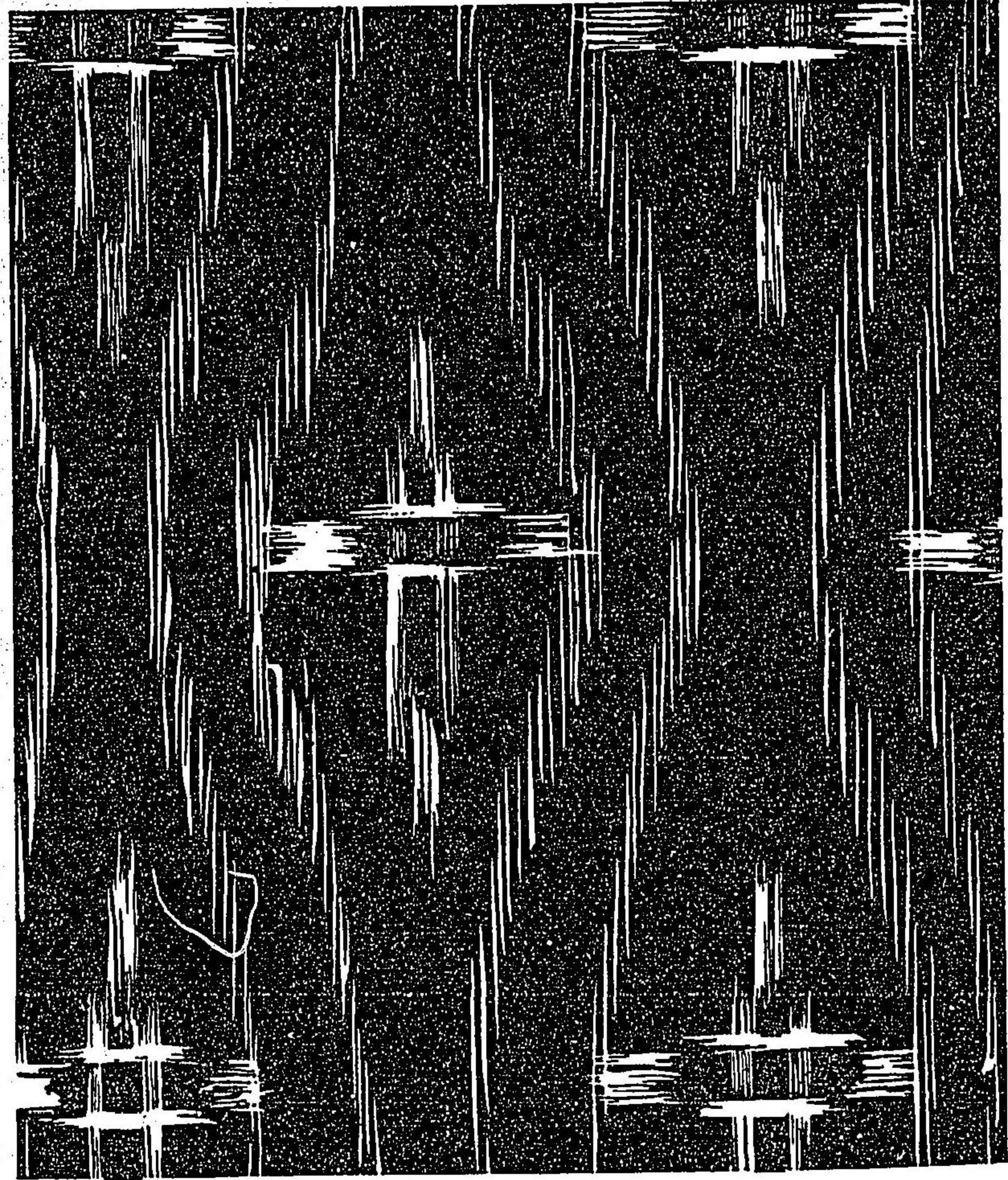
諸絲織大柄 四分三



東京府 向山 忠次郎

銘

仙 現物大



東京府
田中
周藏

銘

仙
現物大



東京府
中村安太郎

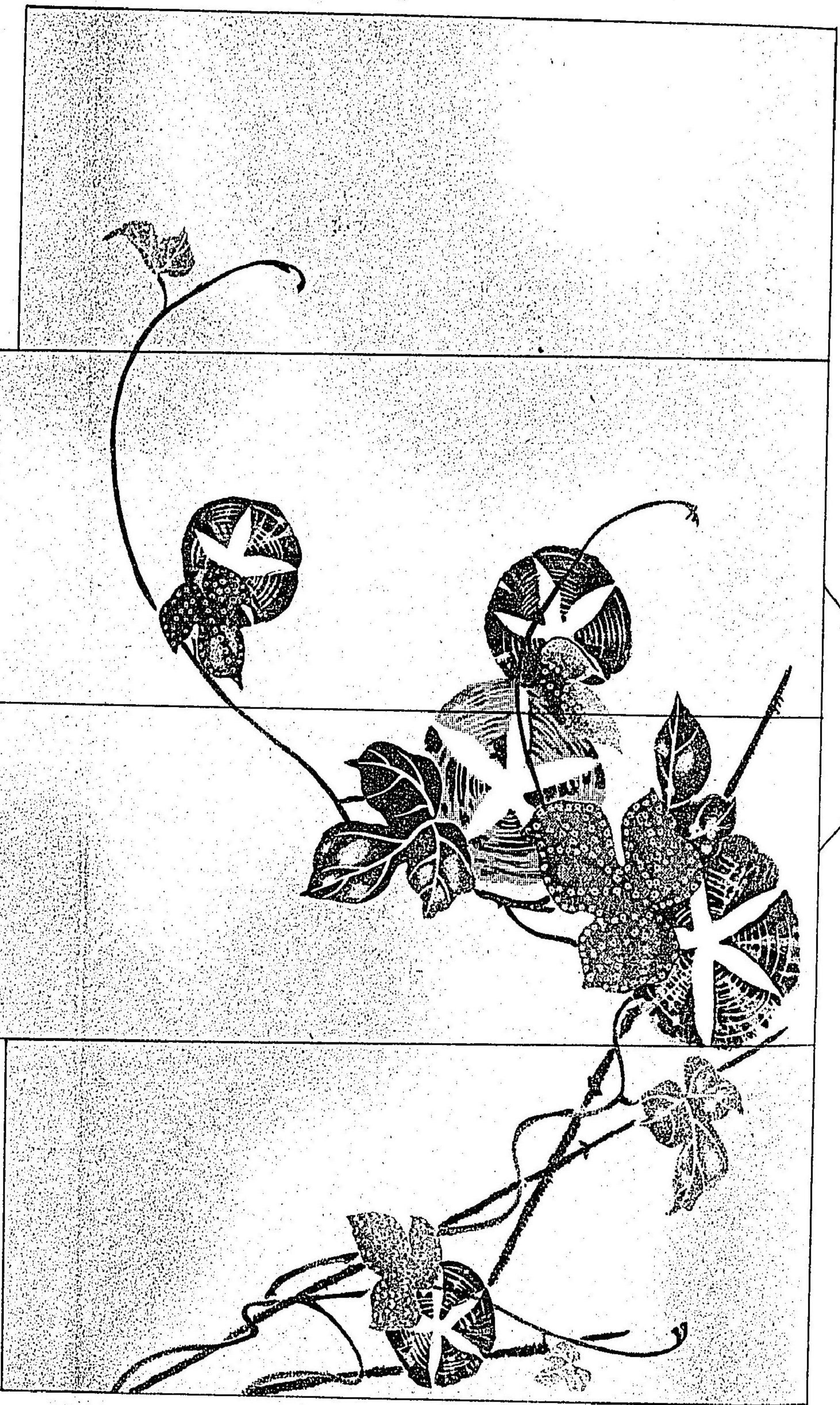


縮緬友禪長襦袢

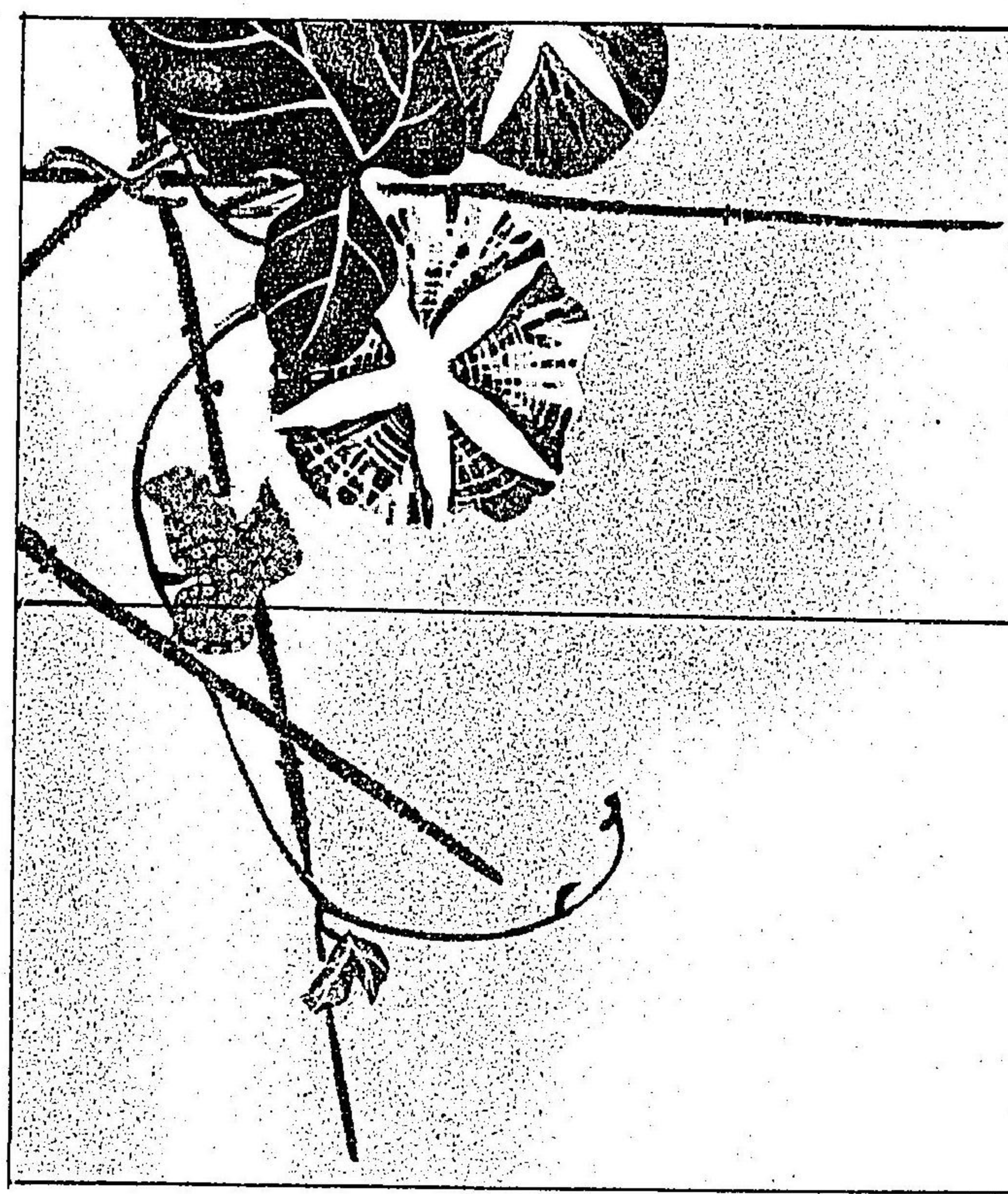
（四分）

京都府

松見彌三郎



京都府 太田 平助

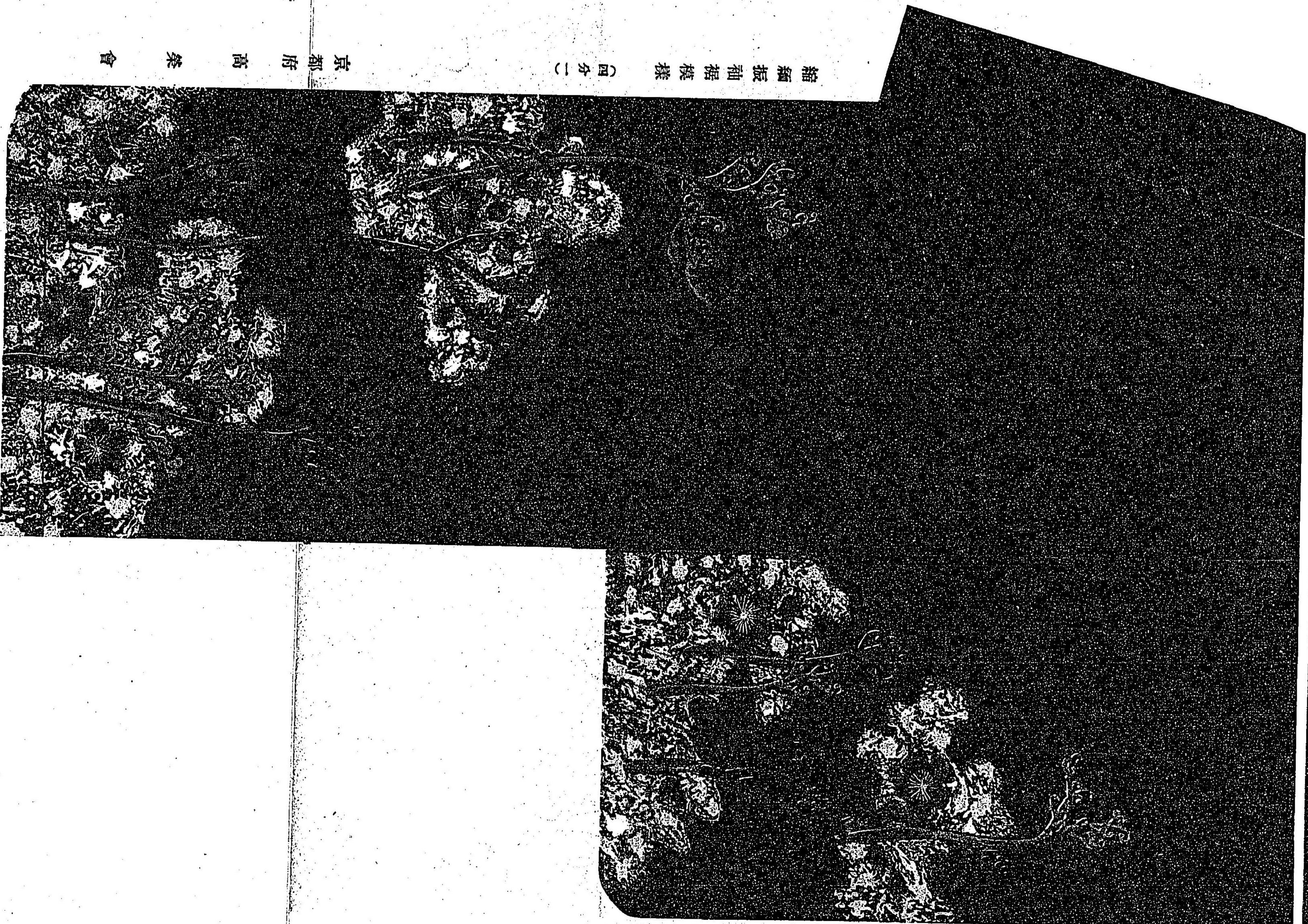


緬縮女禪長襦袢 (六分二)

金糸織縮緬友禪(三分二)



京都府 廣岡伊兵衛



縮緬振袖襦袢様

(四分一)

京都府 高 架 會

絲錦女帶地 三分一



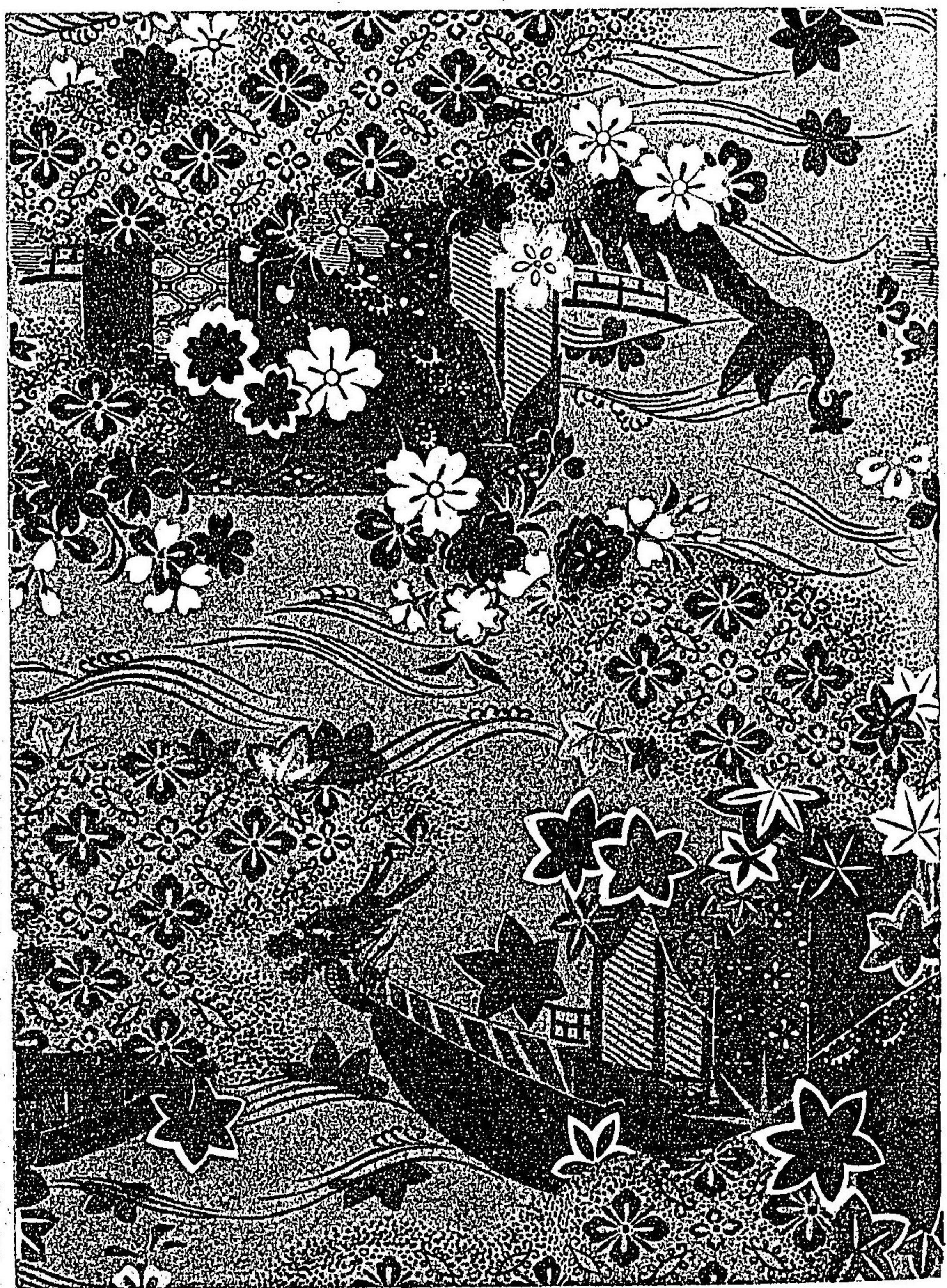
京都府 清水半兵衛



絲錦女帶地 三分一

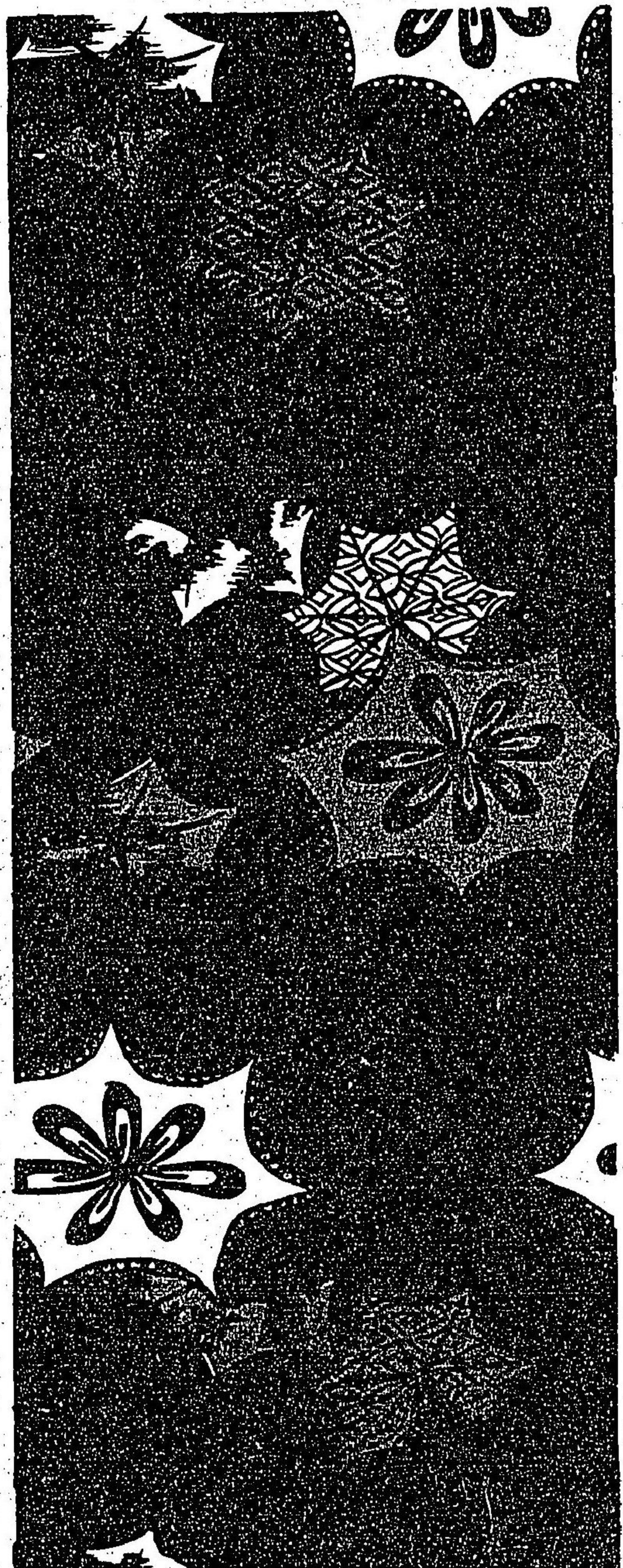
京都府 中村半兵衛

絲錦女帶地 三分一



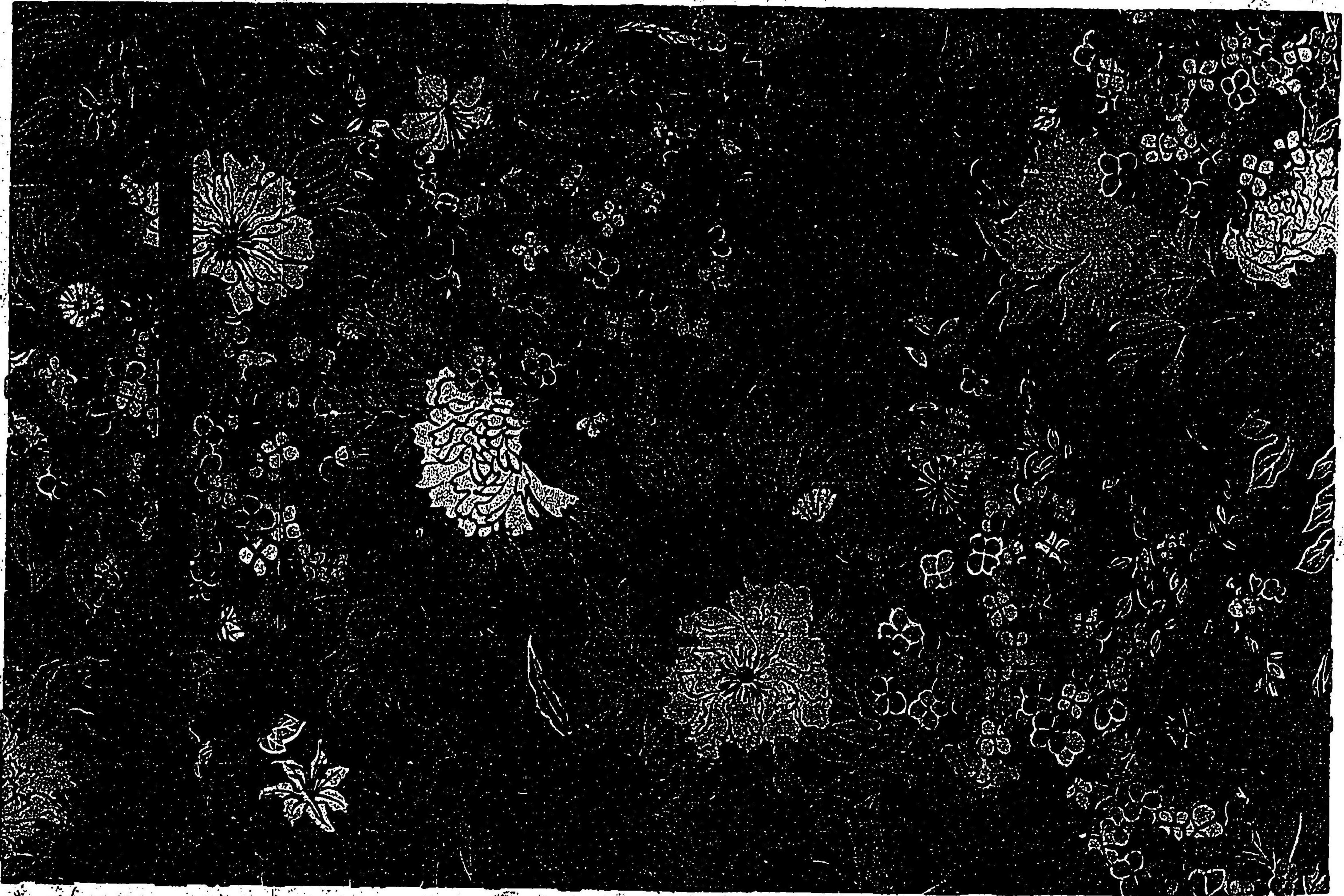
京都府 鳥居榮太郎

絲錦尺八女帶地



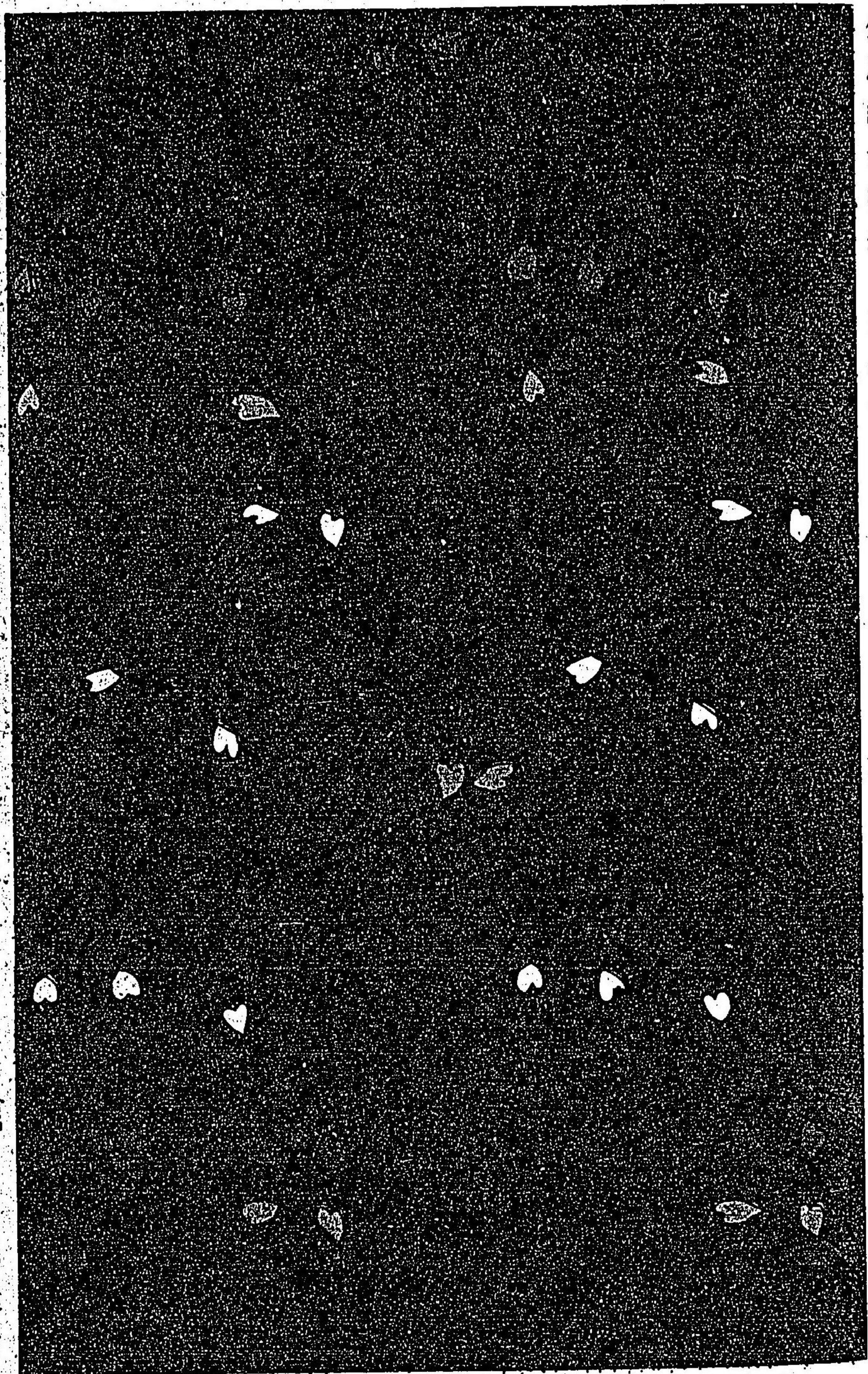
京都府橋田伊之助

京都府 川島甚兵衛



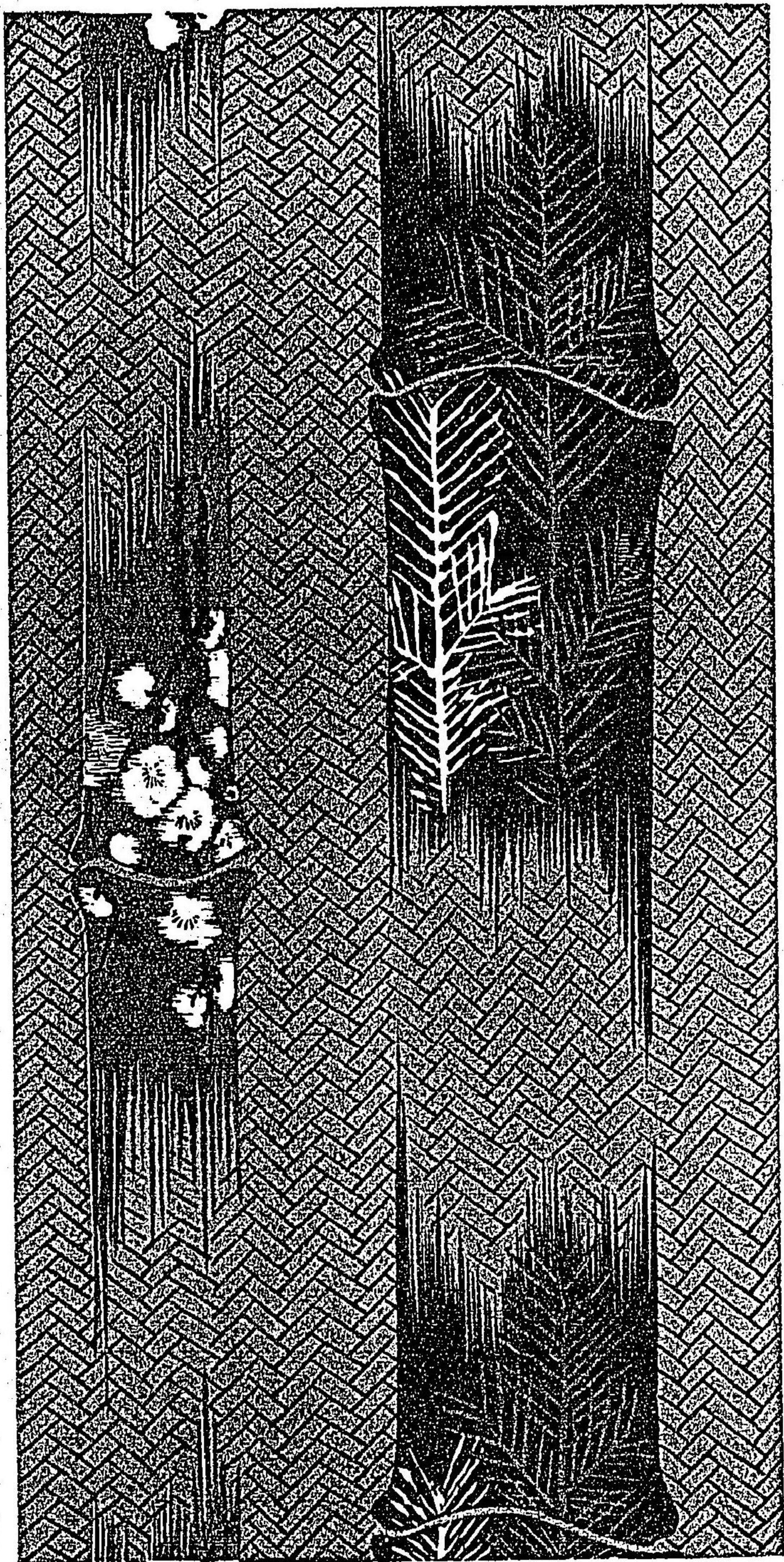
唐錦女帯地 (百花散様)

錦唐織女帯地 三分一



京都府 會社 篠屋機業店

唐織女帶地 三分一



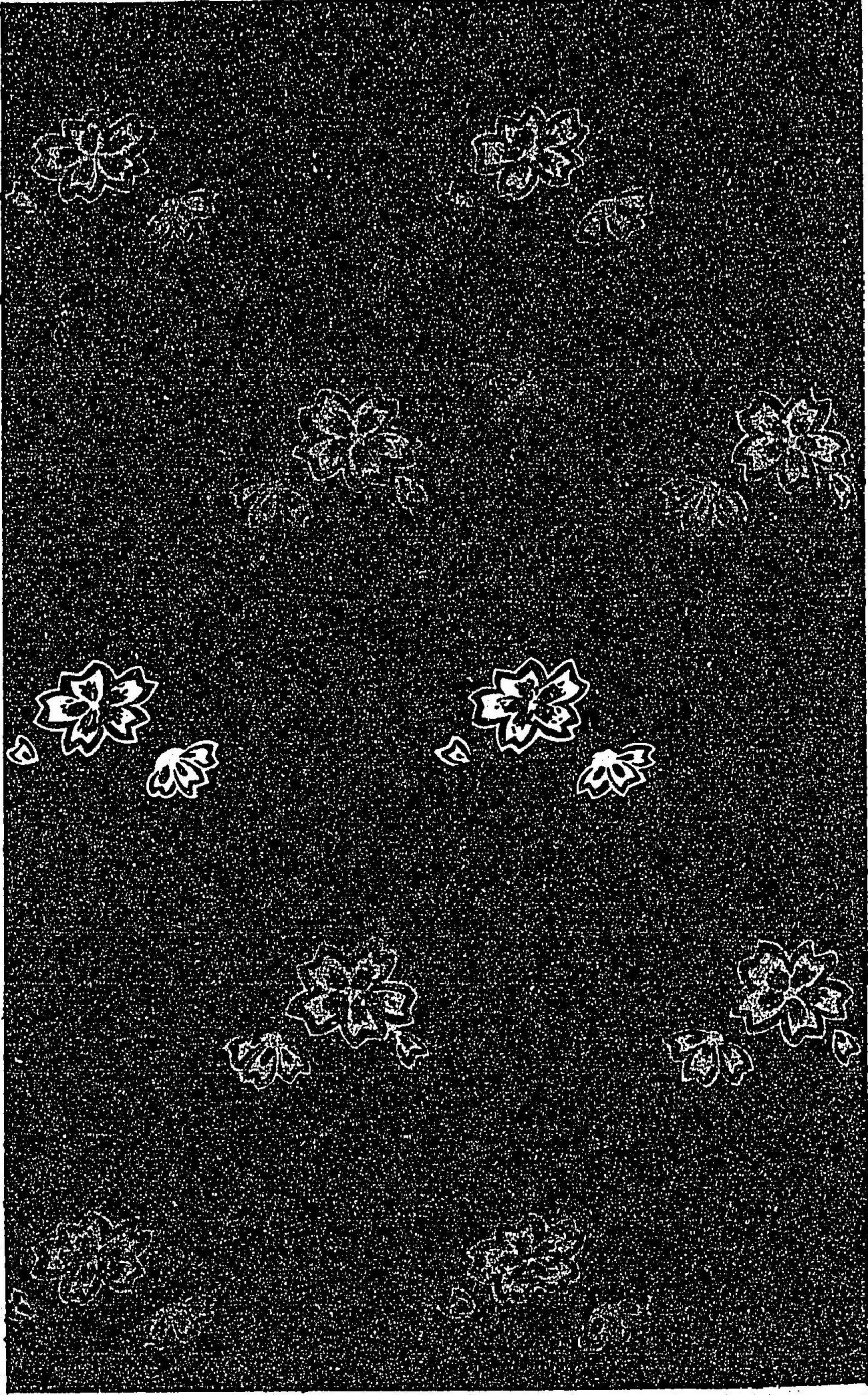
京都府 飯田 新七

變り織女帯地 三分一



京都府 春日井式右衛門支店

厚板女帯地 二分一

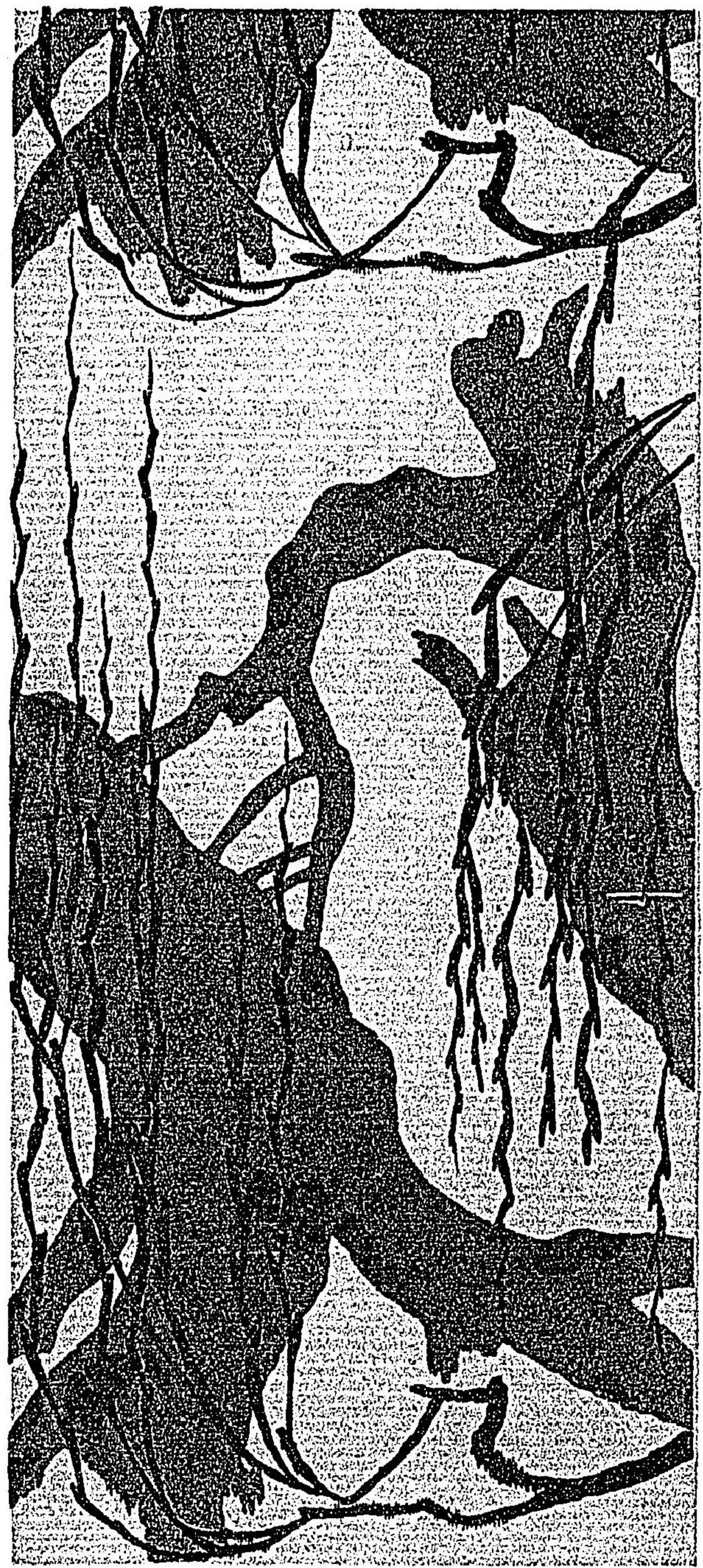


京都府 新井辰次郎



厚板女帶地 三分一

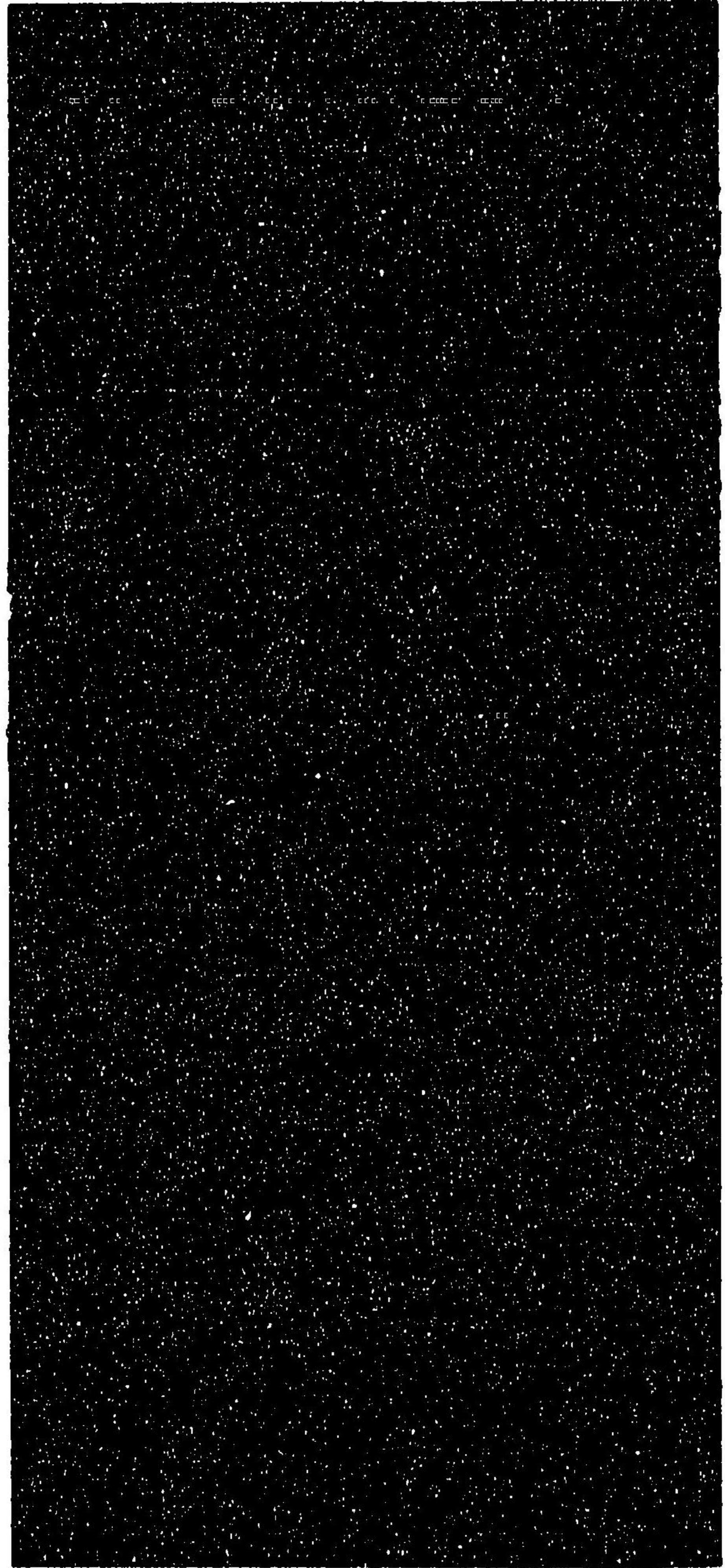
京都府
吉田
源助



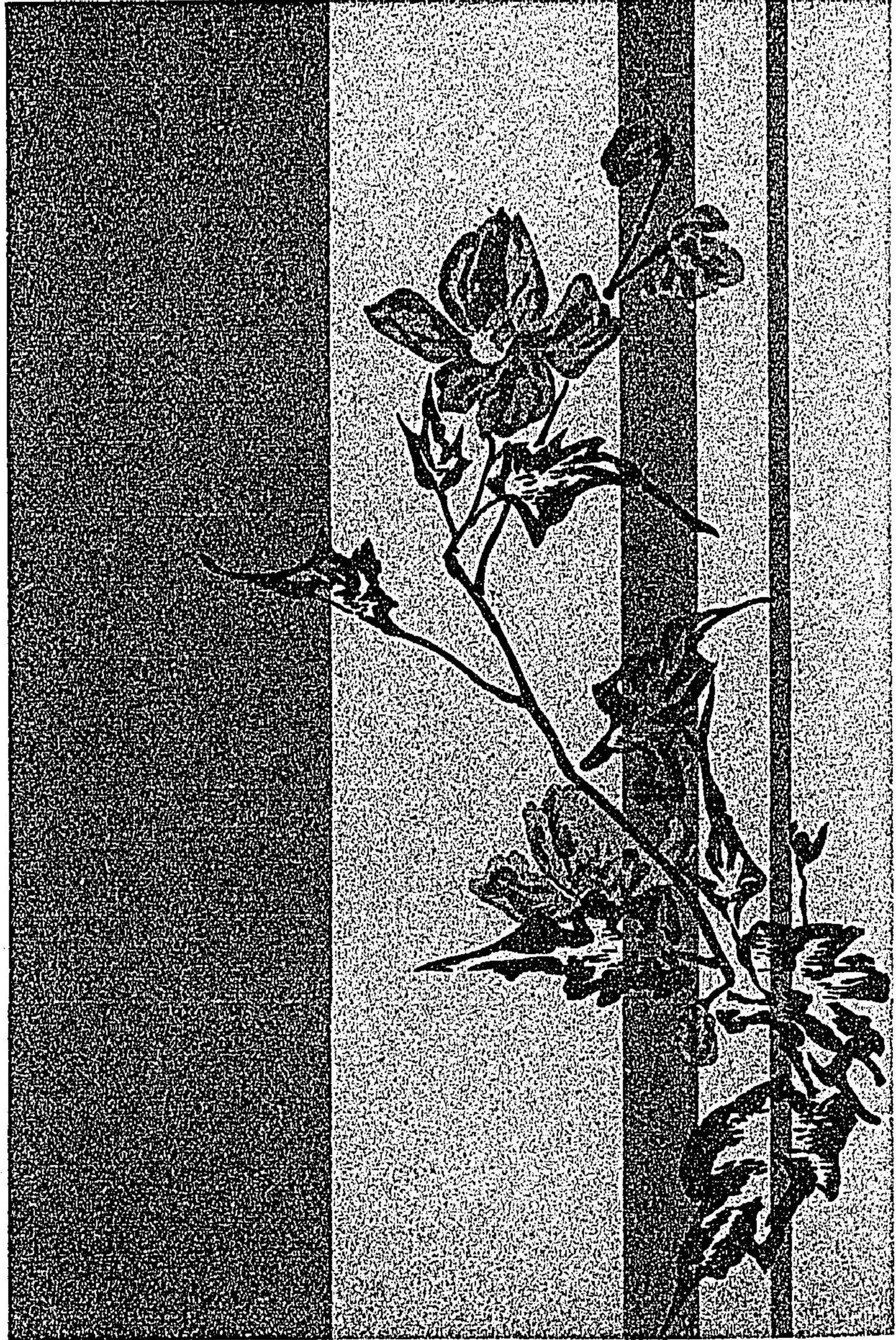
紋博多女帶地 四分一

京都府 中澤 利八

博多女帶地 四分一

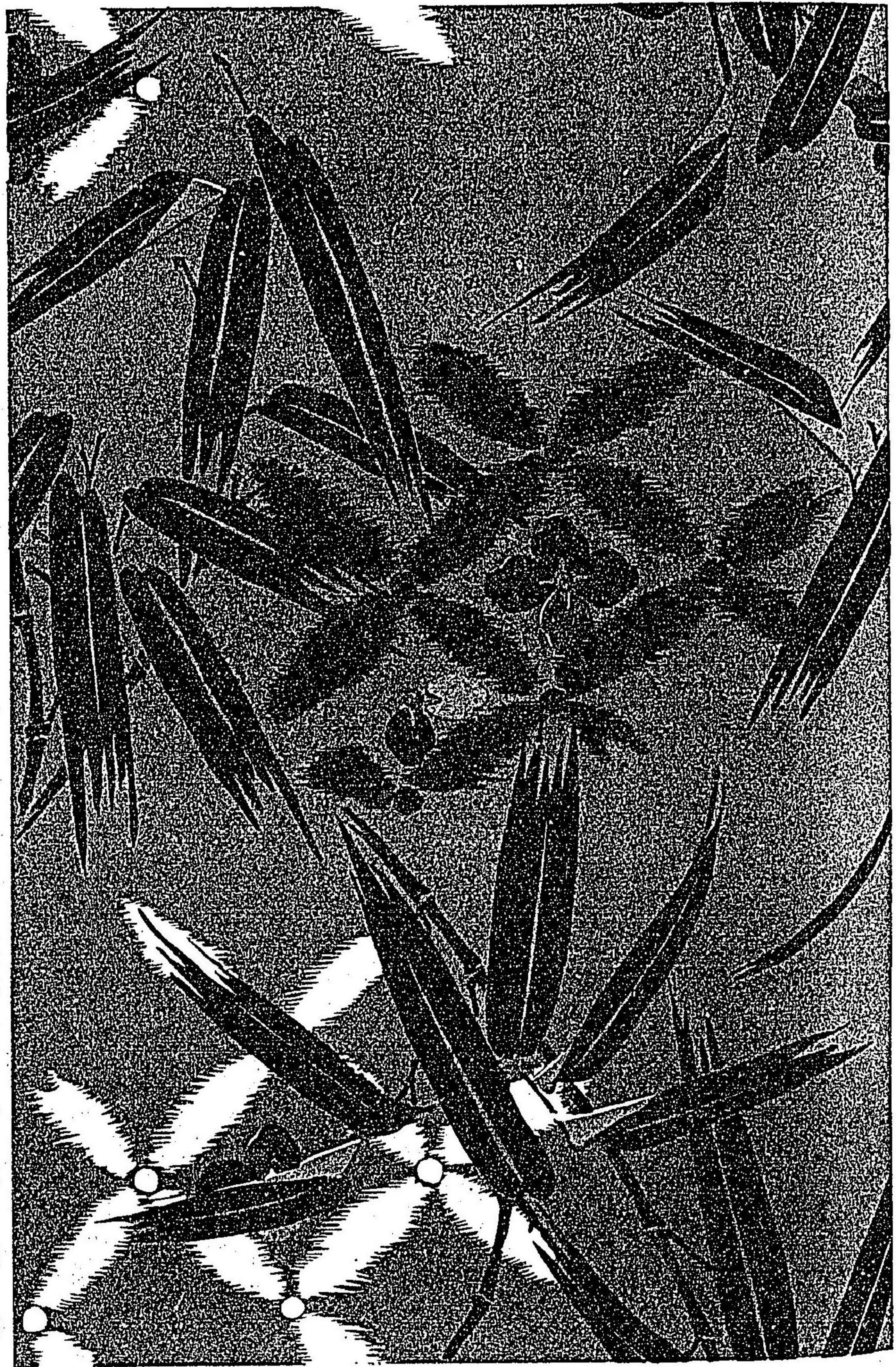


京都府 中澤利八



浮島織片側帶地 三分一

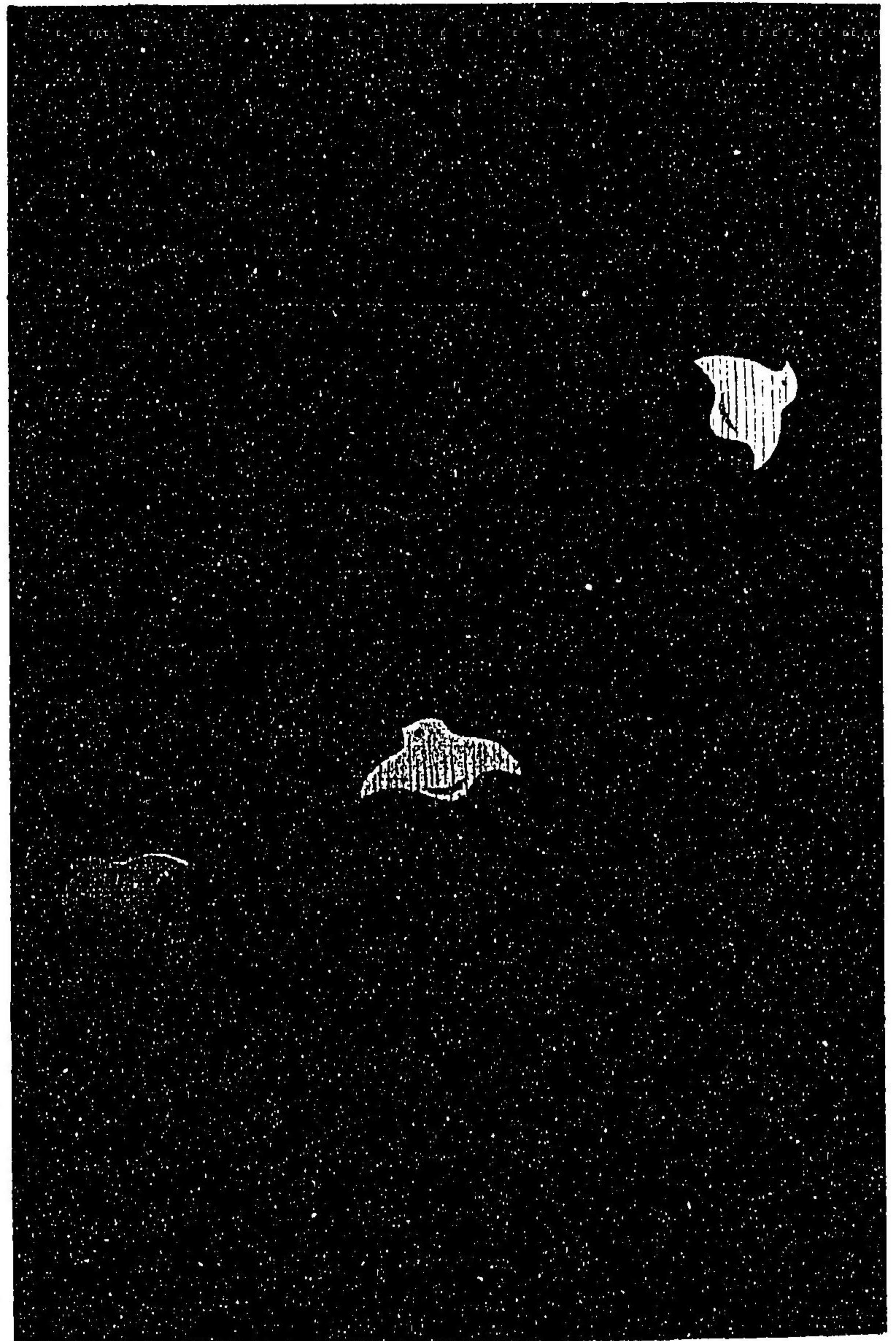
京都府 中井與助



御召線女帯地 三分一

京都府 小林 義 鎮

スミレ織女帯地 三分一

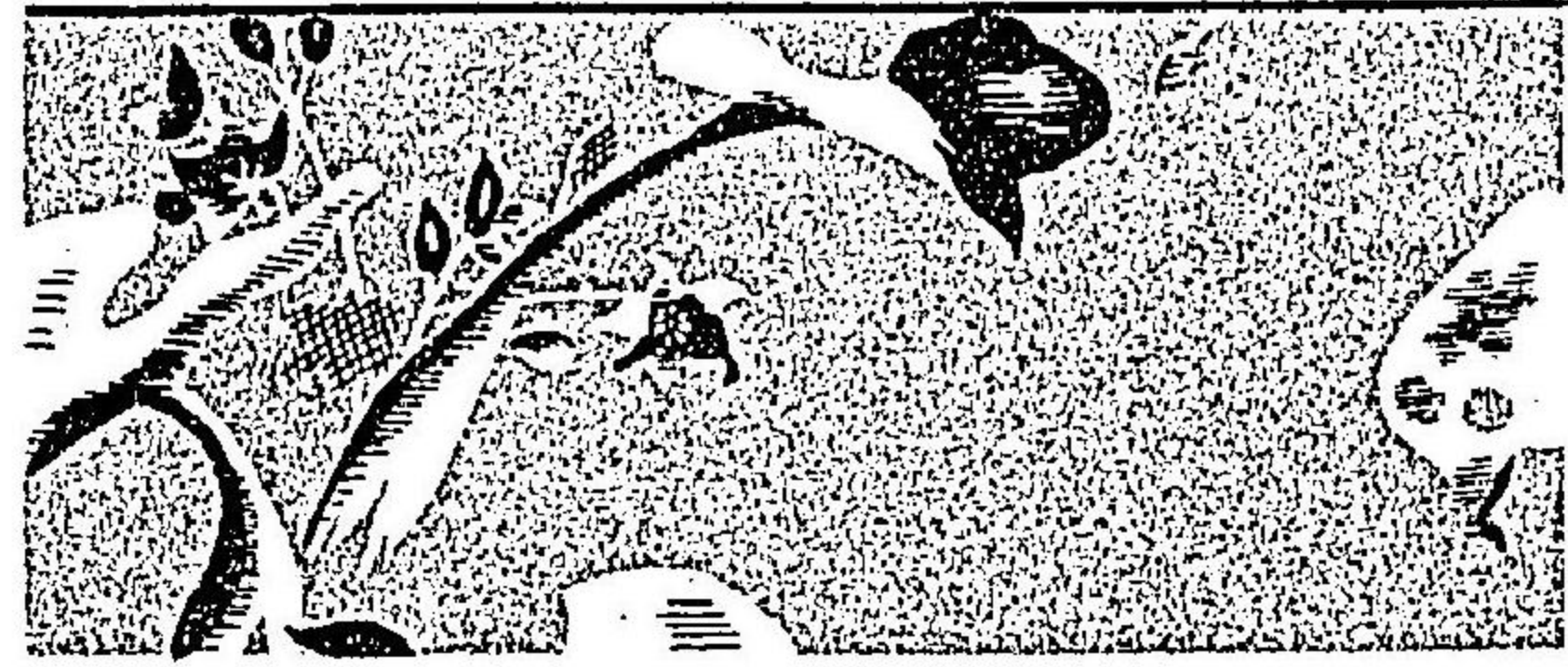


京都府 木村卯兵衛

若柳織畫夜帶 現物大

京都府 田村長兵衛

紋紹廣夏帶地

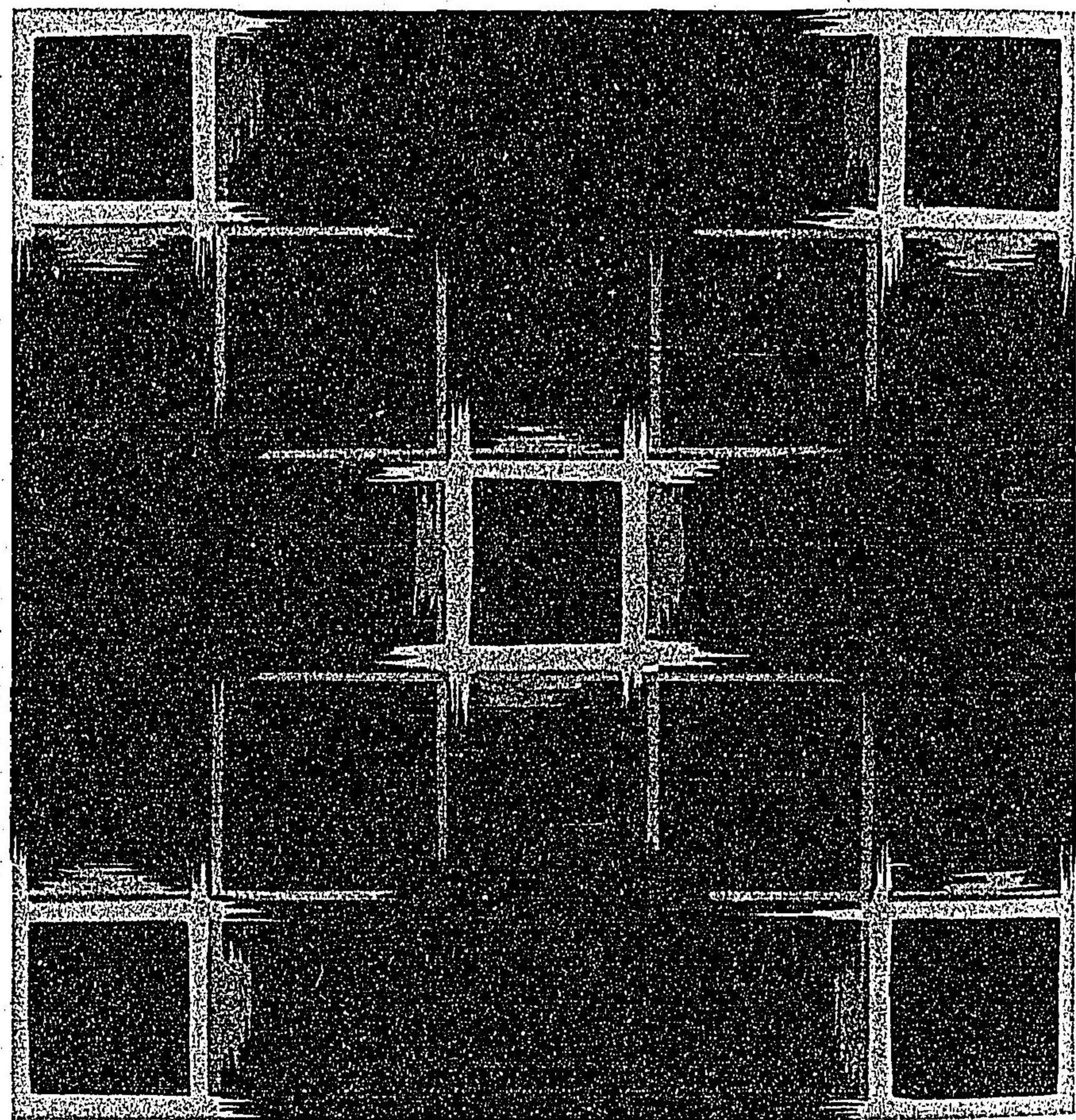


京都府
西村吉右衛門

服地草花模様



京都府
西陣織物模範工場



秩

父

綺

崎

玉

現

物

大

富

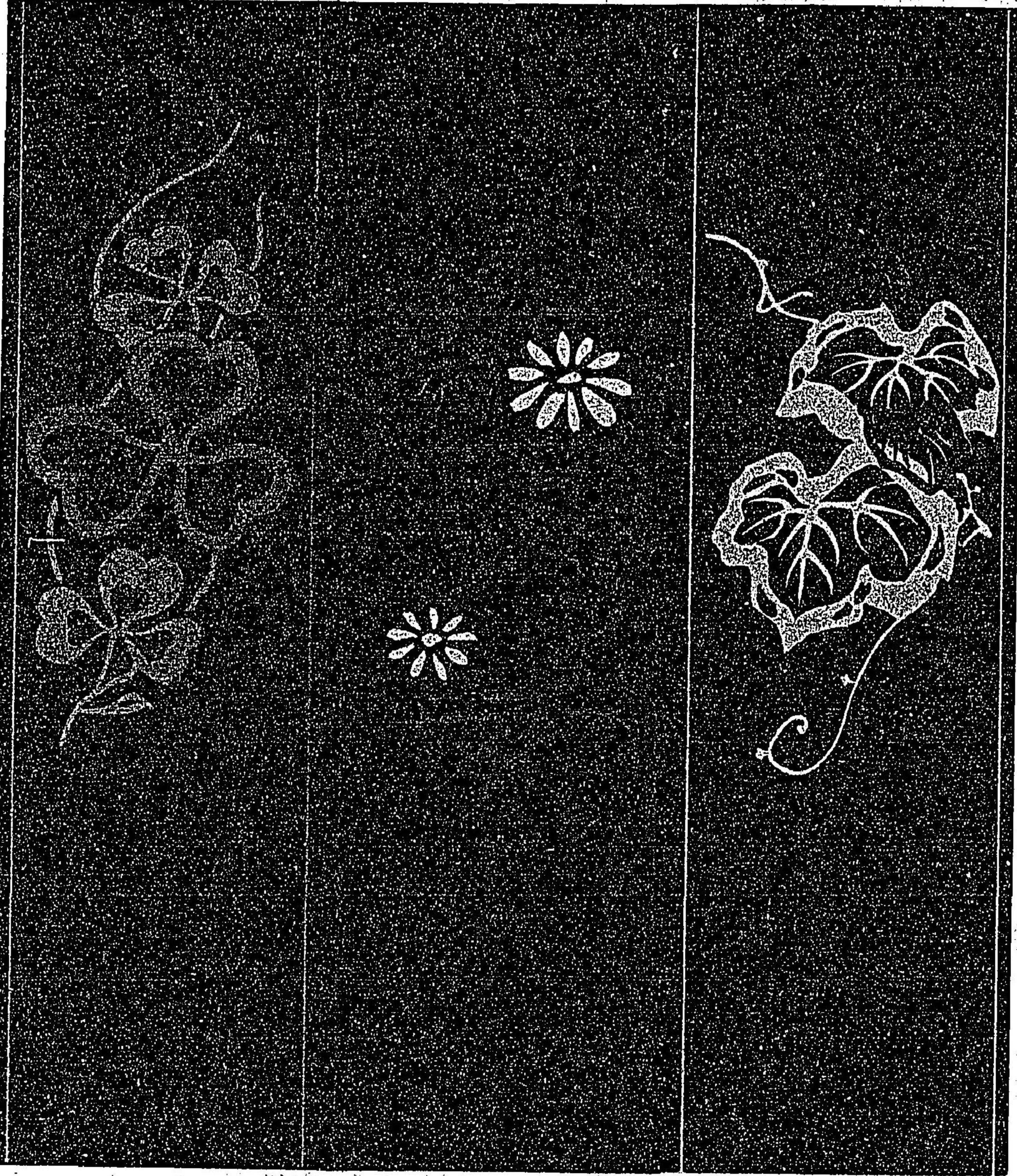
田

仁

作

作

御召縮緬織模様(半衿地) 三分一



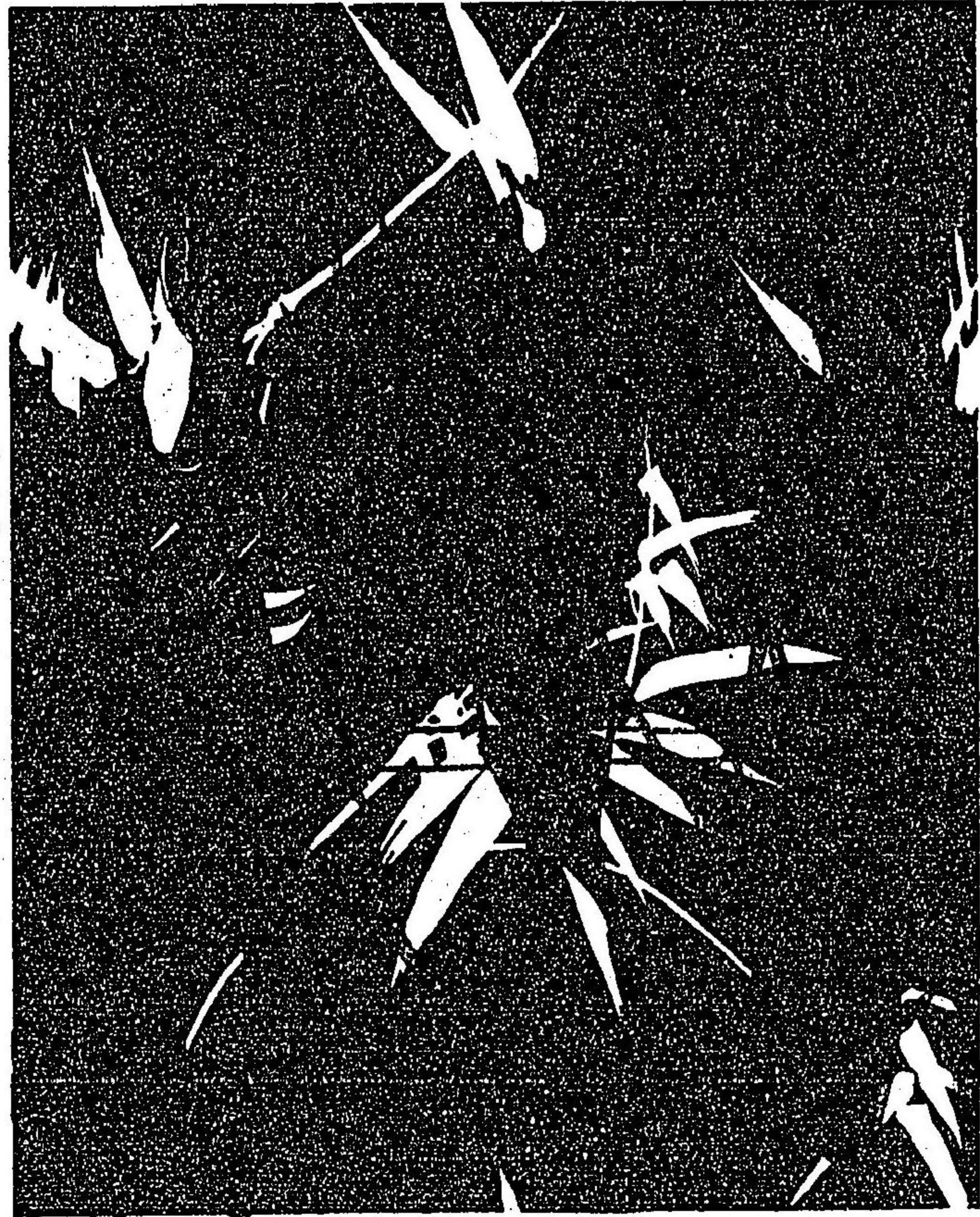
群馬縣 森 彦次郎

伊勢崎大耕 四分一

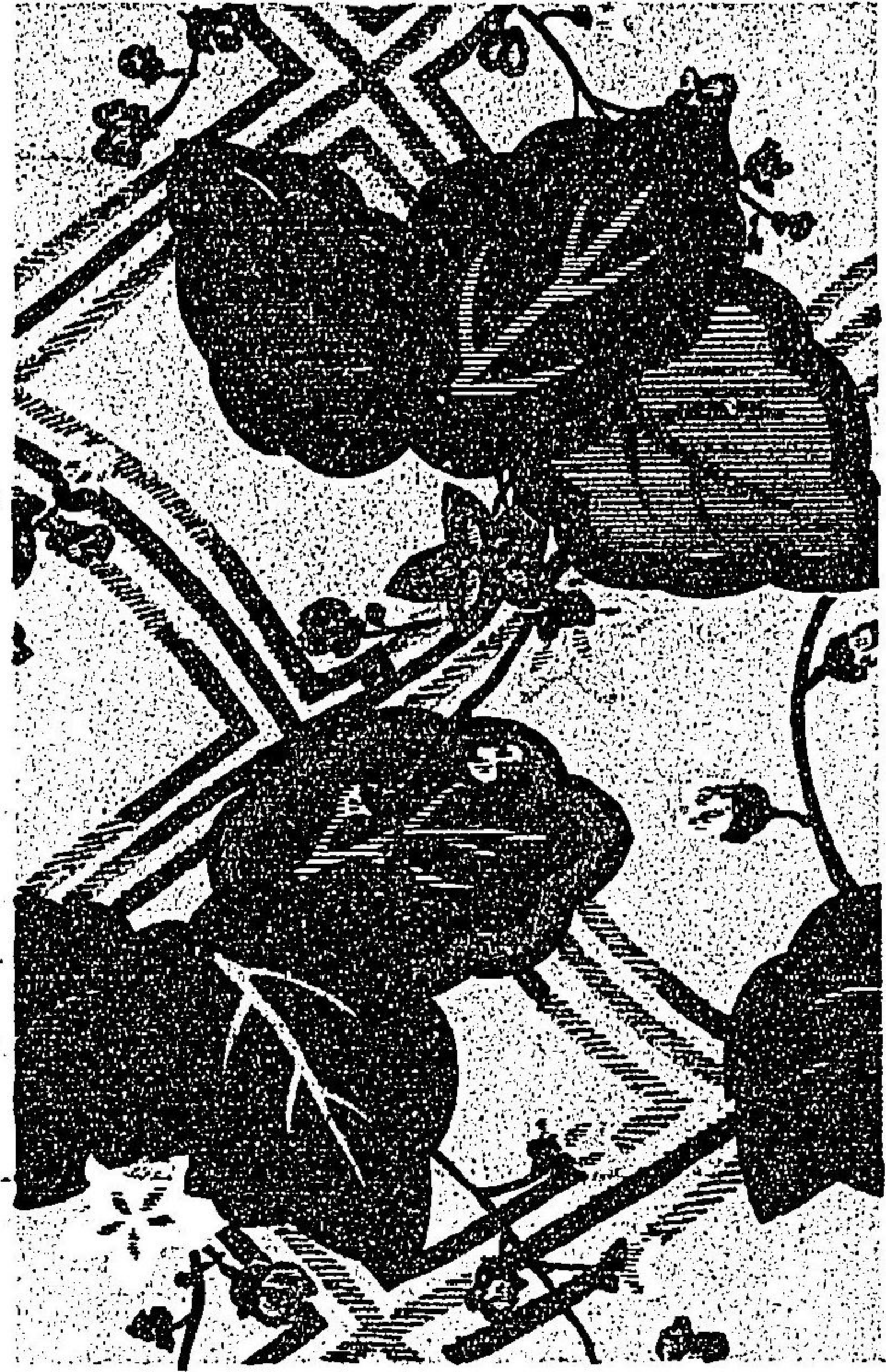


群馬縣 小暮 七郎

緋珍女帶地 三分一



愛知縣 松本善三郎



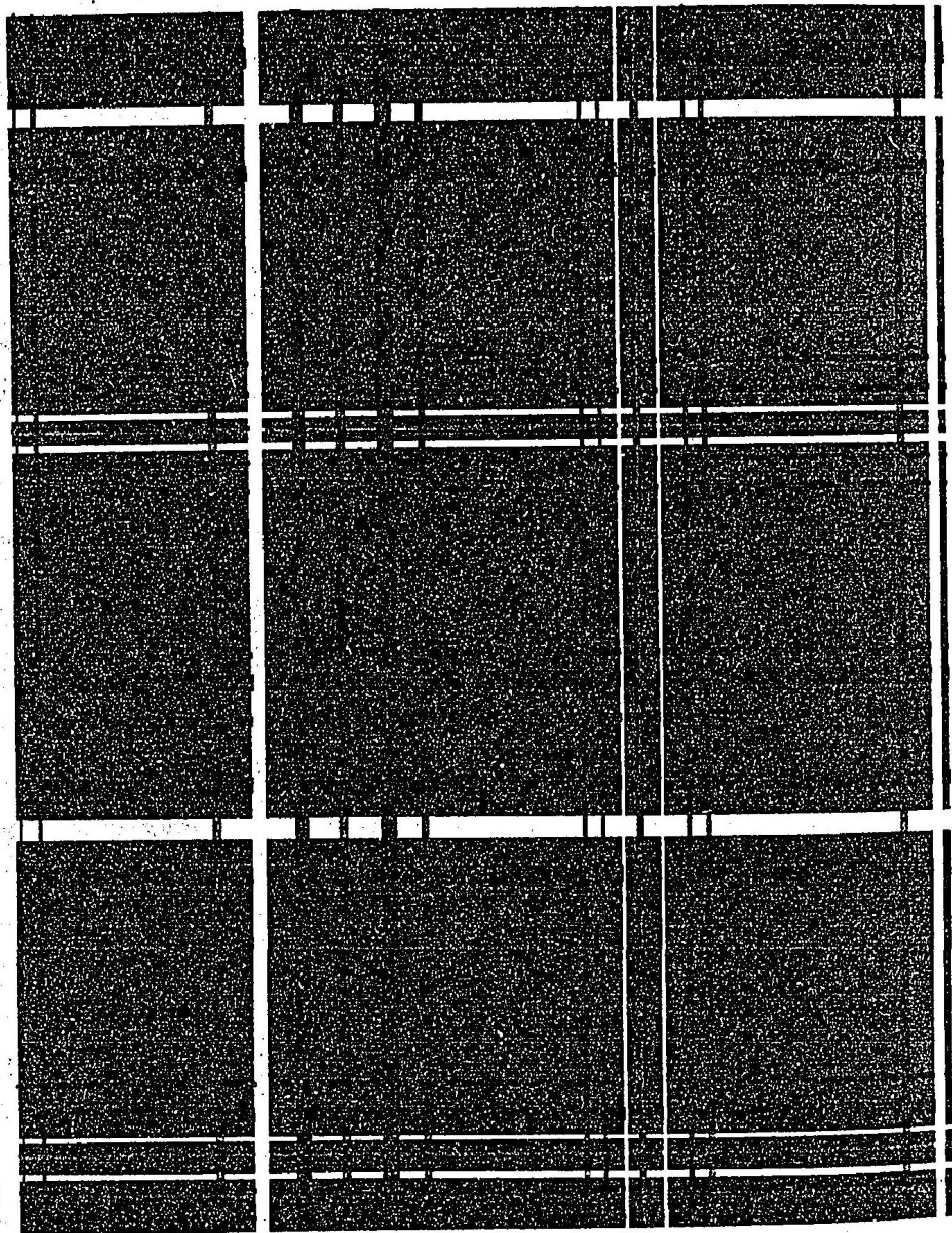
縞珍女帶地

五分一

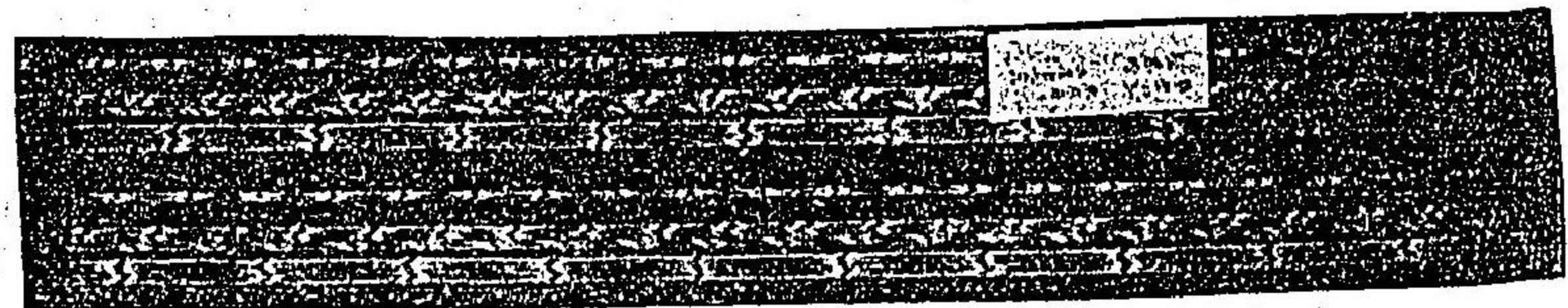
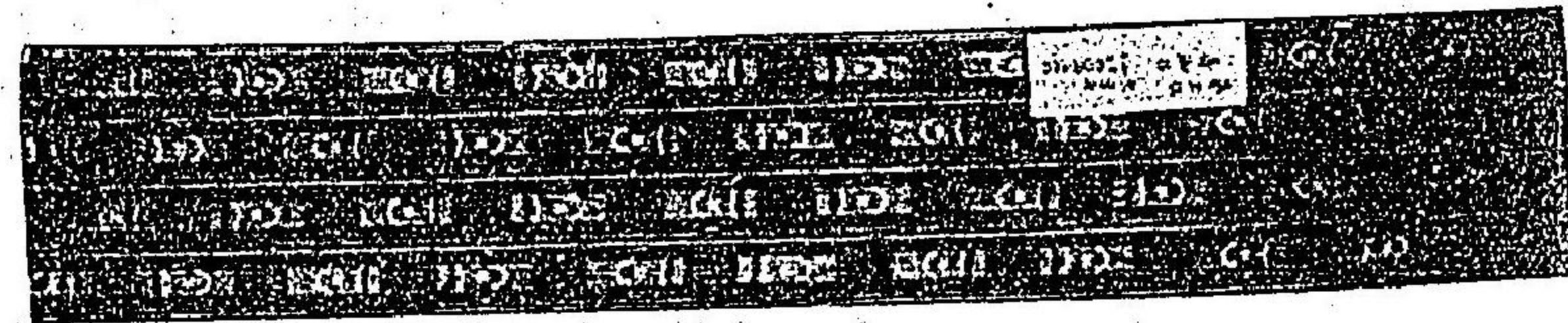
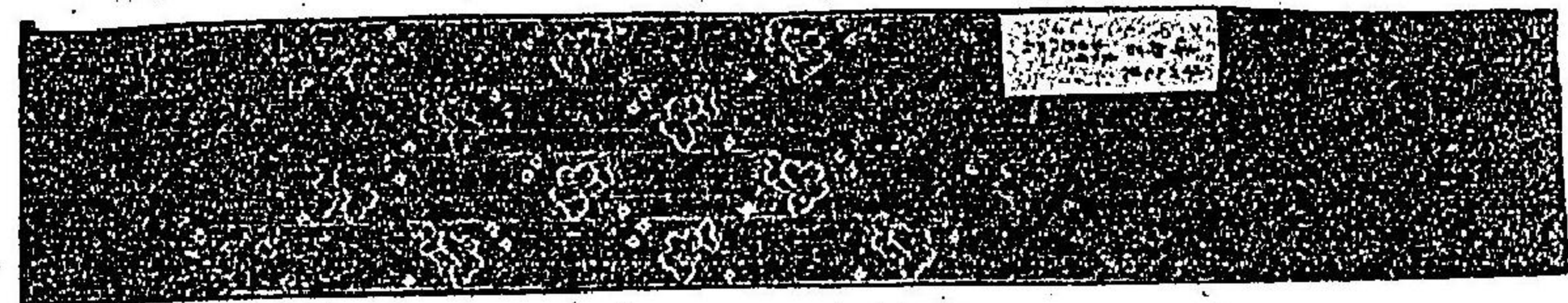
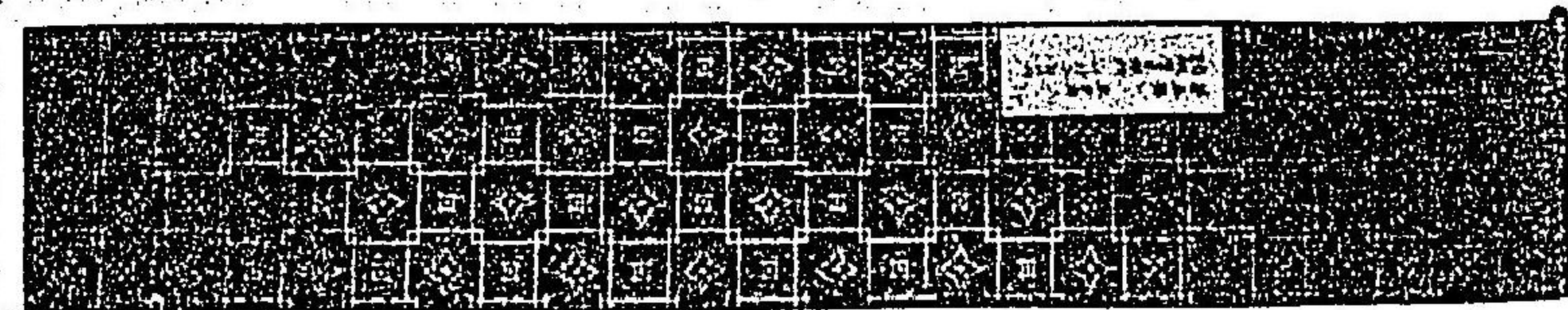
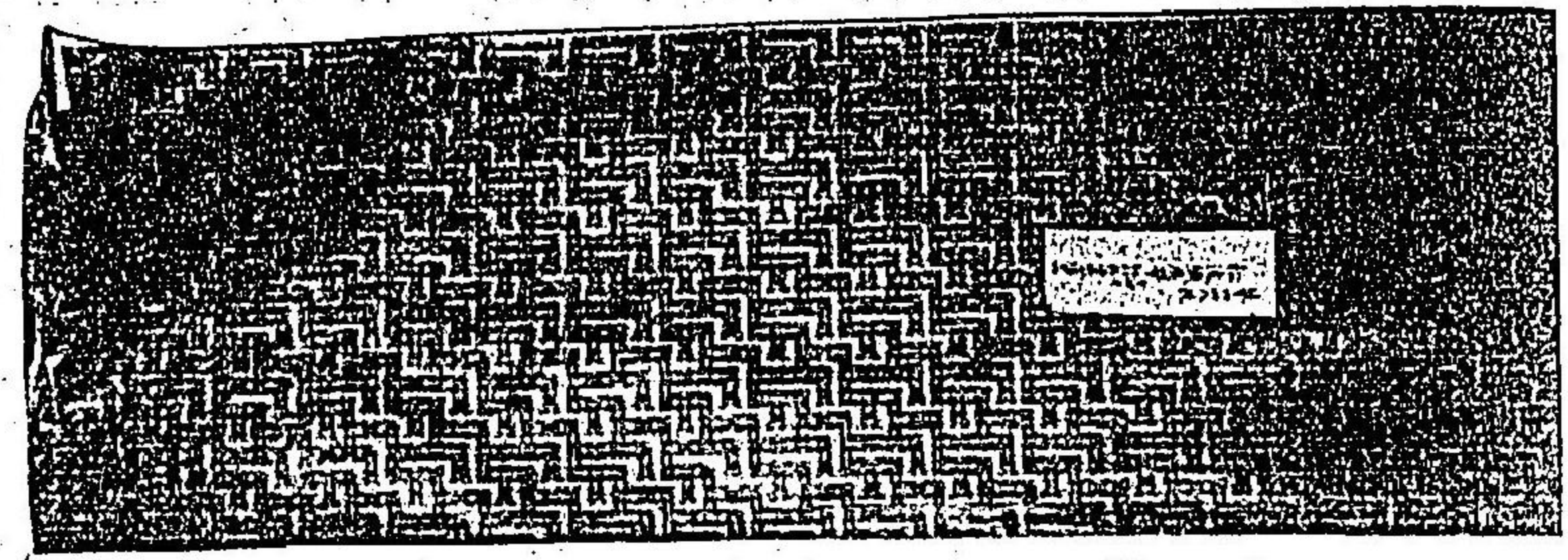
愛知縣

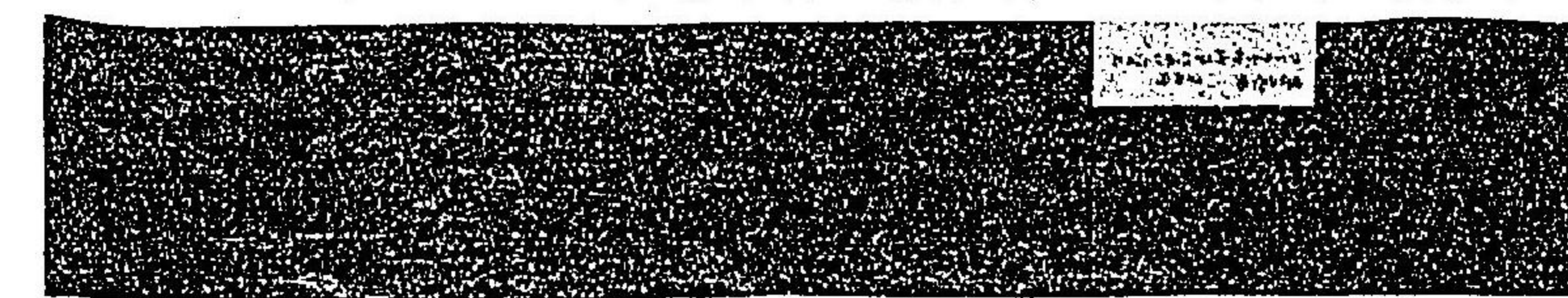
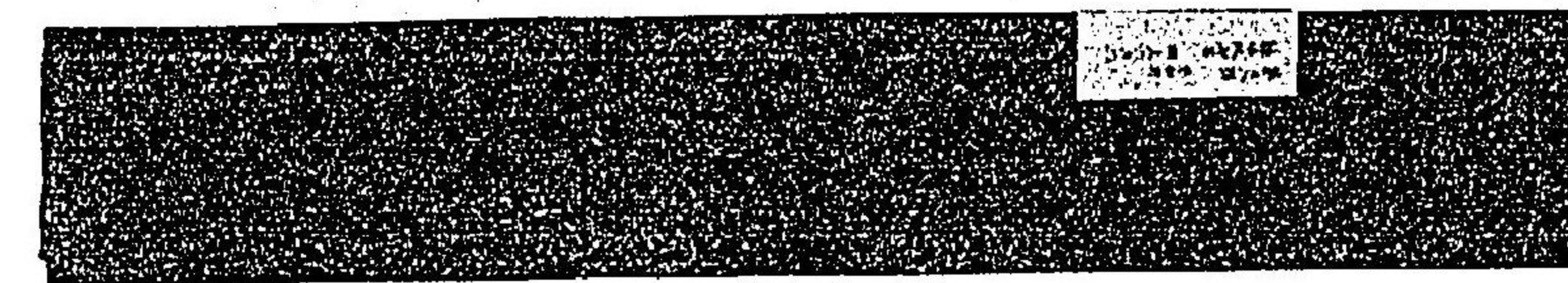
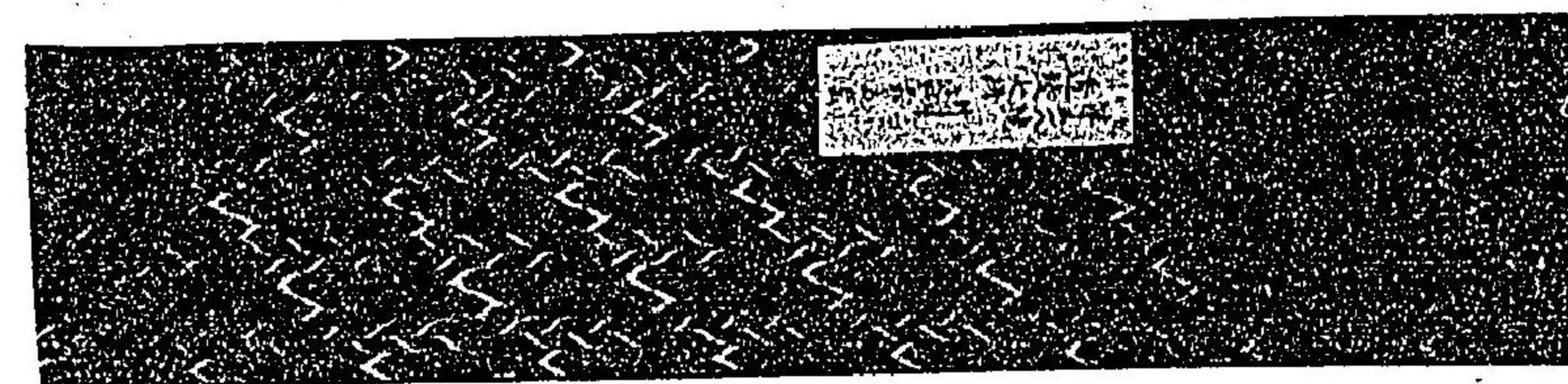
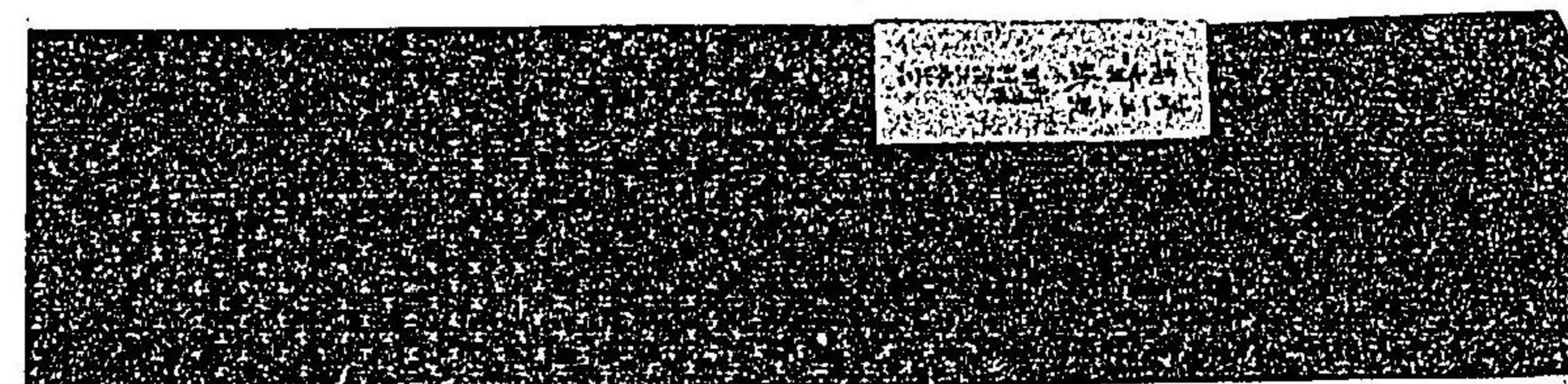
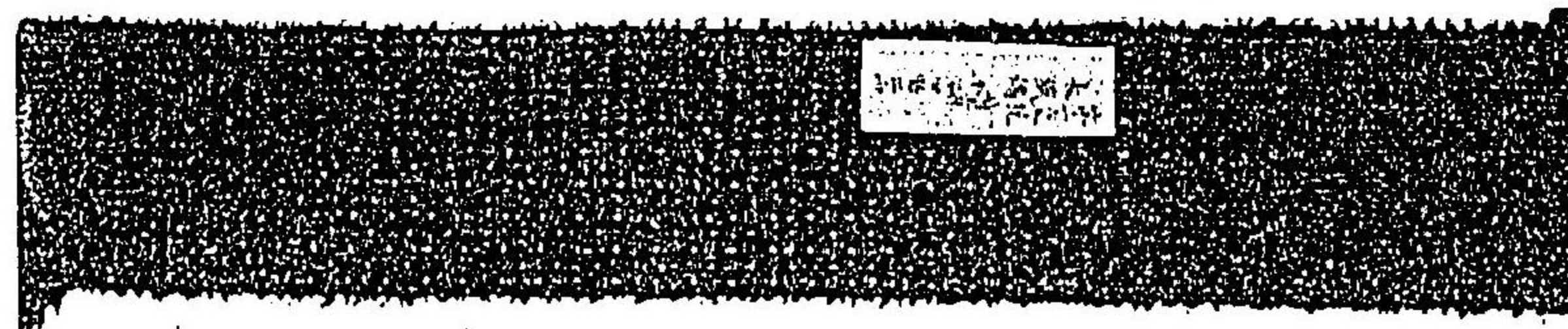
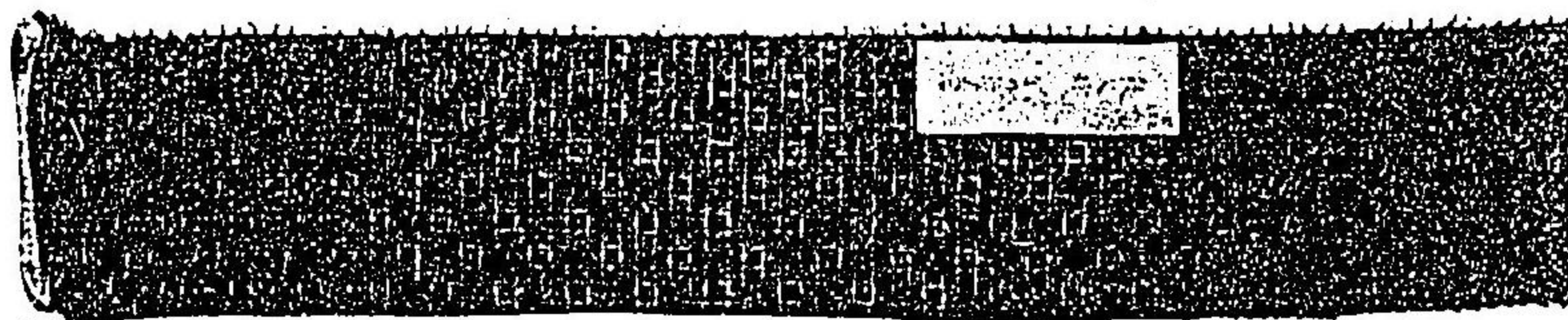
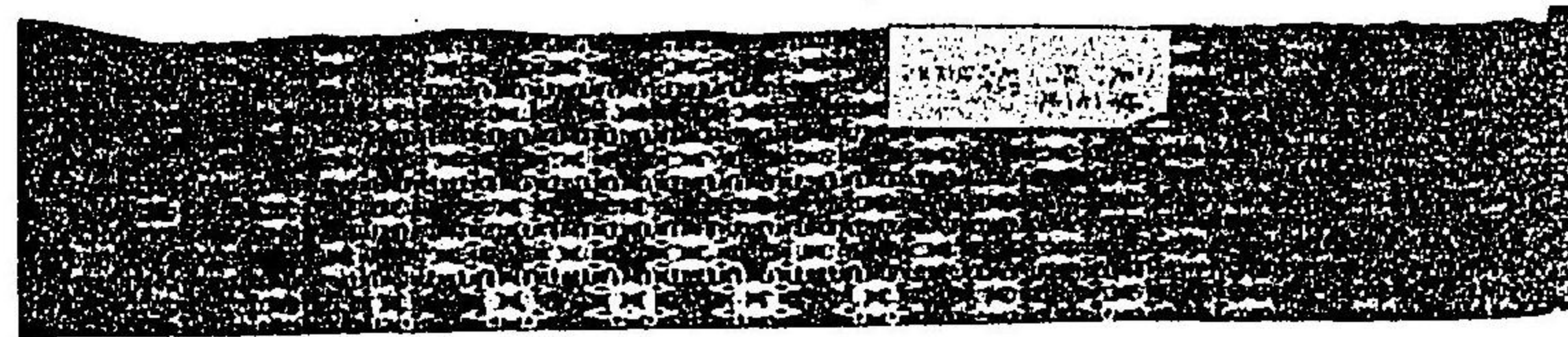
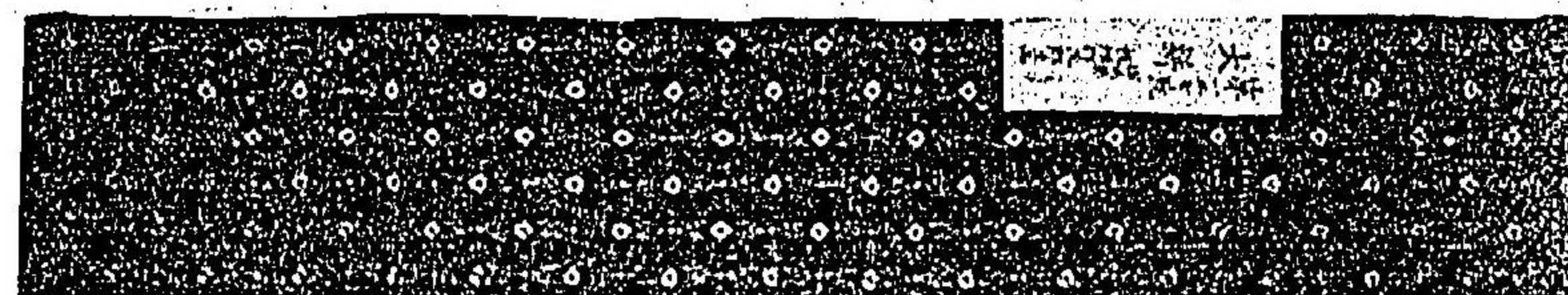
名大
古丸
屋吳
支服
店店

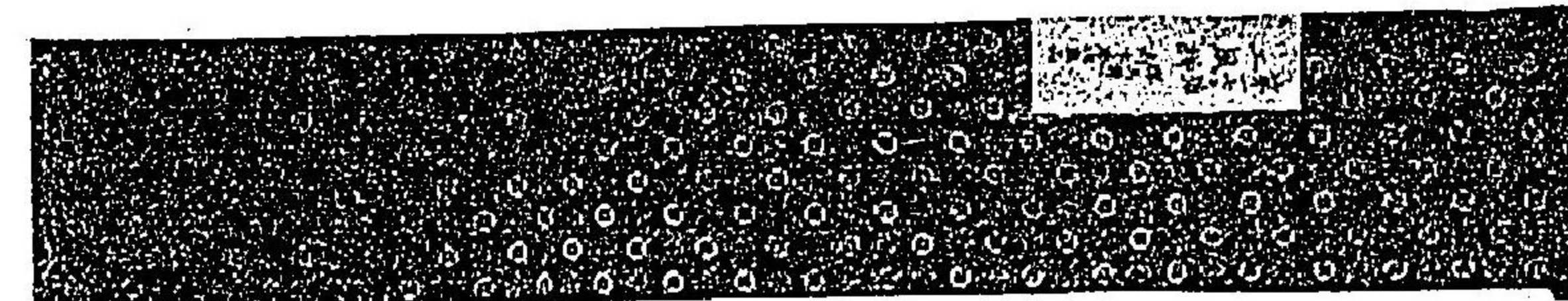
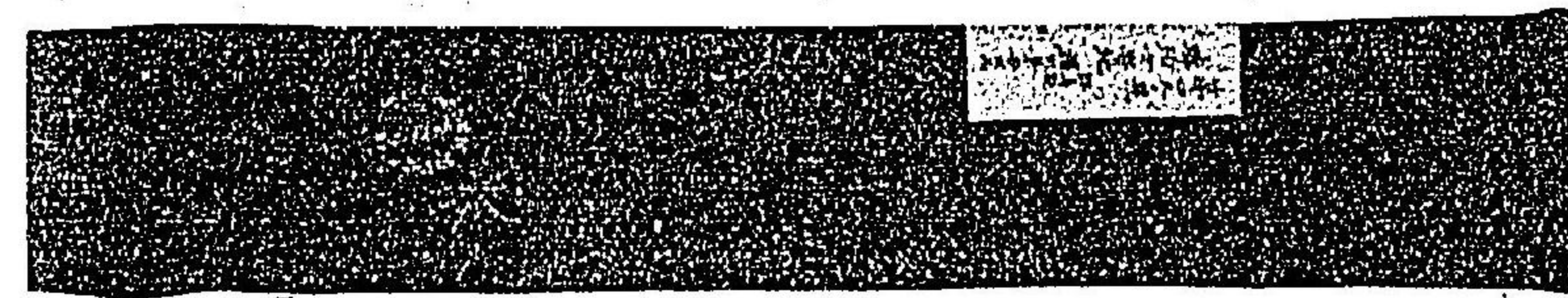
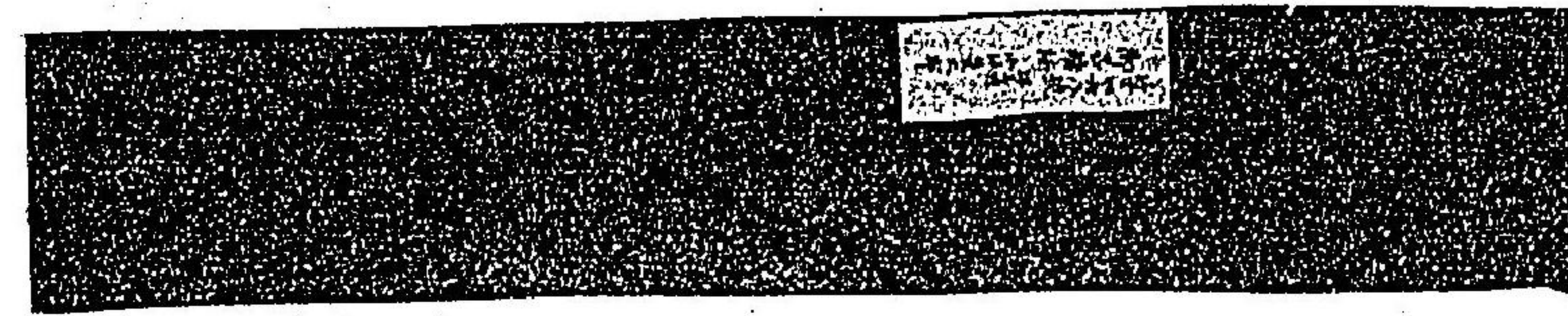
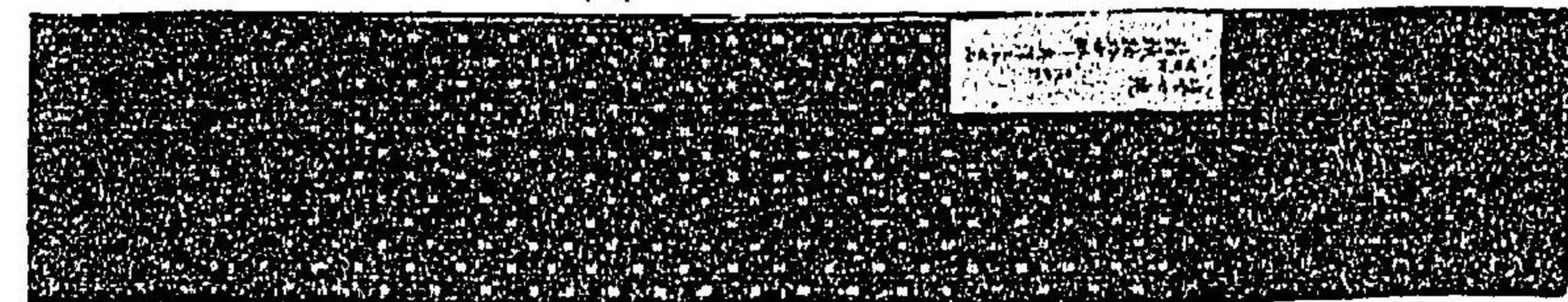
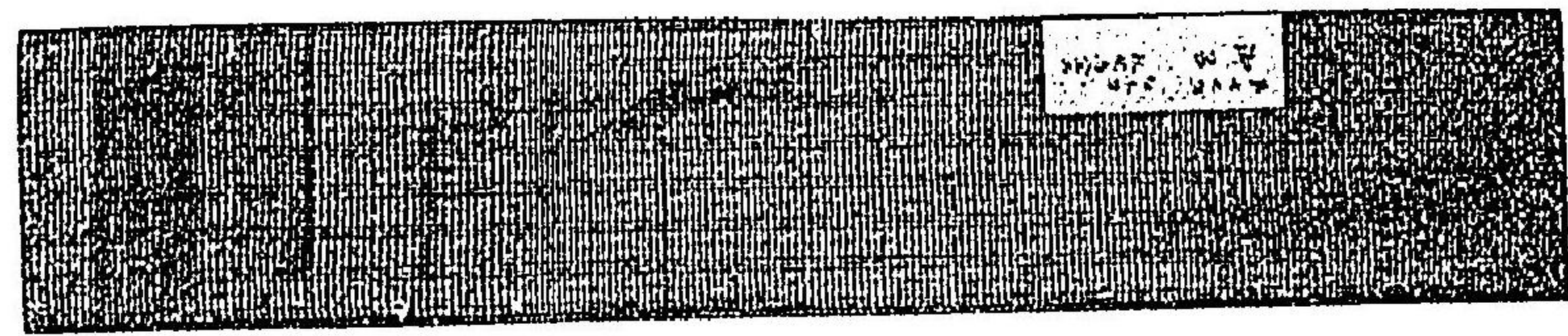
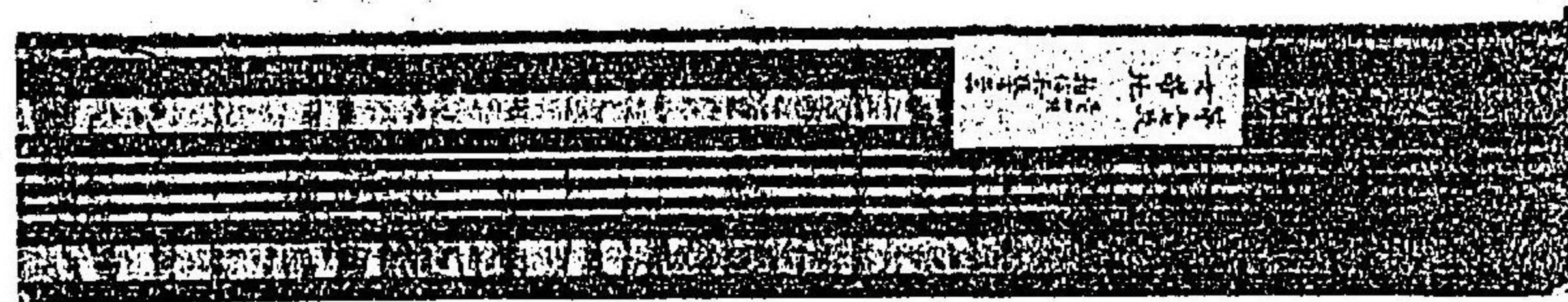
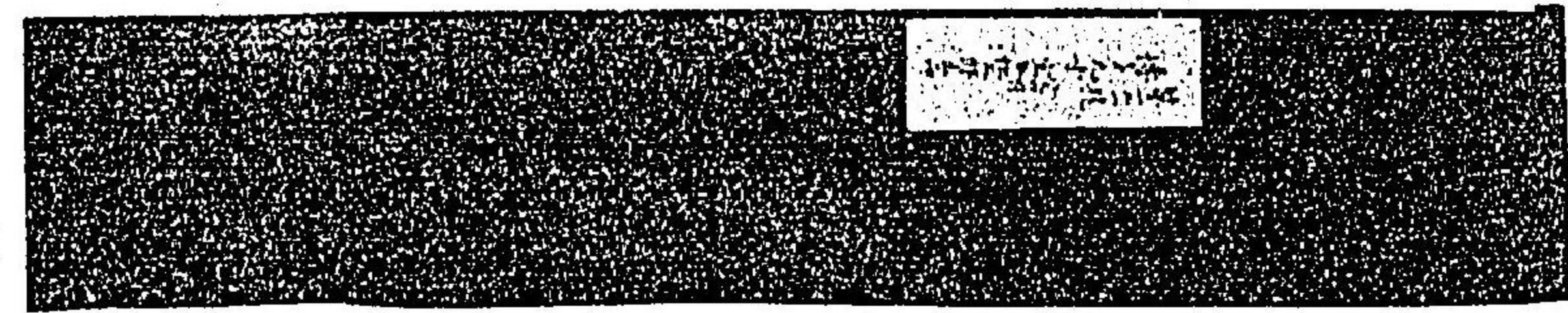
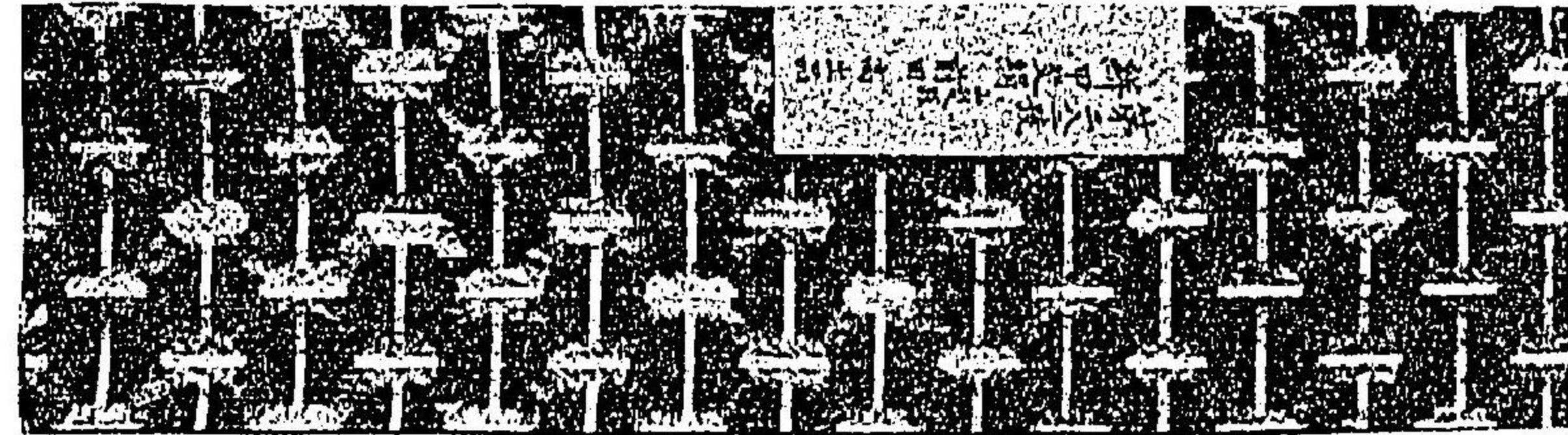
小巾朱子入甲斐絹 現物大



山梨縣 三枝 操







第三章

第二十六類 綿織物

其一 白木綿、帆布、雲齋、織底「タオル」類

白木綿類ハ時勢ノ進運ニ伴ヒ最近兩三年來工業組織ニ大ナル變動ヲ與ヘタリ即チ其ノ本場タル泉州及ビ尾州ノ如キ地方ニテ力織機工場ノ勃興ヲ來シ業務益盛ニ其ノ工業組織ノ工場的トナルニ隨ヒ商業者ノ規模モ益大ニ各地方ノ發展如何ハ一ニ繫リテ其ノ力織機經營ノ巧否ニ歸スルノ有様ナリ請フ左ニ主ナル各府縣出品ノ概評ヲ試ミン

東京府

本府出品ノ「タオル」、敷布等ハ甚少數ニシテ而モ他府縣ノ製作ニ係ルモノアリ特ニ茲ニ批評ヲ試ムルノ價值ナシ

大阪府

本府出品ノ泉州木綿ハ紅下地、手拭地、小紋地用等ニシテ近來少ナキハ二三十臺多キハ一千臺ヲ備フル力織機工場盛ニ起リ其ノ製織ハ概テ力織機ニ移ラントス是レ頗ル時運ニ投合シタルモノニシテ同品ハ漸ク發展ヲナスモノ寔ニ所以ナキニテラス、河内木綿ハ之ニ反シ品質整齊ヲ缺ギ復前日ノ盛況ヲ見ズ是レ從來用ヒ來レル太絲紡績ノ供給不充分ニシテ其價高キコト一因ナルベシト雖、而モ力織機ノ應

用甚少ナクシテ時勢ニ伴ハザルノ致ス所ナルベシ、惟フニ今ヤ我工業界ハ概ネ職工ノ缺乏ヲ訴ヘ隨テ
 賃銀ノ昂騰ヲ促シ又商業ノ進歩ハ漸ク製品ノ齊一ヲ望ムニ至レリ而シテ此ノ缺點ヲ補ヒ此ノ目的ヲ達
 センニハ只機械ノ應用アルノミ特ニ白木綿ノ如キ單純ナル織物ノ製造ニ於テ然リトス當業者之ニ留意
 スルニ非ザレバ遂ニ其ノ事業ノ衰退ヲ來スハ火ヲ見ルヨリモ明ナリ、
 「タオル」ハ近年著シク其ノ需用ノ額ト應用ノ區域トヲ廣メ且輸出ノ増加セルト同時ニ品質ニ製織ニ將
 タ練晒、染色ニ少ナカラザル進歩ヲ示セリ然シテ力織機ノ應用ハ此ノ業ニ於テモ免ルベカラザル所ニ
 シテ已ニ其ノ氣運ニ向ヘルハ歡ブベキコトナリト雖其ノ進歩ノ尙遲々タルハ頗ル遺憾トスル所ナリ當
 業者諸氏宜ク此ノ大勢ヲ察シ益々力織機ノ増設ヲナシ以テ製品ノ整齊ヲ圖リ販路ヲ内外ニ擴ムルコト
 ヲ努ムベシ

兵庫縣

本縣ノ出品ハ金巾、天竺木綿、普通白木綿、綿帆布、「タオル」等ナリ、近年同縣ニテハ力織機ノ設置
 益々盛行ハレ其ノ成績見ルベキモノアリ此ノ種ノ出品ニ於テモ機械織ニ係ルモノ多ク品質製作概シ
 テ佳良ナリ特ニ鐘淵紡績會社ノ出品セル三中巾ノ如キ其ノ創業ノ日尙淺キニ拘ラズ甚優良ナルハ他
 ニ殆ンド其ノ比ヲ見ザル所ニシテ今後益々原絲ノ撰擇ト製織ニ注意セバ輸入品ヲ防遏スルコト決シテ
 難事ニ非ザルヲ信ズルナリ又帆布ノ出品モ殆ンド機械織ニ屬シ其ノ製作益々進歩セリ望ムラクハ尙一

層地質ノ堅緻ニ勉メシコトヲ

「タオル」ハ本縣ニ於テ古キ來歴ヲ有スルニ拘ラズ出品ノ少キハ同業ノ不振ヲ示スモノニ非ル歟、然シ
 テ出品モ一二ヲ除クノ外見ルベキモノナキハ遺憾トスル處ナリ、將來一層ノ奮勵ト力織機ノ應用ヲ希
 望シテ止マザルナリ

埼玉縣

本縣出品ノ白木綿ハ製作整一ヲ缺キ耳惡シク商品トシテ見ルニ足ラズ是レ其ノ製織法極メテ舊式ニシ
 テ改進ノ蹟ナキニ因スルモノナリ今日ニ於テ時勢ニ鑑ミ力織機應用ノ策ヲ講ゼズンバ衰退復々起ツ能
 ハザルニ至ラン

茨城縣

本縣出品ノ織底ハ地質堅實ニシテ見ルベキモノアリ是レ蓋シ本縣發明ノ力織機應用ノ結果ナルベシ更
 ニ一層ノ奮勵ヲ望ム

奈良縣

本縣ノ出品ハ白木綿及綿「ネル」生地ノ二種ニシテ綿「ネル」生地ハ機械織ニ係リ白木綿ハ概ネ手織ニ屬
 ス出品點數甚多シト雖品質雜駁整齊ヲ缺キ原料品トシテノ價值ニ乏シキヲ覺フ由來大和木綿ハ裏地木
 綿生地トシテ重要視セラレタルモノナルニ今ヤ氣勢振ハズ是レ實ニ時勢ニ後レタルノ致ス處ニシテ之

ヲ救済スルニハ力織機應用ノ一途アルノミ當業者ノ猛省ヲ望マザルヲ得ズ
三重縣

本縣出品ノ白木綿ハ甚少數ナリト雖三重紡績株式會社ノ出品ニ係ル三巾金巾ハ品質製織共ニ佳良ニシ
テ大ニ賞スベキモノアリ今一層原絲ノ精撰ニ留意セバ更ニ著シキ進歩ヲ見ルニ至ラン

「タオル」ハ本縣下特有ノ力織機ニ依リテ製織セラレタルモノ多ク品質精良輪毛齊一ナリト雖其ノ販路
ノ尙大ナラザルヲ遺憾トス

靜岡縣

本縣出品ノ織底ハ其ノ品質惡シキニ非ズト雖堅緻ノ點ニ於テ尙缺クル處アリ一層ノ研鑽ヲ望ム

滋賀縣

本縣近江帆布株式會社出品ノ綿帆布ハ漸ク精良ノ域ニ進ミ特ニ其ノ大巾帆布ノ如キ從來會テ見ザル所
我邦帆布織工場ノ巨擘タルヲ失ハズ

岡山縣

本縣ノ雲齋ハ其ノ出品多數ニシテ品質稍均齊價格低廉加フルニ經糊少ク同地方ノ特產物タルヲ表明ス
ルニ足ルモノアリ然レドモ耐久ノ點ニ於テ尙遺憾ナキ能ハズ一層原絲ヲ撰擇シ經絲ノ撚數ヲ増シ又其
ノ組織ヲ緻密ナラシムベシ而シテ間々畝目ノ確然タラザルモノアリ注意ヲ要ス又其ノ製織ハ將來力織

機ニ依ルノ外ナキハ論ヲ待タザル所ニシテ之ガ研究ハ同業ニ於ケル重要問題ナリト信ズ

廣島縣

本縣出品ノ綿帆布ハ機械織手織相半シ手織ニシテ其ノ組織ノ堅緻ナル機械織ト大差ナキモノアリ何レ
モ前回ニ比シ進歩ノ蹟ナキニアラズト雖今ヤ各地競フテ改進ヲ圖ルノ時ニ際シ本縣ニ於テモ尙一層ノ
研鑽ヲナシ進デ力織機ノ應用ヲ一層盛大ナラシメンコトヲ望ム

白木綿ハ一ニ見ルベキモノナキニ非ズト雖未ダ地方ノ特產トシテ重キヲ置クニ足ラズ

山口縣

本縣出品ノ「タオル」ハ普通品トシテ見ルベキモノアレドモ原絲ノ撰擇輪毛ノ整齊等ニ於テ不充分ナル
モノアリ尙一層ノ研究ヲナシ又力織機ノ應用ニ注目スルヲ要ス

和歌山縣

本縣白木綿ノ產出ハ近年ノコトニ屬ス是レ綿「ネル」業ガ漸次機械事業ニ移ルノ結果ニ外ナラザルベシ
然レドモ白木綿モ亦將來機械織ニ屬スベキモノナルヲ忘ルベカラス

香川縣

本縣ノ白木綿ハ未ダ地方ノ特產タルニ至ラズ一層ノ奮勵ヲ要ス

愛媛縣

本縣ノ出品ハ品質一定眞ニ三品市場ノ立物タルニ恥ヂズト雖而モ製作上何等ノ變動ナシ今ヤ白木綿ハ機械織ヲ以テ標準トナスノ時ニ當リ同品ノ將來亦大ニ考慮ヲ要スルモノアリ當業者ノ反省ヲ促ス所ナリ

愛知縣

本縣出品ノ白木綿ハ岡木綿、知多木綿、三河木綿及輸出木綿等ニシテ縣下各地ニ亘リテ其ノ出品點數甚多ク眞ニ縣下ノ一大物産タルヲ表スルニ足レリ岡木綿ハ丹羽、葉栗、中島諸郡及名古屋市ノ出品ニ係ル現時同品ハ其ノ大部分力織機ノ製織ニ係リ組合ヨリ一定ノ箴ヲ供給シテ製織セシムルヲ以テ其ノ製品ニ均齊ナル數千反ヲ取リテ之ヲ比較審査スルモ殆ド其ノ差等ヲ看出ス能ハザル如クニシテ其ノ中形生地トシテ首位ニ置カル、モノ寔ニ所以ナキニアラザルナリ

知多木綿ハ從來晒木綿トシテ優勢ナル地位ヲ占メタルモノナリ然シテ近來力織機ノ應用益々盛ニ行ハレ其ノ大部分機械織ニ移リタルハ喜ブベキコトト云フベシ然レドモ尙丈尺ノ不足ナルモノ又晒白ノ不充分ナルモノアリ一層検査ヲ勵行シテ粗製ノ弊ヲ矯正センコトヲ望ム

三河木綿ハ其ノ出品額田、幡足、碧海、愛知諸郡及名古屋市ニ亘リ地質緻密ニシテ堅牢ナリト雖尙足踏及手織製ノ時代ニ屬シ機械織ニ係ルモノ少シ是レ當業上ノ一大缺點ニシテ速ニ力織機ヲ獎勵シテ品質ノ整齊ヲ圖ルニアラザレバ同業ノ將來甚寒心スベキモノアラン

此ノ他滿韓、臺灣向白木綿及大巾天竺木綿等アリ何レモ機械織ニ屬シ其ノ製産額多大ニシテ其ノ製品亦見ルベキモノアリ然レドモ其ノ實際ニ於テハ職工ノ不熟練ト監督ノ不充分トニ依リテ疵物ヲ出スコト多ク又工場經濟ノ確立セザルモノアルハ大ニ研究ヲ要スル所ナリ「タオル」ハ其ノ技術大ニ進ミ製品見ルベキモノアリ然レドモ其ノ利益ノ少キガ爲メ漸ク他ニ轉業スルモノアルハ遺憾トスル處ナリ

其二 縞木綿

縞木綿ノ出品數ハ七千七百七十二點、人員二千七百〇七名ニシテ木類出品中最モ多數ヲ占メ各府縣ニ就キテ之ヲ見レバ廣島ノ九百四十一點ヲ最高トシ山口ノ六百七十一點靜岡ノ六百十九點、兵庫ノ五百五十三點徳島ノ五百三十八點等之ニ次ギ神奈川山梨ノ二縣ヲ除ク外各府縣共多少ノ出品ヲ見ザルナキノ盛況ヲ極ム概シテ軌近長足ノ進歩ヲナシ柄樣組織等ニ於テモ亦大ニ見ルベキモノアリ殊ニ製織並ニ整理ノ機械應用ノ擴張ハ漸次製品ノ精巧ト産額ノ増進ヲ來タセルハ誠ニ喜ブベキ現象ナリトス、今左ニ多數ノ出品ヲナセル府縣ニ就テ評論シ併セテ參考ニ資スベキ五六組合ノ業況一斑ヲ略述スベシ

東京府及埼玉縣

東京府出品ノ縞木綿中ニハ埼玉縣製産ノモノ多數包含セラル、ヲ以テ各別ニ評論スルノ煩ヲ避ケ茲ニ併評センニ着尺地中夏着ニ供スルモノハ一般ニ價格廉ニシテ柄合瀟灑能ク時好ニ適シ益々進歩ノ形跡アルヲ認ム殊ニ瓦斯縞ハ柄合組織共ニ優良ニシテ整理ノ方法亦近來大ニ改善セルモノ、如シ之ニ反シ

双子其他冬着ニ屬スルモノハ柄様整理共ニ舊態依然概シテ發達ノ跡ヲ認識スルコト能ハザリシハ遺憾ナリトス又大目夜具縞ハ配色一定ニシテ縞柄ノ變化ニ乏シキ甚シキニ至リテハ仕立後ノ縞ノ循環ヲ願ミザルモノアリ其ノ他一般ニ染色堅牢ナラザル等缺點ノ非難スベキモノ尠カラズ

染色堅牢度試驗成績表

產地	品名	出品人	價格	染色試驗成績							
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾擦	濕擦	日光	
東京府八王子町	縞木綿	中村宗三郎	二、六五〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同 東京市	まことちびみ	忠誠社	三、一一〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同 同	瓦斯双子織	下村合名會社	二、三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同 西多摩郡	夜具縞	田邊 正助	一、六五〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同 東京市	瓦斯小格子	澤田關次郎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 東京市	瓦斯吉野織	川田長十郎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 北足立郡	瓦斯縞	山岡柳之進	一、六〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
		山崎巳之助	一、八〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—

兵庫縣

本縣ノ出品所謂播州縞ハ輒近發達ノ緒ニ就キ意匠及染色等尙改善ヲ要スベキモノ尠カラズト雖製品ノ統一セルト價格ノ低廉ナルトハ大ニ稱揚スベキノ點ナリ惟フニ同縣機業家ガ近時世運ノ發展ニ鑑ミ爭

フテ力織機ヲ採用シ各郡相競フテ或ハ共同染工場ヲ設置シテ染料作用上ノ改善ヲ計リ或ハ製品検査ヲ勵行シ共同販賣ノ機關ヲ以テ粗製濫造ノ弊ヲ防グ等其他銳意改良發達ノ策ヲ講ジタルノ結果ニ外ナラズ殊ニ近來斬新ナル整理機ノ使用ヲ企テ時好ニ投シ顧客ヲ得シコトニ努メタルノ結果製品ノ面目ヲ改メタルモノ鮮少ナラズトセズ

染色堅牢度試驗成績表

產地	品名	出品人	價格	染色試驗成績						
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾擦	濕擦	日光
兵庫縣加西郡	常盤縞	高井常三郎	—	—	—	—	—	—	—	—
同 多可郡	縞木綿	齊藤卷太郎	—	—	—	—	—	—	—	—

多可郡播州織同業組合業況一斑

一、業務ノ趨勢並ニ現況 多可郡ノ機業ハ明和年中飛田安兵衛ナル者ノ創始ニ係リ爾來日ヲ逐テ隆盛ニ向ヒ京都大阪ノ二大都市ヲ顧客トシ維新ノ際ノ如キモ殆ンド其ノ影響ヲ被ラズ固ヨリ多少ノ弛張ハズリタリトスルモ頗ル樂觀的ニ發達シ來リタリ然ルニ明治二十二年ノ頃ヨリ機業者中粗惡ナル輸入染料ヲ使用シ不正ノ暴利ヲ貪ル者ヲ生ジ爲ニ市場ノ信用ヲ失シ殆ンド起ツ能ハザルノ悲境ニ陥リタルモ縣郡當局ノ勸奨ト當業者ノ覺醒トニヨリ同業組合ヲ組織シ改良發展ノ策ヲ講ジタルノ結果

漸次其ノ生産ヲ高メ明治四十一年ニ至リ反數百六十萬價格百三十余萬圓ノ生産ヲ計上スルニ至リ目下同業組合員二百二十七人動力織機二千二百臺足踏機九百八十臺手織機二千五百臺ヲ算スルノ現況ヲ見ルニ至ル

二、組合ノ沿革 本郡ノ機業者間ニハ幕府時代ヨリ一致協同斯業ノ繁榮ヲ計ルノ目的ヲ以テ惠比須講ナル名稱ヲ有スル團體ヲ組織セラル、アリテ講員相互間警醒シテ能ク其目的ニ添ヒツ、アリシモ時世ノ變遷ト共ニ德義漸ク地ニ墜チ講ノ規約ヲ遵守スルモノナク斯カル趨勢ハ日ヲ逐フテ其度ヲ高メ明治二十二年ノ頃ニ至リテハ粗惡ナル輸入染料ヲ使用シ顧客ヲ瞞着シ一時ノ暴利ヲ貪ルモノ輩出シ毫モ本邦機業ノ前途ヲ顧慮スルモノナキニ至レリ之ガ爲メ本邦機業家ハ立ドコロニ其ノ報復ヲ受ケ相率ヒテ其ノ業ヲ廢セザルベカラザルノ悲境ニ沈淪セリ於茲斯業家中ノ先覺者之ヲ憂ヒ之ガ挽回策トシテ組合ノ設立ヲ發起シ縣郡當局者亦堅實ナル同業組合ヲ創立セシメ以テ刻下ノ悲境ヲ救濟セントシ特ニ吏員ヲ派シ直接當業者ニ就キ組合設立ノ急務ナルヲ説カシムル等兩者相俟テ明治二十五年七月漸ク創立ノ運ニ向ヒ銳意信用ノ挽回ニ意ヲ用ヒタリシモ組合員中尙公共的觀念ニ乏シク不正ノ利益ヲ獲得セントスルノ輩少カラズ粗製濫造ノ弊尙止マズ爲メニ再ビ市場ノ排斥ニ遭ヒ三十五年ノ如キハ一年ノ生産額漸ク十六萬反ニ減少スルノ衰運ニ陥リタルヲ以テ三十六年三月更ニ重要物産同業組合法ニ依リ其ノ組織ヲ改メ爾來今日ニ至ル、

三、製織並ニ染色ノ改良 從來本郡ノ織機ハ長機上機ノ手織機ノミニシテ其ノ製織ノ如キモ所謂出機ト稱スル賃織ヲ主トシ特ニ工場ヲ設ケテ一定ノ織機ヲ据付ケ製織スルガ如キコトナカリシヲ以テ其ノ製品一定セズ且織機及技工ノ劣惡ナル爲メ品質ノ粗卑ヲ免カレザリシモ明治三十三年組合員來住兼三郎等率先動力機ノ使用ヲ開始セルヨリ各自工場ヲ設置シ動力織機ヲ据付ケ認織ヲナスニ至リ其ノ他足踏織機ノ使用ト伴ヒ大ニ製織法ノ改良ヲ見ルニ至レリ次ニ染色ノ改良ニ於テ從來本郡機業ノ不振ハ主トシテ粗惡染料ノ使用ト染料ノ使用法ヲ誤リタルニ基クモノナルヲ以テ染色改良ノ一手段トシテハ郡ノ事業トシテ縣技師指導ノ下ニ簡易染色講習會ヲ開催シ縣技師及本郡技手等ヲ講師トシテ毎年二回乃至三回ノ講習ヲナシ當業者ノ子弟及ビ職工ノ教育ヲナシツ、アリ又去四十年八月非營利的模範共同染工所ヲ津萬村ニ設置シ斯業ニ精通セル技術員一名染色講習終了者十餘名ヲ置キ郡工業技手監督指導ノ下ニ染色ヲナサシメタルニ漸次其ノ範ニ倣ヒ共同染工所ヲ設置スルコト十箇所ノ多キニ及ビ中ニハ村是トシテ之ガ經營ヲ爲シ頗ル良果ヲ收メツ、アリ

四、製品検査 製品検査ノ議ハ十數年前ヨリ之ヲ唱導セシモ諸種ノ事情ニ妨ゲラレ容易ニ實施ヲ見ルニ至ラザリシモ明治四十年六月郡ニ工業技手ヲ置クニ至リ染色業者染工場及ビ機業家ヲ巡回シテ大ニ染色ノ改良ヲ勸メ注意ノ喚起ニ力メ一面検査ヲ施行シタリシモ單ニ一工業技手ノ巡回検査ノミニテハ到底充分ナル効果ヲ收メ難キヲ以テ同年十一月更ニ工業技手一名ヲ置キ製織品及ビ原料絲ノ

藥品豫備検査ヲ施行シ之ガ優劣ヲ決セシメ兩々相俟チテ製織品ノ改良ヲ計リ更ニ進シテ同年十二月組合ニ検査員ヲ置キ區域ヲ八箇所ニ分チ精密ナル検査ヲ爲シ優等合格不合格ノ三階級ニ區分シ合格ニアリテハ證紙ヲ貼用シ不合格ニハ證印ヲ押捺スル等其確實ヲ計リ四十二年二月又更ニ定款ヲ改メ製品検査ノ範圍ヲ擴張シ原料絲染絲及染料ノ配合ノ検査ヲモ行フコトトシ不合格品ノ處分方法ヲ嚴格ニスル等銳意改良ニカメツ、アリ

五、産業組合及其ノ他ノ施設①組合員及ビ其ノ使用職工ニ對シ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養成シ使用者ト被使用者トノ連鎖ヲ造リ兩者間ノ圓滿ヲ期スルト共ニ組合員ニ低歩ノ資金ヲ融通スル爲メ及ビ染織業ニ必要ナル器具機械ヲ備ヘ染織業ニ必要ナル原料物品ヲ共同購買シ組合員ノ製品ニ加工シ又ハ共同販賣スルノ目的ヲ以テ同業者全部ヲ網羅シ産業組合法ニ準據セル有限責任信用生産購買組合ヲ明治四十一年十一月ヲ以テ創設シ着々事業遂行ニ進ミツ、アリ今事業ノ一二ヲ叙センニ信用組合ノ部ニ於テ組合員及ビ其ノ使用職工ノ貯金ハ明治四十二年三月ヨリ實施シ現在組合員九百九十名アリ次ニ生産組合ノ部ニ於テ織物整理機ノ据付ケヲ計畫シ四十二年本縣ヨリ貸與ノ「シルケット」機及ビ仕上「ロール」ヲ据付ケヲ了シ其ノ運轉ヲナシツ、アルノ外組合一手ニ「シルケット」色染ヲナシ組合員ノ需用ニ應ジ配付シ且張工場ノ設置毛燒器ノ据付ケヲナシ織物整理ノ事業ハ漸次完成ヲ見ルニ至ラントシツ、アリ、又購買部ニ於テハ組合員所要ノ綿絲染料燃料等ノ共同購買ヲナシ組合員ニ配分使用

セシム而シテ製品共同販賣ノ部ニ於テハ組合ノ計算ニヨリテ取引ヲナスノ途ヲ開キ市場ニ於ケル信用ヲ維持ス其他改善發達ノ策トシテ組合ノ費用及ビ郡費補助ニヨリテ各地同業者ノ狀況販路ノ趨勢考察及ビ擴張其ノ他需用供給兩様ノ見本蒐集等ヲナスノ目的ニテ視察員ノ派遣各地博覽會品評會等ノ出品及ビ賣店ノ設置等發展擴張ノ策ニ汲々タルヲ見ル、

新潟縣

本縣ノ出品ハ見附、長岡ヲ主トシ龜田、加茂、村松、小須戸、葛塚、新潟等各組合ノ出品ヲ包擁シ點數亦鮮少ナラザレドモ前回ノ關東聯合共進會出陳ノモノニ比シ別ニ進歩ノ形跡ヲ認メズ之ヲ陳列區域ノ狀態ニ就テ考察スルモ前回ノ如ク全力ヲ傾注セザリシガ爲メカ甚振ハザルノ觀アリ殊ニ見附長岡ノ結城綿ニ於ケル柄合ノ一定ニシテ甚變化ニ乏シキノ點ハ前回ニハ之ヲ過渡ノ時代ニ屬スルモノナリトシ深ク云爲スルノ酷ヲ避ケタリシモ今日尙依然トシテ其ノ面目ヲ革新セザルハ大ニ遺憾トスル所ナリ當業者今ヨリ心ヲ意匠ト配色ノ研鑽ニ注グト共ニ織上後ノ處理ヲ講究シ以テ嗜好ノ變遷烈シキ現代ノ要求ニ應ズルヲ勉メナバ價格ノ低廉ト品質ノ着實トハ大ニ發展スルノ機運ニ會スベキヤ必セリ、當業者夫レ克ク三省セヨ、加茂、龜田、葛塚小須戸新潟等各組合地區内ノ出品ニ係ルモノハ染色ノ點ニ於テ稍改良ノ點ヲ認ムルモ柄樣組織共ニ未ダ幼稚ノ域ヲ脱スル能ハザルモノアリ唯ダ新潟市ヨリ出品ノモノハ點數鮮少ナレドモ組織精緻意匠優麗他組合ノモノニ比シ別ニ一頭角ヲ出セルヲ認ム

染色堅牢度試驗成績表

產地	品名	出品人	價格	染色試驗成績					
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾摩	擦濕
新潟縣長岡市	結城縞	佐田 新藏	一、六〇〇	二	二	二	二	二	二
同	スワン織	佐野 幸助	一、六〇〇	一	二	二	二	二	二
同	結城縞	山田 莊七	一、六〇〇	二	二	二	二	二	二
同	天狗織	宮島長四郎	一、六〇〇	二	二	二	二	二	二
同	結城縞	近藤甚五郎	一、六〇〇	二	二	二	二	二	二

見附織物同業組合業況一斑

一、沿革 見附ハ結城木綿ノ產地トシテ古來有名ナリシガ明治七八年頃ヨリ虎縞ト稱スル新規ノ織物出テ、流行ヲ極ムルニ至リ漸次粗製ノ品ヲ產出セシガ爲メ余響遠ニ結城縞ニ及ビ同地ノ信用ヲ失フニ至レリ明治十九年源川某主唱トナリ同業者ト相謀リテ見附正紺機業組合ナルモノヲ組織シ製品ヲ精良ニシ信用ノ回復ニ務ムルト共ニ正紺請合ノ證紙ヲ貼附シタリシカバ販路大ニ廣マリ舊日ノ觀ヲ呈スルニ至レリ爾來同業者協同一致種々研究ノ上見附結城縞、瓦斯結城縞、小倉帶地、袴地、紺無地等ノ製出ヲ勉メ一方ニハ明治三十四年見附節織組合ト稱スル絹織物業者ノ機關ト合併シ見附織物組合ト改稱シ着々物産ノ進歩ヲ圖リツ、四十年十月ニ至リ更ニ法律規定ノ下ニ同町外三ヶ村ノ同

業者ニテ見附織物同業組合ヲ組織セリ

二、累年産額 累年ノ綿織物及交織物産額ハ次ノ表ノ如シ

交織物	綿織物	三十八年		三十九年		四十年		四十一年	
		數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
數量	數量	五、六〇〇反	一〇、四一四	一〇、七六五	一四、五五九	三、二〇〇本	三、〇三三	一、四、六五八	三、〇三三
價格	價格	五、三六〇圓	一、二、七五五	一、一六、八九七	一、四、六五八	二、五〇〇圓	三、八七二	一、八一九	一、八一九
數量	數量	二、五〇〇圓	六、四六〇	二、七四、九六二	二、四、二八九	五、七五五反	二、四、九六二	二、四、二八九	二、四、二八九
價格	價格	四、五〇〇	四、八〇〇	五、〇	五、〇	四、五〇〇	四、四、四九三	三、九六七六	三、九六七六
數量	數量	四、五〇〇	五、五三二、一五五	九、〇四〇	五、五三二、一五五	五、五三二、一五五	五、五三二、一五五	五、五三二、一五五	五、五三二、一五五
價格	價格	五、五三二、一五五	九、〇四〇	九、〇四〇	九、〇四〇	九、〇四〇	九、〇四〇	九、〇四〇	九、〇四〇

三、販路 大阪、北海道、奥羽地方及ビ縣内トシ製造家ハ仲買者ヨリ注文ヲ受ケ期限ニ至リ現金ヲ

以テ品物ノ受渡ヲナス、又市場アリテ毎年一六ノ日ヲ以テ之ヲ開ク、

一、業務ノ趨勢並ニ現況

以前ハ所謂長岡双子縞ト稱シテ北海道及ビ東北地方ヘ盛ニ輸出セラレシガ粗製濫造ノ結果明治二十八九年頃ハ殆ンド絶無ノ状態トナリ機業家大ニ減少セリ次ニ双子ト共ニ其名高キハ節結城ニシテ原

ト米澤品ト競争ノ計畫ヨリ出デタルモノニシテ小林六四郎盛ニ信用ヲ博シテ販賣ニ從事シ商標
 至レル所常ニ敵ナキガ如シ、然ルニ石油事業ノ勃興スルヤ斯界ノ泰斗トモ稱スベキ小林及ビ野口某
 ノ如キハ石油業ニ從事シ野口ハ全ク廢業シタル爲メ斯業ハ大打撃ヲ蒙リ三十四五年ノ頃ニハ産額僅
 ニ二萬八千圓ニ過ギザルノ悲境ニ陥レリ然ルニ同地ノ人士田元郎ナルモノ遂ニ斯業ノ全滅ニ歸セン
 コトヲ憂ヒ先ヅ之ヲ挽回スルニハ協同一致ノ運動ヲ取ラザレバ成効スルコト難シトナシ長岡織物協
 會ナルモノヲ組織シ改良ノ第一着手トシテ双子其ノ他綿織物ノ原料ヲ人造染料ニテ染色スル事トセ
 リ其ノ堅牢ヲ保證シ且織方ノ優良ヲ表榜シテ強固ナル販賣法ヲ試ミタリシニ需用ノ好評ヲ博セルコ
 ト多大ナリ三十七年小林傳作ナルモノ機業家ト謀リテ結城縞ヲ製織セシニ染色ノ堅牢ニシテ而モ格
 安ナルヨリ越後結城ノ聲價頓ニ高マリツ、其ノ産出多大トナリシヨリ茲ニ於テ織物組合ヲ創立シ共
 同染色場トシテ旭組合、大和組合ノ二ヶ所ヲ設立セリ明治三十八年ニ長岡織物合資會社起リ長岡結
 城ノ販路擴張ヲ圖リツ、遂ニ關西市場ニ於テ他ノ生産品ヲ凌駕スルノ盛況トハナレリ爾來年毎ニ其
 ノ産額ヲ増加シ又法律ニ基キタル同業組合ヲ組織シ二個ノ共同染色場ヲ合同シテ其ノ設備ヲ完全ナ
 ラシメ又値立會ヲ開キ物價ノ變動ニヨリ値段ヲ一定ニシ大小機業家ノ利益ヲ均一ニシ販路ノ擴張ニ
 勉メタル等凡テ共同一致ノ方法ヲ取リタルガ爲メ同市ノ綿織物ハ結城縞ヲ主トシテ年額二十余萬圓
 ニ達スルノ盛況トハナレリ

二、累年産額 絹織物ヲ省ク織物ノ産額ハ次ノ表ノ如シ

合 計	其 他 綿 織 物	交 織 物	小 倉 織	白 木 綿	双 子 織	木 綿 織	結 城 織	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
								價 數	價 數	價 數	價 數	價 數
三三、八〇〇	一六、三三〇	一〇、八〇〇	九、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇	一〇、五〇〇	二二、一〇〇	三三、七〇〇	三〇、八〇〇	二二、三〇〇	二二、三〇〇
二九、八五〇	一四、七〇〇	一〇、八〇〇	九、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇	一〇、〇〇〇	二一、六〇〇	三三、〇〇〇	三〇、三〇〇	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇
三六、〇〇〇	一六、三三〇	一〇、八〇〇	九、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇	一〇、五〇〇	二二、一〇〇	三三、七〇〇	三〇、八〇〇	二二、三〇〇	二二、三〇〇
三三、五〇〇	一六、三三〇	一〇、八〇〇	九、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇	一〇、五〇〇	二二、一〇〇	三三、七〇〇	三〇、八〇〇	二二、三〇〇	二二、三〇〇
三三、五〇〇	一六、三三〇	一〇、八〇〇	九、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇	二、九〇〇	一〇、五〇〇	二二、一〇〇	三三、七〇〇	三〇、八〇〇	二二、三〇〇	二二、三〇〇

三、販路 双子綿時代ニハ北海道東北地方ヲ主トシ當時ハ大阪、東京、京都ヲ主トシテ全國至ラザル所ナシ

四、事業ノ機關 織物組合ハ明治ノ初年區々ノ組合アリタリシガ時ノ盛衰ニ從ヒテ其ノ存廢常ナラズ明治二十九年ニ至リ縣令ニ基キ機業組合ヲ組織シ更ニ四十年六月ニ至リ法定ニヨリ長岡織物同業組合ヲ組織セリ而シテ同市ニ於ケル組合員中ノ一團體ハ別ニ長岡物産組合ト云ヘルモノヲ組織シ取引ヲ公ニシ市價ヲ公平ニスル必要上值立會ヲ開キ結城越後綿並ニ越後綿ニシテ原料染色丈幅等ハ同業組合品位規定ニ從フコトトセリ、斯ノ如キ共同態度ニ於ケル當業者ハ一定ノ原料ヲ以テ一定ノ染色ヲナシ一定ノ賃金ヲ以テ生産ニ從事スルヲ以テ自然物産ノ價格ニ於テ一定セルコトトナレリ斯ル工業的經營ノ成績ハ染色原料、賃金、價格、品位、模様、色染、意匠等ヲ一定セシメ低賣セズ金融圓滿ニシテ數人ノ仲買間ニ自然競争アリテ販賣擴張ノ風ヲ生ジ機業家ハ各自ノ産額ヲ多カラシムル風ヲ爲シ各自ノ利益浸害ヲ互ニ戒ルコトトナレルノミナラズ該物産組合ニ加入セザルヲ不利トシ常ニ他ノ生産地ニ於ケル同種ノ物産ト競争スルノ風起リ其ノ各機關ハ責任ヲ有スル爲メニ當業者ハ就業ノ完全ヲ生ズル等同意ニ於ケル組合事業ノ成績ハ大ニ嘉スベキモノナリ、組合立長岡染織講習所ハ明治四十年ノ設立ニシテ四十一年度ヨリ縣並ニ市ヨリ補助ヲ得專任技手ヲ置キ當業者並ニ職工ノ爲メニ短期ノ講習ヲナスト共ニ地方物産ニ適等スル力織機其ノ他準備機ノ試験及ビ染色改善ノ研究ヲ

ナス次ニ組合ノ木綿製品ノ統一ヲ圖ルガ爲ニハ共同染工場アリ蒸氣整理ニヨリ仕上ヲナスニハ共同整理工場アリテ事業益々隆盛ニ赴ケリ

茨城縣

本縣ノ結城木綿ハ他縣ノ模倣品續出シテ價格競争ノ劇甚ナルノ結果ニヤ漸次其ノ特色ヲ消失シ殊ニ染色ハ從來ヨリ粗惡ニ流レザルヤノ疑アレトモ久シク舊態ヲ墨守スルノミナリシガ近來一般ニ柄合及用糸等ニ大ニ意ヲ注グニ至レル傾向ハ出品ノ上ニ歴然トシテ大ニ稱揚スベキナリ望ムラクハ百尺竿頭一步ヲ進メ完全ナル織物ヲ低廉ニ生産スルコトニ勉ムベキヲ

染色堅牢度試験成績表

産地	品名	出品人	價格	染色試驗成績						
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾摩擦	濕摩擦	日光
茨城縣結城郡	結城綿	加藤榮次郎	二、〇五〇	二	四	四	二	四	三	二
同	同	結城物産會社	一、五〇〇	一	四	三	二	四	三	二
同	同	小林要助	一、三〇〇	二	一	二	一	二	二	二

三重縣

本縣出品ノ縞木綿ハ殆ンド伊勢及松坂兩組合地區内ノ出品ニ係リ地質柄合一般ニ良好ニシテ之ヲ前回

ニ比スレバ霄壤ノ差アリト評スルモ敢テ過褒ノ辭ナラズト信ズ殊ニ染色大ニ改善セラレ整理ノ恰當ヲ得タルモノ少カラズ斯ノ如ク本縣織物ノ近時長足ノ進歩ヲ現出スルニ至レルハ實ニ前回共進會ノ刺戟ガ其ノ一大原因ヲナスモノニシテ爾來縣當局者ノ態度ハ一變シ指導獎勵ノ實ハ諸種ノ施設トナリテ現ハレ當業者亦奮起シテ改良發展ニ心力ヲ傾注シタル結果ニ外ナラズ然レドモ品質ノ均一ヲ缺ケル縞色ノ單調ナル整理ノ區々タル等算シ來レバ猶改善ヲ要スル點尠カラズ殊ニ出品ノ多數ヲ占ムル夜具縞ハ染色ノ方法概シテ佳良ナレトモ一般ニ色合甚野鄙ニ柄行モ亦陳腐ナリ今後急速ノ改善ヲ望ム

靜岡縣

本縣ノ所謂遠州縞ハ概シテ組織宜シキヲ得品質一定シ價格低廉且近時染色モ亦改善セラレ稍其ノ面目ヲ革新シタリト雖需用ヲ主ニ東北ニ求ムルガ爲メカ他ノ主要ナル産地ノ發達ニ比スレバ未ダ遲緩ノ誹ヲ免レザルナリ殊ニ柄合ノ陳腐ナル織上後ノ所理ニ恰當ヲ缺ケル共ニ綿布有數ノ主産地トシテ時流ニ後ル、ノ憾ナキ能ハズ、又主産地ノ通弊トモ見ルベキ時ニ奇利ヲ博センガ爲メニ品位ノ下降ヲモ願ミザルノ傾向ハ出品ニ於テ其ノ形跡ヲ示スガ如キハ最當業者ノ爲ニ取ラザル所ナリ若夫レ本縣機業者ノ唾手一番是等改善ノ實蹟ヲ舉グルニ至ラバ更ニ販路ヲモ四方ニ擴張スルヲ得ベシ

染色堅牢度試驗成績表

産地	品名	出品人	價格	染色試驗成績						
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾摩	擦濕	擦日光
靜岡縣濱名郡	縞木綿	鈴木 初藏	一、七〇〇	一	二	三	二	二	三	二
同	同	池川 琴治	二、〇〇〇	二	三	二	三	三	四	三
同	同	磯部才三郎	二、七〇〇	一	二	四	三	三	三	五

岐阜縣

本縣出品ハ殆ンド美濃縞及竹鼻兩織物組合ノ出品ニ係リ普通縞ニ次グニ夜具地、寧波布、被面、膠布等ヲ以テス、各品共絲質精良ニシテ組織ヨク整ヒ染色佳良ニシテ價格又低廉之ヲ前回ニ比スレバ體ニ進歩發達ノ跡アリ且地理上品質柄様ノ酷似セル愛知縣尾西織物ニ比スルモ一段ノ優良ヲ認ム之レ實ニ本縣當局ノ近時銳意改良發達ノ策ヲ講ジ諸種ノ施設ヲ以テ指導獎勵ノ實ヲ舉ゲタルト當業者亦奮テ此等ノ施設ヲ利用シ世運ノ發達ニ伴ハントヲ努メタルニ起因セズンバアラズ然レド仔細ニ出品ヲ觀察スルトキハ未ダ非難スベキ缺點ノ多々アルヲ認ム殊ニ織上後ノ所理ニ就キテハ各品トモ區々未ダ恰當ヲ得ザルモノ多シ、當業者益々改善ノ効ヲ奏セザルベカラズ、

福井縣

本縣ノ出品ハ所謂石田縞ニシテ點數割合ニ夥多ナルドモ製品ハ區々ニシテ技術幼稚意匠淺薄絶エテ優

尙ノ愛スベキモノアルヲ見ズ之ヲ以テ其ノ需用僅ニ一地方ニ止マリ未ダ一般ニ及ボスコトヲ得ズ是レ實ニ同地方當業者ノ爲メニ惜マザルヲ得ザルナリ當業者夫レ改善ノ一途ニ專精セヨ、

富山縣

本縣ノ出品ハ福野町附近ヲ主トシ富山市戸出町其ノ他ヨリ多少ノ出品アリ其ノ種類夥多ニシテ普通綿ニ次デ夜具綿、無地織、小倉等アリ孰レモ前回ニ比シ著シク發達セルノ形跡ヲ認ム殊ニ縮木綿中御召ノ柄樣ヲ模セルモノ多ク間々配色組織等ニ於テ優麗ナル佳品ヲ見ル又染色モ近來一般ニ改善セラレタルガ如シ是ヲ以テ漸ク其需用ヲ増シ産額年々逐テ増加スルノ勢アリ然レドモ製品ノ統一ト織上後ノ所理ニ恰當ヲ缺ケルハ大ニ遺憾トスル所ナリ當業者尙一層ノ研究ヲ重ネ益々發展ノ域ニ達センコトヲ希望ス

染色堅牢度試驗成績表

產地	品名	出品人	價格	染色試驗成績						
				溫湯	石鹼	曹達	酢酸	乾擦	濕擦	日光
富山縣中新川郡	縮木綿	深井久米次郎	二、五〇〇	五	三	四	五	三	四	二
同上新川郡	同	二ノ宮藤次郎	二、三〇〇	二	二	三	五	二	三	二
同東蠟波郡	同	林合名會社	二、八〇〇	二	四	四	二	一	二	三

福野織物同業組合業況一斑

一、福野綿並ニ組合ノ沿革 福野綿ハ文化年間、寺島某ノ縮ヲ製織セルニ濫傷スレドモ其ノ中興ト稱スベキハ明治十四年ニシテ足利ヨリ峯岸某ヲ聘シ機業改良上ノ指導ヲ受ケタルニ因ル、爾來諸種ノ改良ヲ施シ漸次産額ヲ増加セルモノニシテ明治二十一年福野製綿組合ヲ組織シ二十六年福野物産株式會社ヲ起シ原料絲ノ販賣ヲナシ當業者ノ便利ヲ謀ル同三十六年染色改良販路擴張製品検査等ヲナシ福野綿ノ名譽ヲ發揚センガ爲メ町長片岸友吉主唱トナリ福野製織同業組合ヲ組織セントシ同三十七年二月設立ノ認可ヲ得タリ四十一年福野染色株式會社ヲ設立シ以テ染色ノ統一ヲ計レリ

二、生産ノ狀況、商工兼營ニシテ重ナルモノハ森田合名會社平野合資會社林合名會社等ナリ、是等ハ工場ヲ有スルカ或ハ出機ニテ製造シ延取引ニテ加賀能登越前方面ト取引ヲナス四十二年産額ハ五十六萬圓ニシテ冬物ノ紡績綿大部分ヲ占メ近來ハ夏物トシテ白綿ヲ産ス染色ノ大部分ハ紺染ニシテ藍下ヲ施シ之ニ硫化染料ヲ上掛スルモノ多シ織機ハ普通手織機ヲ用ヒ「バツタン」ニテ製織ス然シテ製品ハ月六回ノ日ヲ定メ査定ヲ受ケ組合ノ検査ヲ經テ縣内及上述ノ地方ニ販賣ス

三、販路ノ消長 販路ハ主トシテ飛騨、加賀、能登、越前及北海道ナリ需用地ニ於ケル經濟狀態ノ良否ハ販路ニ影響スルコト勿論ナレドモ常ニ好評ヲ博シツ、ケリ

四、改良方法 改良セラレタル方法種々アレドモ就中特筆スベキハ紺染法ニシテ富山縣工業會ノ四